

福島大学

共生システム理工学類

学修案内

2022

(令和4年度入学者用)

【 授業時間帯 】

曜日 時限	月曜日 ~ 金曜日	土曜日
1時限	8 : 40 ~ 10 : 10	
2時限	10 : 20 ~ 11 : 50	
3時限	13 : 00 ~ 14 : 30	13 : 00 ~ 14 : 30
4時限	14 : 40 ~ 16 : 10	14 : 40 ~ 16 : 10
5時限	16 : 20 ~ 17 : 50	16 : 20 ~ 17 : 50
6時限	18 : 00 ~ 19 : 30	18 : 20 ~ 19 : 50
7時限	19 : 40 ~ 21 : 10	

共生システム理工学類の学生は、原則として、昼間の授業（月～金曜日の1～5時限）を履修します。
月～金曜日の6、7時限及び土曜日は、行政政策学類夜間主の授業時間帯です。

ただし、正規試験・補講期間の時間帯は次のとおりです。

（2022年度の正規試験・補講期間は前期が7月28日から8月5日まで、後期が2月4日から2月14日までの期間です。次年度以降は期間が変わります。）

曜日 時限	月曜日 ~ 金曜日	土曜日
1時限	8 : 40 ~ 10 : 10	
2時限	10 : 25 ~ 11 : 55	
3時限	12 : 45 ~ 14 : 15	13 : 15 ~ 14 : 45
4時限	14 : 30 ~ 16 : 00	15 : 00 ~ 16 : 30
5時限	16 : 15 ~ 17 : 45	16 : 45 ~ 18 : 15
6時限	18 : 00 ~ 19 : 30	18 : 45 ~ 20 : 15
7時限	19 : 45 ~ 21 : 15	

『学修案内』について

この『学修案内』は2022年3月時点の内容です。

『学修案内』は変更や修正になる可能性があります。

変更や修正は掲示板やLiveCampusで変更をお知らせしますので、見落としがないように注意してください。

～ 目 次 ～

1 . 福島大学の教育目標	1
2 . はじめに	
はじめに	3
学修案内を読む前に	6
3 . 履修に関する基本的事項	7
4 . 研究倫理に関して	19
5 . 福島大学のカリキュラム	
福島大学のカリキュラム	21
共生システム理工学類履修基準表	23
6 . ラーニングポートフォリオについて	
ラーニングポートフォリオについて	25
共生システム理工学類DPルーブリック	28
共生システム理工学類ディプロマ・ポリシー	29
7 . 教務関係日程表	30
8 . 基盤教育科目授業一覧表	32
9 . 接続領域の履修について	39
10 . スタートアップセミナーの履修について	42
11 . 英語、英語以外の外国語の履修について	47
12 . 教養領域の履修について	59
13 . キャリアモデル学習の履修について	67
14 . 問題探究領域の履修について	69
15 . 問題探究セミナーの履修について	72
16 . 学類・コースの紹介	76
17 . 専門教育、自由選択の履修について	81
18 . 特修プログラムについて	
放射線科学専修プログラム	98
地域と学ぶ未来の理科先生	99

19 . 免許・資格の取得について	
教育職員免許状	104
学芸員資格	114
公認心理師受験資格	116
20 . カリキュラム・ポリシー、カリキュラム・マップ	
カリキュラム・ポリシー	120
カリキュラム・マップ	122
21 . グローバル特修プログラムの履修について	131
22 . 地域実践特修プログラムの履修について	144
23 . 他学類の専門教育科目等の履修について	149
24 . 転学類について	151
25 . 他大学及び大学以外の教育施設等における学修の単位認定について	153
26 . 大学間交流協定に基づく学生派遣について	156
27 . 履修上の諸手続について	159
28 . 各種問い合わせ窓口・福島大学案内図	162

1 . 福島大学の教育目標

福島大学の教育目標

福島大学は、正規課程および課外活動等のあらゆる機会を捉えて、自ら学び、主体的な人生設計と職業選択を行うことのできる自立した人間の育成をめざします。

また、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故からの学びを活かし、「新たな地域社会の創造」に取り組み、人口減少や高齢化、環境・資源・エネルギー問題などの地域および世界の「21 世紀的課題」を自分事として捉え、複雑かつ困難な課題に果敢に挑戦する人材の育成を目標に掲げます。

そのために「問題基盤型学習」を教育理念としたカリキュラムを備え、確かな専門知識や技術、実践的なスキル、「解のない問い」に挑む態度などを身につけます。

2 . はじめに

はじめに

共生システム理工学類長 長橋 良隆

共生システム理工学類は、「人—産業—環境」に関するシステム科学を「共生」の観点から系統的に学修する「理・工」教育を行い、21世紀的諸課題に対し貢献できる人材養成を目的としています。福島大学における初めての理系学類として設置され、2005年4月に学生受け入れを開始しました。学類を卒業して大学院に進学する学生も多く、大学院共生システム理工学研究科では、自己の専門性を多面的な分野からアプローチすることによって高度化し、「共生」の視点から深化させることによって、新しいシステム科学を構築・発展・継承し、21世紀的諸課題の解決に実践的に貢献できる高度専門職業人・研究者を養成することを目的としています。共生システム理工学研究科は共生システム理工学専攻と環境放射能学専攻の2専攻からなり、博士前期課程では修士(理工学)の学位を、博士後期課程では博士(理工学)の学位を取得できます。また、2011年の東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故の後、2013年7月には、環境放射能研究所(IER)が本学附属研究所として設置され、所属教員は環境放射能学専攻における教育に携わっています。

共生システム理工学類に入学した皆さんは、理工学に関する専門的な知識や技能を学びたいと希望していると思います。あるいは、開発者や技術者または研究者など、具体的な職業を意識している方も多いと思います。当然ですが、専門的な知識や技能は一朝一夕に修得できるものではありません。他の大学と同様に、福島大学では、基盤教育と専門教育という2階建ての教育課程となっています。基盤教育では、理工学以外の科目について、主に初年次に学修します。理工学類の専門教育では、学類共通領域において、理工学に関わる分野を幅広く学修します。理工学に関わる専門的知識や技能は、それらを基盤として学修を積み上げることによって達成されます。さらに3年生の後期から取り組む卒業研究は、課題に対して実践的に対応できる能力を醸成する学士課程の集大成となります。皆さんには、理工学的知識と技能を身につけ、広く社会に羽ばたいて欲しいと願っています。それには、皆さん自身の能動的な学修はもちろんのこと、「共生」の観点からの幅広い知識と関心を持ち続け、困難を克服する挑戦的な心構えで、より良い未来を創造する皆さん自身の「システム科学」を構築してください。

もう一つ、皆さんにぜひ意識していただきたいことがあります。民法が改正され、皆さんは既に成年年齢(18歳)に達しています。既に国政選挙等で投票したという人もいるでしょう。2022年4月からは、成年に達すると、親の同意がなくてもローンなどの契約をする

ことが出来ます。しかし、飲酒・喫煙や競馬・競輪などの投票権を買うことは、これまでと変わらず 20 歳にならないとできません。皆さんは、あらゆる情報に容易に接することができますが、それは良いことばかりではなく、時には危険なことに引き込まれたり、皆さん自身の生活を大きく乱す原因にもなります。大学生となって、交遊範囲が広がり、大人として扱われることの高揚感や友人との深い語りなどを経験しつつも、4 年後の自らを見据えて、福島大学で学んだことを明確に主張できるように日々積み重ねてください。

学修案内を読む前に

1. 学修案内を読む前に（重要）

この学修案内は、共生システム理工学類とその各コースの紹介から始まり、福島大学のカリキュラム（教育課程）の構造、カリキュラムの各領域の科目とその履修方法などの説明、履修に関する基本的な事項の説明、特修プログラムの修得、そして教育職員免許状の取得などに関する説明、諸手続きに関する事項や関係規程などから成っています。履修にあたっては、別紙の「時間割表」、別冊子の「学生便覧」も併せて読んでください。

みなさんは、2年次前期にコース所属となり、各コースの履修基準に基づき学んでいくようになりますが、自分の所属する（あるいは所属しようとする）コースに関する部分だけでなく、とにかく全部に目を通して、重要事項は何なのか、必要な事項は何なのかを把握してください。

この学修案内は、4年間の履修計画を立てられるようになっていきますので、卒業まで大切に扱ってください。できれば通学の際に常時携帯してください。また、基本的な事項・情報を提供していますが、より詳細な事項は掲示やガイダンスなどで周知・説明が行われますので、そちらを見落としたり欠席しないように十分注意をする必要があります。学修案内の記載事項や掲示の見落としなどにより、卒業や資格取得ができなくなったとしても、それはみなさんの自己責任となります。

2. 教務関係日程表

2022年度の各種行事、手続き等の日程は示していますが、それ以外の手続き等についても、それぞれ期日を指定し掲示しますので、定められた期日を厳守してください。**指定期間以外は受付を一切行いませんのでご注意ください。**

また、日程は変更することもあり得るので、掲示に注意し、指定された期間内に必ず手続きを終えるようにしてください。

本学修案内に記載した日程はすべて2022年度の日程となっています。次年度以降は日付が異なります。時間割表については毎年度配付されます。その他の各種行事の日程は掲示等で周知します。

詳しくは、LiveCampus上にUPしてある日程表（年度毎に更新）を参照してください。

なお、日程表は下記のURLからもダウンロードできます。

<http://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/>

3 . 履修に関する基本的事項

履修に関する基本的事項

学修案内はみなさんが卒業するために、あるいは各種資格を取得するために必要な履修方法などの情報を掲載しています。よく読んで、それぞれ自分自身の「履修計画」を立ててください。

各学類には、卒業要件として履修基準表が示されています。履修基準表では、「接続領域」「教養領域」「問題探究領域」で構成される「基盤教育」に「専門教育」「自由選択」を加えて大きく3つに区分されています。基盤教育とは、大学での学修の基礎を築くとともに、よりよい社会を築くための現代的教養を身につけ、問題発見・追究・解決の基本を身につけることを念頭に置いた区分です。専門教育とは、基礎的科目の履修を重視しつつ、各学類・コースの教育目的、人材育成の目的を達成するために身につける専門的な知識や技術を学ぶための区分です。自由選択は、他学類や他コースの科目を横断的に履修して学際性の幅を広げることを念頭に置いた区分です。

学修案内に記載されない個別の連絡事項については、学類ごと所定の掲示板に掲示しますので、毎日立ち寄り確認してください。授業担当教員からの連絡事項などは、LiveCampus（ライブキャンパス/教務事項を含む統合WEBシステム。「LC」と省略します）の案内の場合もあるので、こちらも1日1回は確認してください。

学修案内の記載事項や掲示を見落として単位が修得できず、卒業や資格取得ができなくなったとしても、それはみなさんの自己責任となります。不明な点があれば、教務課の各学類係で確認してください。

学修案内の修正、変更は随時行います。掲示やLCでお知らせしますので、確認漏れのないようにしてください。特に4月・10月のセメスター始めは教室変更など多数の連絡事項が予想されます。

1. 授業時間帯、セメスターについて

(1) 単位と授業時間

大学で開講される科目にはそれぞれ**単位数**が定められています。みなさんが授業を受講し、担当教員によって一定の水準に達したと評価されたときにこの単位が認められます。卒業もしくは各種資格を取得するためには、定められた科目について単位の認定を受け、必要な単位数を修得しなければなりません。

授業科目の単位数は、「大学設置基準」により1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法や、授業時間外の学修等を考慮して大学が定めるとしています。

単位数計算の基準は、講義及び演習については、15～30時間の範囲で1単位。実験、実習及び実技については、30～45時間の範囲で1単位とされています。

これを受け、本学では毎週1コマ(90分)の授業を半期間(30時間)受講することにより、講義及び演習は2単位、実験、実習及び実技については1単位として認定しています。ただし、授業科目によっては異なる場合がありますので、各授業科目の単位数を参照してください。

なお、本学における1時限(単位数算出上の用語として1コマと称す)90分の授業は、設置基準上の2時間とみなします。

設置基準でいう45時間1単位を満たすためには、自宅等において自学自習(予習・復習)を行うことが求められていることに留意してください。

【 授業時間表 】

曜日 時限	月～金曜日	土曜日
1時限	8:40～10:10	土曜日は、昼間 開講科目の授業を 行わない。
2時限 (昼休み)	10:20～11:50 (11:50～13:00)	
3時限	13:00～14:30	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30	18:20～19:50
7時限	19:40～21:10	

専門科目の一部を夜間主の授業時間帯（網かけ部分）に開講することがありますので、注意してください。

夜間主の授業は、通常、平日の6・7時限、および土曜日の3・4時限に行われます。

(2) セメスター

本学では学年制は取っていないので、在学経過年とともに自動的に学年（年次と呼ぶ）が進行します。在学しなければならない4年間を年2期（4～9月を前期、10～3月を後期）に分け、各期を「セメスター」と言います（4年間で計8セメスターとなる）。このため、1年次前期は第1セメスター、同後期は第2セメスターとなり、順次進行してゆくことになります。

ただし、食農学類生については、各年次における進級要件が定めてあるため、進級要件を満たせなかった場合は、当該セメスターに留め置かれることになります。

2. 履修科目の登録手続きについて

- (1) 授業を履修するには、必ず履修登録をしなければなりません。履修登録は、インターネットに接続された学内外のパソコンから、「LC」に接続して行います。詳しくは、新入生ガイダンスで配付した「共通ガイドブック」を参照してください。なお、「LC」はパソコンでの使用を前提としたシステムであり、スマートフォンやタブレットでの動作は保証していません。ID・パスワードを忘れた場合は、情報基盤センターで再発行手続きを行ってください。電話での問い合わせには応じられません。
- (2) 定められた期間内に登録をしなかった授業科目については、いかなる理由があっても受講することは認められませんので注意してください。
- (3) 基盤教育科目や専門教育科目の一部には受講者の人数を制限する科目もありますのであらかじめ所定の手続きをとってください。
- (4) 特定の授業科目を履修した後でない受講できない等の制限が設けられている科目もありますので、学修案内・時間割表等で確認の上、登録するよう注意してください。
- (5) 次の場合、履修登録の際「LC」でエラーとなり、履修は認められませんので注意してください。

二重履修・・・同一時限に同時に開講する2つ以上の授業科目を履修すること。

特に、集中講義の日程が重ならないように注意してください。

すでに修得した授業科目（入学前の既修得単位として認定された科目を含む）と同一の授業を再び履修すること。

同時履修・・・同一の授業科目を同一セメスターに複数受講すること。

(6) 履修登録期間は教務関係日程表を参照してください。期間内に履修登録と履修登録内容の確認を「LC」の時間割表画面で行ってください。

(7) 授業科目の中には、教室の収容人員の都合上、受講者を制限するものがあります。

特に基盤教育の授業科目の受講調整は、毎年一定の手続きにしたがって行われます。

詳細は、接続領域、教養領域、それぞれの履修方法の説明で確認してください。専門教育科目でも同様に、受講者を制限する場合があります。また入学時におこなうガイダンスや掲示でも説明をおこないますので、必ず指示にしたがってください。調整対象となった科目は、受講許可を得なければ履修登録ができなくなるので十分に注意してください。

3. 試験及び成績について

(1) 試験及びレポートについて

試験について

試験には、厳格な規則（試験規則など）が適用される**正規試験**と、担当教員の判断で随時行われる**平常試験**があります。正規試験を欠席した場合には、追試験または履修登録撤回の手続きが認められた場合を除き、自動的に不合格となります。正規試験は、授業期間終了後の決められた期間（教務関係日程表参照）に実施されます。

正規試験を実施する科目は試験期間開始日の2週間前までに、正規試験の日程は試験期間開始日の1週間前までに発表されます。試験の時間割は、通常の授業の曜日・時間帯・教室等と異なる場合が多いので十分注意してください。

【試験期間の授業時間表】

曜日 時限	月～金曜日	土曜日
1時限	8:40～10:10	土曜日は、昼間 開講科目の試験 を行わない。
2時限	10:25～11:55	
(昼休み)	(11:55～12:45)	
3時限	12:45～14:15	13:15～14:45
4時限	14:30～16:00	15:00～16:30
5時限	16:15～17:45	16:45～18:15
6時限	18:00～19:30	18:45～20:15
7時限	19:45～21:15	

また、試験日程発表後に教室や実施日が変更になる場合もありますので、試験期間中の掲示には特に注意してください。

正規試験を受験する際の注意事項は、学生受験心得に定められていますので、受験の前

に熟読しておいてください。また、福島大学試験規則も同様に熟読してください。さらに、以下の事項にも留意してください。

追試験制度

病気その他やむを得ない事情により正規試験を受験できなかった場合は、追試験を認めることがあります。追試験の受験を申請する者は、所定の期間に追試験受験願を提出しなければなりません。その際に、病気の場合は医師の診断書、公共交通機関の遅延の場合は遅延証明書が必要となります。

公共交通機関の突発的な事故等による追試験は、以下を条件として認められることに注意してください。

- ・試験開始 5 分前に余裕をもって間に合うように、通常の公共交通機関を利用して登校しつつあったが、当該事故等によって試験開始時刻に遅れた。
- ・当該事故等について、試験日程の変更や試験開始時刻の変更などの措置がとられなかった。

不正行為に対する処分

不正行為（カンニング等）を行った場合、当該科目だけでなく、そのセメスターの履修登録がすべて取り消しになるほか、学則に基づき懲戒処分を受けることとなります。

学生証の携帯

学生証を携帯しなければ正規試験を受験することはできません。筆記試験の時間中は、学生証を机上の見やすいところに置いてください。

レポートについて

正規試験としてのレポート試験は、筆記による正規試験と同様の扱いとなります。すなわち、未提出者は正規試験を欠席したものとみなします。

上記以外のレポート（平常レポート）は、科目ごとの指示に従ってください。教務課窓口へ提出する場合は、教務課事務室前に設置されている平常レポートボックスに入れてください。なお、提出期限を過ぎたものは受け付けません。

レポートの体裁は、レポート試験・平常レポートともに必ず次のような表紙をつけ、担当教員から特に指示があった場合を除き、A4版 400字詰横書き原稿用紙を用い、複数枚の場合は必ずステープラー（ホチキス）で綴じて提出してください。

表紙見本
(本文は 2 枚目からとする)

科 目 名			
曜日・時限		曜日	時限
担当教員			
所属学類			学類
学籍番号			
氏 名			
提出年月日	年	月	日

【レポート作成の際の注意事項】

文献・電子書籍やインターネットの記述をレポートに利用する際には、利用した箇所が明らかになるように、必ず出典を明記してください。

以下の行為は**不正行為**です。絶対に行ってははいけません。「研究倫理に関して」を参照
作成者の許諾のあるなしに関わらず、他人が作成したレポートを盗用し、自分が作成したものと偽って提出すること。

出典を明らかにせずに、文献やインターネット上の記述 / 電子書籍の内容をコピーし、レポート作成に利用すること。

特に、インターネット上の記事を、出典を明らかにせず、単に「コピー / 貼り付け」してレポートを作成することは、著作権を侵害するという点で社会的にも許されない行為です。数個の記事を組み合わせてコピーした場合でも同様です。レポート作成において、文献やインターネット上の記事を利用する際のルールについてわからない場合には、担当教員に相談してください。

(2) 単位の認定及び成績評価について

本学の単位の認定は、各科目について次の5段階で評価し、S～Cを合格とします。各科目の評価方法等は、シラバスに明示されています。

単位の認定は、正規試験としての筆記試験やレポートによるばかりでなく、平常試験や平常レポート等で行われることもあります。

	評語	学修成果	評点	GP
合格	S	単位認定基準を満たし、かつすべての項目で優秀な学修成果をあげた	90点～100点	4
	A	単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた	80点～89点	3
	B	単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた	70点～79点	2
	C	単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた	60点～69点	1
不合格	F	単位認定基準の学修成果をあげられなかった	59点以下	0

GP (Grade Point) については、次頁を参照してください。

【単位認定上の注意事項】

- ・ 授業料を所定の期間に納入しなかった者（授業料全額免除者を除く）が履修する科目の単位認定は、授業料の納入が確認された後に行います。したがって、授業料未納によって除籍された者が当該年度（セメスター）に履修した科目は、単位を認定しません。
- ・ 集中講義の単位認定『セメスター』について
集中講義の日程ならびに単位認定『セメスター』については、履修登録手続き前に掲示します。開講日程（時間帯）が重複している場合は、二重履修となり履修できません。

(3) 成績発表について

各セメスターの成績発表日以降、「LC」で成績を確認することができます。各セメスターの成績発表日以降に当該セメスター分が追加されますので各自必ず確認してください。なお、紙での交付は行いません。成績の確認は、メンテナンス期間を除き随時可能です。

(4) 不服申立てについて

成績評価について不服がある場合には、セメスターごとの所定の期間内に申立てをすることができます。不服申立ては、「LC」により行います。申請方法等の詳細は、掲示によりお知らせします。

この「不服申立て」に対しては当該授業科目の担当教員が個別に対応します。ただし、非常勤講師担当の授業科目にかかわる「不服申立て」については教務課窓口で対応します。

成績に対する不服は、単に自分が期待した評価が得られなかったというだけでは、申し立てることはできません。「不服申立て」にあたっては、シラバスの成績評価基準による自己採点と得られた成績評価との間に明らかにギャップがあるなど、不服申立てを行うに足る合理的な根拠を明確に説明することが必要です。要件を満たさない申立ては受理されません。

4. GPA制度について

GPAとは何か - 「量」より「質」の学修

卒業するためには、124単位を修得しなければなりません。この「単位」は、大学における学修の「量」をカウントするものです。これに対して、GPAとは、大学で修得した単位の「質」(クオリティ)を測定する尺度です。

GPAは、学生が履修した科目の成績評価(S、A、B、C及びF)をそれぞれ4、3、2、1、0に点数化し(これをGPといいます)、履修科目の1単位当たり平均GPの値を計算します。本学では、例えば奨学金の募集上の基準や研究室への所属決定の際の基準など様々な形で利用されています。また、就職において成績を重視する企業も増えていますので、採用上の判断材料として使われる場合もあるようです。

GPAは、学修の「量」より「質」を求める制度ですので、1セメスター当たりの履修登録単位を制限するCap制度があります。

GPA制度は、履修登録した授業科目に対する学生の履修責任を前提としています。履修登録撤回の手続きをとらずに、ある科目の学修を途中で放棄した場合には、不合格と同様に扱われ、GPAを大きく引き下げることになります。このようなことにならないように、よく考えて履修計画を立ててください。その際、履修計画の手引きとして、シラバスがあります。シラバスには、その授業科目でどのようなことを学修するのか(授業概要・授業計画)、また学修の達成度をどのように評価するのか(評価方法)が、担当教員によって詳細に示されています。

もちろん、学修の「質」の向上は、学生の努力だけで達成されるものではなく、教員の教育責任も当然の前提となります。授業でよく理解できないところがあったら、オフィスアワーを利用して、直接担当教員に質問をしましょう。また、シラバスに書かれていた「評価方法」に照らして、成績評価に疑問を感じた場合には、授業担当教員に不服申立てをすることもできます。

GPAの最高点は4.0です。より高いGPAを獲得できるように、「量」だけでなく「質」の向上も目標として学修してください。

前頁の表で、S~Cの評価及び不合格Fを4~0に点数化したものをGP(Grade Point)といい、さらに、以下の式によって、1単位当たり平均GPの値を計算したものをGPAといいます。GPAは、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの値を計算します。

$$\text{GPA (Grade Point Average)} = \frac{(\text{修得した各科目の単位数} \times \text{Grade Point}) \text{の総和}}{\text{履修登録した科目の総単位数}}$$

(注) GPA対象外科目

全学類で共通	自主学修プログラム、インターンシップ、「N」評価科目（他大学等で修得した科目等の認定単位）
人間発達文化学類	特別支援学校教育実習（基礎及び応用）、教育実習（事前・事後指導含む）、保育実習・・・、日本語教育実習・・・、博物館実習、美術館実習、社会教育課題研究、社会教育実習
行政政策学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、キャリアモデル学習、コア・アクティブ科目
経済経営学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目
共生システム理工学類	教員免許取得のための科目のうち「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」に該当する科目、学芸員資格取得のための科目のうち「生涯学習社会と学校・家庭・地域」及び「博物館実習（自然系）」
食農学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、食農実践基礎演習、食農実践特別演習、フードスペシャリスト論、フードコーディネート論、調理学、調理実習（食農）

【GPA関連諸制度】

GPA制度の下には、これが有効に機能するようにさまざまな制度が設けられています。以下の(1)～(2)の制度を正しく理解していないと、GPAの計算に不利な結果を生ずる可能性がありますので、注意してください。なお、不合格（F判定）の科目を再履修して、C評価以上で合格した場合は、上書きされるので成績証明書には表示されません。教育実習などでの不合格（H）についても同様です。

(1) 履修登録上限（Cap）制度について

本学では、単位修得に必要な予習・復習の時間を確保し、さらに、受講科目の「単位認定基準」が達成されるように、セメスターごとに履修登録できる単位数の上限を設定しています。これを「Cap制度」といい、以下のようになっています。

1セメスター当たり24単位。（共生システム理工学類のみ30単位）

(注) Cap除外科目

全学類で共通	集中講義、自主学修プログラム、インターンシップ、外部検定試験や海外留学・語学研修、単位互換科目など、学外での学修が単位として認定される科目
人間発達文化学類	教職に関わる科目（免許取得を希望する教職登録者のみ。ただし、1年次は希望しない学生でも対象科目は除外）
行政政策学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目、社会教育実習、社会福祉課題研究、考古学実習、古文書学実習、博物館実習、コア・アクティブ科目、中国語コミュニケーション、英語コミュニケーション、English Presentations
経済経営学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目

共生システム理工学類	教員免許取得のための科目のうち「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」に該当する科目、学芸員資格取得のための科目のうち「生涯学習社会と学校・家庭・地域」及び「博物館実習（自然系）」
食農学類	要卒単位に計上されない教職に関わる科目

行政政策学類夜間主生については、行政政策学類夜間主学修案内「授業の履修について」も参照すること。

(2) 履修登録撤回制度について

履修登録をした科目について、授業内容が予想していたものと違っていた、または授業についていけない、などを理由にして所定期間内に手続きをした者に、履修登録撤回を認める制度を「履修登録撤回制度」といいます。

これは、上記のような場合に、学生の自主的な履修登録撤回によって、低いG Pを取得しG P Aが低下することを回避するための措置です。

履修登録撤回期間

具体的な日程は「教務関係日程表」により確認してください。

集中講義については、集中講義開始日の翌日まで履修登録撤回を認めます。ただし、食農学類開講の「畜産学特別実習」と「森林特別実習」については、履修登録撤回は認めません。また、共生システム理工学類の実習関係の集中講義に関しては、6月30日までを撤回期日とします。

履修登録撤回は、学生の履修計画を前提とした例外的な措置なので、ある科目を履修撤回した場合に、代わりに別の科目を追加登録することはできません。

なお、履修登録撤回の手続き期間経過後から授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに、病気や事故などやむをえない理由で、履修登録をした科目の受講を継続することが困難になった場合などは、例外的にさかのぼって履修登録撤回を認めることがあります。入院していた証明書などを添付の上、授業期間の最終日（集中講義の場合はその最終日）までに、教務課へ申請する必要があります。

(注) 履修登録撤回を認めない科目

全学類で共通	受講調整実施科目、スタートアップセミナー、キャリア形成論、健康運動科学実習、英語A、英語B、英語(夜間主)、英語以外の外国語(基礎、基礎(特設)、応用)、スポーツ実習、情報リテラシー、問題探究セミナー
人間発達文化学類	問題探究セミナー、卒業研究科目
行政政策学類	必修科目、単位互換を除く放送大学科目(夜間)
経済経営学類	「全学類で共通」欄のとおり(専門科目における制限は無し)
共生システム理工学類	必修科目

食農学類	すべての専門教育科目 ただし、集中講義を除く 集中講義のうち「畜産学特別実習」および「森林特別実習」 は撤回を認めない
------	--

5. シラバスについて

「シラバス (syllabus)」とは、「授業計画」のことで、授業名、担当教員名、講義目的、各回の授業内容、成績評価の基準や方法、予習・復習についての指示、教科書・参考書、履修条件などが記載されています。学生のみなさんは、履修計画の参考に使うほか、授業期間全体を通じた授業の進め方を確認し、各回の授業に求められる予習・復習の参考にすることができます。

履修計画を立てる際には、まず年度始めのガイダンス、学修案内によりその年度にどの科目を受講すべきか、受講可能であるかを確認します。学修案内の科目一覧には、授業の詳細な内容までは記されていませんので、シラバスを参照して履修計画を立てることになります。受講時には授業全体に対する現在の授業の位置づけの確認したり、予習・復習のためのアドバイス、参考書などが勉強の参考になりますので、必ず自分の目で確認してどんどん活用してください。

また、シラバスには当該科目に関連する DP (ディプロマポリシー) の各項目の割合が示されています。後段で説明がありますが、各学生の学修履歴の記録やふり返りなどのツールとしてラーニング・ポートフォリオ (L ポートフォリオ) 上で活用するためのものです。個々の授業を履修する際に特に意識する必要はありませんが、DP の各割合に応じてポイントが算出されるので、単に科目の単位 (評価) だけでなく、DP の達成度も客観的に計ることが可能です。L ポートフォリオでは入学時・各セメスター・卒業時に、自己評価、授業評価を行い、それを 4 年間積み上げ、卒業までの自己の成長を記録します。

(1) 「LC」のシラバス

福島大学では、学生の履修登録システムとして「LC」を導入していますが、履修登録時や授業履修時に参考になるように、各授業のシラバスも「LC」から閲覧できるようになっています。「LC」にログインし、「シラバス」の項目から履修したい授業科目を検索して参照してください。

なお、自宅やアパート等、大学外から「LC」のシラバスを参照したい場合は、<http://kyoumu.adb.fukushima-u.ac.jp/>より「LC」を選択し参照してください。

(2) 詳細シラバス

教員によっては、授業の最初の時間に、「LC」に掲載したシラバスに加え詳細なシラバスを配付する場合があります。また、授業時の資料配付やシラバスの補足などを教員のホームページ等で行っていることもありますので、オンライン版のシラバスや授業時のアナウンスを参考にしてください。

6. オフィス・アワーについて

学生は授業の前後や教員の都合の許す時間帯に、履修上の相談や授業に関する質問等を行うことが出来ますが、「オフィス・アワー」とは、教員 (非常勤講師を除く) が研究室等において、そうした相談や質問に応じるため、あらかじめ設定されている時間帯のことで

す。各教員は、毎週特定の時間帯をオフィス・アワーとして設定し、研究室等に待機しています。学生のみなさんは、オフィス・アワーを利用して研究室を訪れ、いろいろな質問や相談をすることができます。

大学の授業は、一般に、15回にわたって体系的に構成されているため、一つの疑問点をそのままにしていると、授業全体が理解できなくなるおそれがあります。まさに、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」です。また、疑問点を質問するばかりでなく、オフィス・アワーを利用して、その授業科目のより発展的な勉強をするのにはどうすればよいか、担当教員にアドバイスを求めるのもよいでしょう。各教員のオフィス・アワーの時間・場所等については「LC」のシラバスで調べることができます。

7. その他履修上の注意点

各セメスターの所定の期間に「履修登録」に関わる一連の手続きを怠った場合、当該セメスターの履修を認めないので、注意してください。

各科目の履修方法等に従い履修してください。これに反する履修は認めません。違反した場合、単位の修得ができなくなる場合があります。

指定された履修年次（セメスター）で単位を修得しないと、以降の学年での履修計画に支障を来すことがあるので、注意してください。

出席不良により、正規（平常）試験の受験を認めないことがあるので、注意してください。

講義等の録画・録音は、原則として認めません。ただし、やむを得ない場合は、担当教員の許可を得た上で認めることがあります。

4 . 研究倫理に関して

研究倫理に関して

一般的に、大学の役割は 教育、 研究、 社会貢献の 3 つだと言われており、大学に入学した皆さんは、「教育を受ける」立場にいと同時に「研究を行う主体」であると見なされます。そして、研究を行う上で最も重要なことのひとつに「研究倫理の遵守」が挙げられます。研究倫理とは、非常に簡単に言うと、研究において差別的な立場をとったり偏見による類推や断言をすることによって、過去や現在に生きる誰かを傷つけたり誰かの利益を損ねたりしないことや、研究を行う上で不正行為を行わないという研究を行う者全てが守らなければならない規範・規則や考え方のことです。

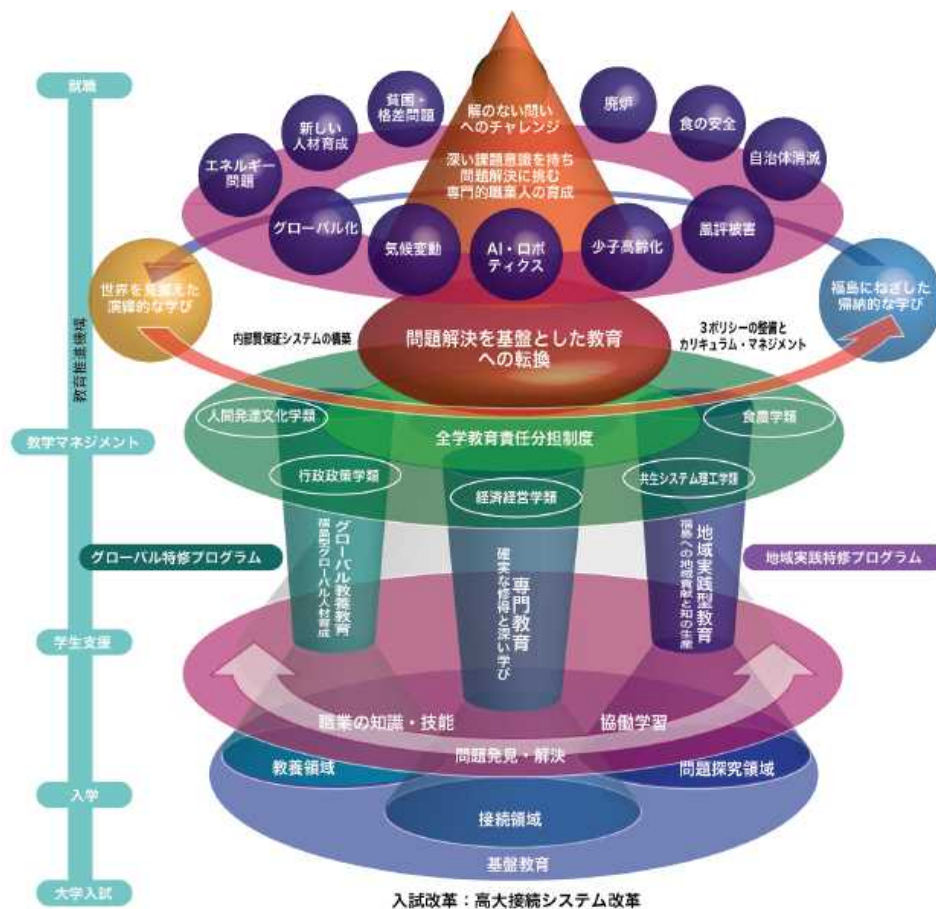
さて、先にも述べたように、皆さんは教育を受ける立場にいと同時に研究を行う主体でもあります。研究というと自分とは関係ないものであると思いがちかもしれませんが、しかし、大学では学問を「教えてもらう」のではなく、自ら主体的に問いを立て、探究し、学んでいく姿勢が求められます。また、自らが学んだことをレジュメやスライドにまとめてプレゼンテーションを行ったり、レポートを執筆するといった機会が数多く存在します。さらに、大学での学びの集大成として「卒業研究」を行い、その成果を「卒業論文」として執筆することが一般的です。これらの、皆さんが大学での学びの中で日常的に行わなければならないことの全てが学問研究の一部であることを自覚しなければなりません。では、具体的にはどのようなことに気をつければよいのでしょうか。ここでは、皆さんが 1 年生の時点から取り組む機会の多い「レポート」を例に見ていきましょう。

レポートを作成する際は、教員から提示された、あるいは自分で設定したテーマについて、文献を読んだり、関連する資料・データを収集・分析したりして考察を深めていく必要があります。インターネットの普及に伴って、これらは昔に比べて格段に容易になってきました。また、文章の作成も手書きではなくパソコン等を用いることがほとんどとなってきています。こうした ICT 技術を活用できることも、大学生にとっては非常に重要なスキルのひとつです。一方で、パソコンやインターネットは、「コピー&ペースト(コピペ)」によって他者が作成した文章や図表などをそのまま取り込んで使うことも容易にできてしまいました。少し難しい言葉になりますが、他者が作成した文章や図表などを勝手に自分のものとして使うことを「剽窃(ひょうせつ)」と言います。この剽窃という行為は研究不正の代表的なもののひとつであり、残念ながら、大学生が作成するレポートにおいても頻繁に見られるものです。レポートは必ず自分の言葉で書くことが基本となります。とは言え、先人の知見を参照することはレポートを作成する上では避けて通れません。そこで、他者の作成した文章や図表などをレポートに掲載する際は、「引用」を行い、誰の文章・図表等を引用したかを示す「出典」を明示する必要があります。引用と出典明示のルールや方法は、これからスタートアップセミナーや様々な科目で学ぶことであり、まだピンとこないかもしれません。しかし、この、「引用」と「出典の明示」を用いて、自分で作成したものと他者の作成したものを明確に区別しなければならないということは、現時点で強く認識しておいてください。

研究倫理を逸脱することは、明確な不正行為であり、単位の取消や場合によっては卒業できなくなってしまうような重大なことを自覚してください。研究倫理について学ぶ機会はきちんと用意されています。研究倫理を守り、皆さんが健全に学問研究に取り組んでいくことに期待しています。

5 . 福島大学のカリキュラム

福島大学のカリキュラム



(新しい福島大学の教育理念の概念図)

< 福島大学の教育理念 >

「問題解決を基盤とした教育」への転換

「解のない問題にチャレンジできる人材」の育成

福島大学は、これからの大きな社会の変化に主体的に対応し、新たな社会形成に貢献するため「解のない問題にチャレンジできる人材」を育成することを教育の目的とします。そのために教育理念を「問題解決を基盤とした教育」へ転換します。

福島県は東日本大震災・東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地として、21世紀の課題を他よりも一足先に経験した地域ということができます。加えて、世界的な人口増加や我が国の人口減少、それらに伴う経済問題や資源問題、環境問題、一方のグローバル化、テクノロジーの加速度的な発達、などの複雑で複合的な課題を解決するためには、教育の在り方を転換しなければなりません。それは、予め準備された答えを探すのではなく、現実から学び、粘り強く問題を探究し、学生自身が問題解決のプロセスに参加することが必要です。上に掲げた図は、このような考え方を概念的に示したものです。

別表 1

共生システム理工学類 履修基準表

領域区分	科目区分	開設科目等	履修年次	セメスター	1科目単位数	卒業要件			
						必修	選必		
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	1	2	2		
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論		1	1	2	2	
			健康運動科学実習		1	1	1	1	
	外国語コミュニケーション科目	英語A ・ A		1~	1~	1	4		
	教養領域	学術基礎科目	人文科学分野の科目		1~	1~	2	2	
			社会科学分野の科目		1~	1~	2	2	
			自然科学分野の科目		1~	1~	2	2	
		キャリア設計科目	キャリアモデル学習		2~	3~	2	2	
			インターンシップ		2~	3~	1又は2		
			ワーキングスキル		2~	3~	1又は2		
		健康・運動科目	スポーツ実習		1~	2~	1		
		外国語科目	英語B ・ B		2~	3~	1		
			応用英語		1~	1~	1		
			英語以外の外国語基礎 ・		1~	1~	1	4	
	英語以外の外国語基礎（特設） ・			1~	1~	1			
	英語以外の外国語応用 ・			2~	3~	1			
	情報科目	情報リテラシー		1~	1~	2			
	問題探究領域	問題探究科目		1~	1~	2	2		
自主学修プログラム			1~	1~	1又は2				
問題探究セミナー		問題探究セミナーI	1	2	2	2			
小計						34			
専門教育	学類共通領域	学類共通科目		1	1, 2	2	4		
		学類基礎科目	学類基礎科目A		1	1, 2	2	8	
			学類基礎科目B		1	1	2		4
			学類基礎科目C		1	2	2		4
	学類専門科目	共生の科学		3	5	2	2		
	コース領域	コース基礎科目（必修）		2~	3~	2	16		
		コース専門科目（選択必修）（注1）		2~	3~	2		24	
コース実践科目		問題探究セミナーIIを含む（注2）	2~	3~	1又は2	6	4		
演習	演習	演習 ・ 演習	3, 4	6, 7	2	4			
卒業研究	卒業研究	卒業研究 ・ 卒業研究	4	7, 8	2	4			
小計						80			
自由選択	自由選択領域（注3）					10			
全体					総計	124			

「選必」とは選択必修を示す。

教養領域の「英語以外の外国語」は同一言語で修得する。

教養領域の外国語科目必修4単位の履修方法は、「英語4単位」、「英語以外の外国語4単位」、「英語2単位+英語以外の外国語2単位」のいずれかとする。

卒業要件単位を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができる。

（注1）各コースで示されたコース専門科目（選択必修）のうち、指定の科目群からは12単位以上修得しなければならない。

（注2）問題探究セミナー は、4セメスターにて各コースのコース実践科目（必修）の科目として開講される。

（注3）学類共通領域において卒業要件を超過して修得した単位、配属されているコースのコース領域の各科目区分において選択必修の卒業要件を超過して修得した単位及び配属されているコース以外のコースのコース領域科目の各科目区分において修得した単位は、自由選択に計上することができる。

別表2

共生システム理工学類 履修基準表(外国人留学生)

領域区分	科目区分	開設科目等	履修年次	セメスター	1科目単位数	卒業要件		
						必修	選必	
基盤教育	接続領域	スタートアップ科目	スタートアップセミナー	1	1	2	2	
		ライフマネジメント科目	キャリア形成論	1	1	2	2	
			健康運動科学実習	1	1	1	1	
	外国語コミュニケーション科目	英語A ・ A	1~	1~	1	8		
	外国語科目	英語B ・ B	2~	3~	1			
		応用英語	1~	1~	1			
		英語以外の外国語基礎 ・	1~	1~	1			
		英語以外の外国語基礎(特設) ・	1~	1~	1			
	日本語科目	日本語 ~	1~	1~	1	9		
	日本事情	日本事情(~)	1~	1~	2			
	学術基礎科目	人文科学分野の科目	1~	1~	2			
		社会科学分野の科目	1~	1~	2			
		自然科学分野の科目	1~	1~	2			
	キャリア設計科目	キャリアモデル学習	2~	3~	2			
		インターンシップ	2~	3~	1又は2			
		ワーキングスキル	2~	3~	1又は2			
	健康・運動科目	スポーツ実習	1~	2~	1			
情報科目	情報リテラシー	1~	1~	2				
問題探究領域	問題探究科目		1~	1~	2	2		
	自主学修プログラム		1~	1~	1又は2			
	問題探究セミナー	問題探究セミナーI	1	2	2	2		
小計						34		
専門教育	学類共通領域	学類共通科目		1	1, 2	2	4	
		学類基礎科目	学類基礎科目A	1	1, 2	2	8	
			学類基礎科目B	1	1	2	4	
			学類基礎科目C	1	2	2	4	
	学類専門科目	共生の科学	3	5	2	2		
	コース領域	コース基礎科目(必修)		2~	3~	2	16	
		コース専門科目(選択必修)(注1)		2~	3~	2	24	
コース実践科目		問題探究セミナーIIを含む(注2)	2~	3~	1又は2	6	4	
演習	演習	演習 ・ 演習	3, 4	6, 7	2	4		
卒業研究	卒業研究	卒業研究 ・ 卒業研究	4	7, 8	2	4		
小計						80		
自由選択	自由選択領域 (注3)					10		
全体	総計					124		

「選必」とは選択必修を示す。

外国語コミュニケーション科目・外国語科目・日本語科目の中から母語・母国語系統言語を除く1カ国語で8単位を修得する。

「日本事情 ~」は、選択必修または自由選択の単位として計上することができる。

卒業要件単位を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができる。

(注1) 各コースで示されたコース専門科目(選択必修)のうち、指定の科目群からは12単位以上修得しなければならない。

(注2) 問題探究セミナーは、4セメスターにて各コースのコース実践科目(必修)の科目として開講される。

(注3) 学類共通領域において卒業要件を超過して修得した単位、配属されているコースのコース領域の各科目区分において選択必修の卒業要件を超過して修得した単位及び配属されているコース以外のコースのコース領域科目の各科目区分において修得した単位は、自由選択に計上することができる。

6 . ラーニングポートフォリオ について

1. ラーニングポートフォリオ (Lポートフォリオ) について

ラーニングポートフォリオ (LC 上は「Lポートフォリオ」という名称になっています。この文章上も以降Lポートフォリオで説明します。) は、自身の学修履歴の記録や学修の振り返りのツールで、LC上に構築されています。Lポートフォリオで自己評価を記録していくことにより、自身の能力向上への意識が強くなります。また、評価結果は授業やカリキュラムの改善にフィードバックされます。

Lポートフォリオを使う場合は、ネットワークに接続し、自身のコンピュータや大学のコンピュータを使って、LCにアクセスし、上部メニューから選択します。Lポートフォリオでは、次のことを行います。

(1) **キャリアノート**：自分自身の基礎情報や大学での学修目標、進路希望、学内外の活動・受賞歴などを記録します。

(2) **セメスターごとの自己評価**： 福島大学学生に期待する姿勢と能力 (全学 DP) や自分の所属する学類の DP (DP はディプロマ・ポリシーの略で、大学が学位を与える方針) に即して作られたルーブリック (評価基準表) で自己評価します。また、自己評価のコメントも記入します。

(3) **各種アンケート**：セメスター内で受講した授業に対する評価を記入したり、学生生活に関するアンケート、入学時や卒業時のアンケートに回答します。

(4) **その他**：教員免許状を取得する場合は教職履修カルテを記入したり、全学特修領域、英語の評価指標 (SELF) の自己評価、などを記入します。

これらは、基本的に各セメスター (学期) ごとに、指定された期間内に記入する必要があり、記入が完了することによって、次のセメスターの履修登録ができるようになります。

全学 DP、各学類のルーブリックは下記のとおりです。左側に能力の内容を示し、「克服すべきレベル」から「応用レベル」まで能力のレベルが記載されています。各項目の内容をよく読んで、自身が該当するレベルをLポートフォリオ上でマークしてください。

<全学 DP の 福島大学学生に期待する姿勢と能力 ルーブリック>

大項目*	中項目**	4 応用レベル	3 実用レベル	2 ミニマムレベル	1 スタートレベル	0 克服すべきレベル
最新の専門知識及び技術 (専門知識・技術)	資料の収集・分析・統合、語学、ライティング、プレゼンテーション、ディスカッションなどの基本的なアカデミック・スキル	ほとんどのアカデミックスキルが十分に身につけており、他者にアドバイスすることもできる	基本的なアカデミック・スキルを身に付けており、ある程度実用レベルに達している	授業以外でもアカデミック・スキルを身に付けようと努力している	大学で学修するためにアカデミック・スキルを身に付ける必要があることを理解できる	基本的なアカデミック・スキルが身につけていない
	最新の学問的知識や技術を身につけ、現代社会における自らの専門領域の役割を考え、知識や技術を改善したり更新したりする態度	自身の専門分野のより新しい知見を得ようとしており、それを社会に役立てようとしている	自分の専門分野では非専門とする者よりも確実に知識や技術を持っている	自分の専門分野に関する本やインターネットの記事を読んだり集めたりしている	自身が大学で身に付けるべき専門性を意識している	自身の専門性が曖昧で、力や意欲も足りない

本質を見極めるための教養と学際性 (教養と学際性)	物事の本質を見極めるための探究的態度と、自らの専門性や技術を対象化・客観化させるための幅広い教養の定着	身近な事象や社会的な事象を幅広い教養で受け止め、専門にこだわることなく探究しようとする	人文科学や社会科学、自然科学と自分の専門を関連付けることができる	自分の専門分野以外の本やインターネットの記事を日常的に読んでいる	教養を身に付ける必要性を理解している	探究的態度が弱く、教養の必要性を理解していない
	他領域の学問を学ぶことで自らの専門性を拡張させ、物事を総合的に、かつ俯瞰的に見るための知識のネットワーク構築	専門性を拡張させ、物事を総合的に見るために、幅広い知識のネットワークが構築できている	自身の専門領域以外に関心をもつ学問分野を持っており、知識をつなぎ合わせることができる	レポートを書くとき、自分の専門分野以外の領域にも言及することができる	知識と知識を関連付けることの必要性を理解している	知識が断片的で、自分の専門分野の意味も理解できていない
協働的な問題探究 (社会的スキル)	日常生活や国際社会に対する問題意識や、自らの専門性を生かして問題を発見し、問題解決に取り組むためのスキル	幅広い問題意識や問題発見・解決のスキルを実際の問題解決に活用できる	問題の持つ多様な側面を分析し、自分なりのアプローチで問題解決に向かおうとする	自分の関わる日常的問題について粘り強く問題解決に向けて努力することができる	日常生活や国際社会に対する問題意識を一定程度もっている	日常生活や国際社会に対する問題意識が弱い
	高度なリーダーシップやフォローシップなどのグループワークのスキルや、他者との協働による問題探究の実践	高度なグループワークのスキルが身につけており、他者と協働して問題探究できる	グループワークでリーダーシップを発揮することができ、全体がうまくいくように工夫できる	グループワークにおいて、自身の役割を意識して参加することができる	少々苦手であってもグループワークに参加することができる	グループワークのスキルが身につけておらず、他者との協働が苦手である
社会の改善につなげる創造性 (認知的スキル)	事実にもとづく客観的な社会の把握、および多面的にアプローチするためのデータ解析やフィールドワークなど様々なツールの駆使	様々なツールを駆使して、事実に基づき客観的に社会を把握できる	様々な知見に基づいてデータを分析し、事実に基づいてアイデアを生むことができる	本やインターネット、フィールドワークなどから、より客観的なデータを得ることができる	物事を一面的にとらえるだけではまずいことを知っている	主観的で、物事の把握が一面的である
	社会と自身の関係を問い直し、常識にとらわれない独創的で未来志向的な思考方法と失敗を恐れないうチャレンジ精神	独創的で未来志向的な思考方法と失敗を恐れないうチャレンジ精神を持ち、社会に貢献しようとする	自分の考えを理路整然と述べることができ、他者との違いを調整できる	うまく発表できないまでも、理屈に合った自分なりの考え方を持っている	他人に流されないう自分なりの考え方をしようとしている	一般的な考え方に流されやすく、これまでのやり方にこだわる
市民としての主体的態度 (態度や価値観)	東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の被災地に学ぶ者として、被災地の概要を知り、被災地に寄添い共感的にアプローチする態度	被災地に学ぶ者として、現状を十分に理解しており、被災者に共感的にアプローチできる	被災地の特定分野や特定地域に関心をもっており、復興に必要な術を考えることができる	関係授業、フィールドワークや学習会に参加するなどして自分なりに情報を集めたことがある	福島大学が東日本大震災・原発事故の被災地であることを意識している	東日本大震災への関心が薄く、被災地への共感が薄い
	地域の抱える課題を社会が直面する21世紀的課題として捉え直し、主体的に探究しようとする態度	地域の抱える課題を社会が直面する21世紀的課題として捉え直し、主体的に探究しようとする	身近な課題を世界が直面するグローバルな課題と関連付けてとらえ、探究しようとする	すべてではないにせよ地域や社会の抱えている課題の現状を知っている	少子高齢化や環境問題などの現代社会が抱えている課題に関心をもっている。	日本や世界全体が直面している課題への関心が薄い

* 大項目は 福島大学生に期待する姿勢および能力 を表します。

** 中項目は「大項目」の下位に属する具体的な説明を表します。

共生システム理工学類DPルーブリック

大項目	中項目	4 応用レベル	3 実用レベル	2 ミニマムレベル	1 スタートレベル	0 克服すべきレベル
幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性	理工学的な基礎知識	理工学分野のほとんどの基本的なアカデミック・スキルが十分に身につけており、他者にアドバイスすることもできる	理工学分野の基本的なアカデミック・スキルを身につけており、ある程度実用レベルに達している	授業および授業以外でも理工学分野のアカデミック・スキルを身につけようと努力している	大学で学修するために理工学分野のアカデミック・スキルを身につける必要があることを理解している	理工学分野の基本的なアカデミック・スキルが身につけておらず、その必要性も理解していない
	文系理系の枠を超えた幅広い領域の基礎理解	自身の専門領域だけでなく、人文科学や社会科学の知見を高度に融合させて、多角的・総合的な視点で捉えることができる	自身の専門領域だけでなく、人文科学や社会科学の知見を踏まえて、文理融合的な視点で捉えることができる	人文科学や社会科学の基本的な知見を有しており、自然科学分野の自身の専門を関連付けることができる	文理融合の知見を身につける必要性を理解している	探究的態度が弱く、文理融合の必要性を理解していない
	専門領域を学び続ける姿勢と専門性の確立	自身の専門領域の知識や技術を確実に持っており、かつ、より新しい知見を得ようと努力し、知見の更新を継続することができる	自身の専門領域では非専門とする者よりも確実に知識や技術を持っている	自身の専門領域に関する文献や資料を主体的に読んだり集めたりしている	自身が大学で身につけるべき専門性を意識している	自身の専門性が曖昧で、学力や意欲も足りない
論理的で的確な立案力と決定力	主張を論理的に表現する力	専門性を拡張させ、物事を総合的に認識し、見解の異なる理論も含めて幅広い知識を活用した論理的な説得力のある説明ができる	自身の専門領域以外の関連する学問分野の知見も活用し、より幅広い根拠に基づく説得力のある論理展開ができる	自身の専門領域を中心とした知識をつなぎ合わせ、根拠に基づいた論理展開ができる	知識と知識を関連づけ、根拠に基づいて論理を展開することの必要性を理解している	知識が少なく断片的で、論理的に思考することが難しい
	立案し決定する力	社会の変化や不確実性も考慮して、課題に対する学際的で優れた改善案等を立案するとともに、社会の多様な主体や基準に基づいて決定することができる	自身の専門領域以外の関連する学問分野も活用して、課題に対する実効的な改善案等を立案するとともに、多様な基準に基づいて決定することができる	自身の専門領域を中心として、課題に対する改善案等を立案し、相対的に良い案を判断することができる	課題に対する改善案等を立案し、社会的視点や基準に基づいて決定することの必要性を理解している	課題に対する自身の案を考案することができず、決定するための視点や基準も理解できていない
学際的・国際的に実践する力	国際的に活躍するために必要な語学力	国際的な社会や学術的活動において、英語を用い、自分と他者で議論して、結果のとりまとめや新たな提案をすることができる	国際的な社会や学術的活動において、英語を用い、自分の意見を説明して、他者と議論することができる	国際的な社会や学術的活動において、英語を用い、自分の意見を説明することができる	国際社会に対する関心があり、英語の語学力を身につける必要性を理解している	国際社会に対する関心が低く、英語の基礎的な語学力が身につけていない
	専門領域が異なる人に対しても情報発信し交渉を行なう力	高度なグループワークのスキルが身につけており、専門領域の異なる他者との協働においてリーダーシップを発揮し、効果的な結論を導き出すことができる	専門領域の異なる他者とのグループワークに参加し、自身の専門の役割を果たすとともに、協働による相乗効果を生み出すことができる	専門領域の異なる他者とのグループワークに参加し、自身の専門の役割を果たすことができる	専門領域の異なる他者との協働の必要性を理解している	専門領域の異なる他者との協働に関心が無い
積極的かつ持続的な貢献意識	倫理的な行動を選択する姿勢	科学技術と社会との関係において、技術者倫理や環境倫理の観点から望ましい判断と行動ができるだけでなく、社会にも広げることができる	科学技術と社会との関係において、技術者倫理や環境倫理の観点から、望ましい判断と行動をすることができる	科学技術と社会との関係において、求められる技術者倫理や環境倫理に関する基本事項を理解している	科学技術と社会との関係において、倫理的な行動の必要性を理解している	科学技術と社会との関係において、倫理的な行動の必要性を理解していない
	貢献し続ける熱意	社会が直面している問題について、自分の専門領域だけでは解決できないような大きな課題に立ち向かい、粘り強く取り組むことができる	社会が直面している問題について、自分の専門領域に関わる範囲で解決策を提示するとともに、継続して改善案を模索できる	社会が直面している問題について、自分の専門領域に関わる範囲で解決策を提示することができる	社会が直面している問題について、解決のために貢献することの必要性を理解している	社会が直面している問題について、解決のために貢献しようとする姿勢が見られない

共生システム理工学類

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

【共生システム理工学類の教育目標】

本学類は共生システムの名の下に、人・産業・環境が共生する社会を構築するために必要な学問を総合的・実践的に学ばせ、21世紀の社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を養成します。

【学類ディプロマ・ポリシー】

本学類は、基礎的な理工学的知識を習得し、自ら専門性を高め、よりよい社会の構築に向けて専門性を活用できる理工系人材を養成するため、「専門力」「決定力」「実践力」「貢献力」の四つの能力の観点からディプロマ・ポリシーを定めます。

・幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性

理工学的基礎知識を幅広く有し、文系理系の枠を超えた幅広い領域への関心を有した上で、自ら選択した専門領域において自主的・継続的な学習を行ない、確かな専門性を身につけたこと。

・論理的で的確な立案力と決定力

自らの主張を論理的に表現でき、立場の違う相手を理解し尊重する姿勢を持ち、冷静な討議を行ない、現状を的確に把握した上で立案し、決定する能力を有すること。

・学際的・国際的に実践する力

専門領域や国を越えて情報発信及び交流する能力を有し、課題の解決に向けて自らの専門性を活かすと共に、様々な人と協同して行動できること。

・積極的かつ持続的な貢献意識

地域の課題から国際的な課題まで現実の課題に貢献し続ける熱意を持ち、倫理的な行動を選択する姿勢を持ち、困難に直面しても挫けない心を持つこと。

7 . 教務關係日程表

8 . 基盤教育授業科目一覽表

令和4年(2022)年度 基盤教育科目授業一覧表

キャリア形成論

205(2F演習室)(情報基盤センター)

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	キャリア形成論(人)	川田 潤・富永 美佐子・小野原 雅夫・保木井 啓史	水	2	1	2	遠隔	
前期	キャリア形成論(行)A	西田 奈保子	水	2	1	2	遠隔	
前期	キャリア形成論(行)B	新藤 雄介	水	2	1	2	遠隔	
前期	キャリア形成論(経)	若井 秀樹	水	2	1	2	L-1	
前期	キャリア形成論(理)	吉田 龍平	水	2	1	2	L-4	
前期	キャリア形成論(食)	小山 良太	水	2	1	2	205(2F演習室)	

健康運動科学実習

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	雨天時 教室	備考
前期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	2	1	1		行政政策学類
前期	バスケットボール	杉浦 弘一	月	2	1	1	S-41	
前期	サッカー	(非)黒澤 尚	月	2	1	1	S-43	
前期	卓球	(非)渡部 琢也	月	2	1	1		
前期	ゴルフ	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1	S-44	
前期	ゴルフ	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1		
前期	ソフトボール	蓮沼 哲哉	月	3	1	1	S-33	人間発達文化学類
前期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	3	1	1	S-41	
前期	卓球	(非)渡部 琢也	月	3	1	1		
前期	バスケットボール	本嶋 良恵	月	3	1	1	S-43	
前期	サッカー	(非)黒澤 尚	月	3	1	1	S-44	
前期	テニス	安田 俊広	月	3	1	1		
前期	バドミントン	(非)工藤 孝幾	火	3	1	1		
前期	テニス	安田 俊広	火	3	1	1	S-41	経済経営学類
前期	バレーボール	小川 宏	火	3	1	1		
前期	フィットネス	本嶋 良恵	火	3	1	1	S-42	
前期	アルティメット	杉浦 弘一	火	3	1	1	S-43	
前期	ゴルフ	川本 和久	火	3	1	1		
前期	バドミントン	竹田 隆一	金	3	1	1		
前期	卓球	小川 宏	金	3	1	1	S-41	共生システム理工学類
前期	バスケットボール	杉浦 弘一	金	3	1	1	S-44	
前期	ソフトボール	(非)諏訪 雅貴	金	3	1	1		
前期	バスケットボール	杉浦 弘一	金	4	1	1	S-41	食農学類
前期	ソフトボール	(非)諏訪 雅貴	金	4	1	1		
前期	卓球	小川 宏	金	4	1	1	S-44	

英語A・A

LL教室、AV教室(M講義棟3階)

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語A 01	(非)芝田 直久	月	2	1	1	S-23	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語A 02	佐久間 康之	月	2	1	1	S-14	
前期	英語A 03	佐々木 俊彦	月	2	1	1	S-35	
前期	英語A 04	吉高神 明	月	2	1	1	S-11	
前期	英語A 05	(非)九頭見 理香	月	2	1	1	S-33	
前期	英語A 06	(非)渡邊 真由美	月	2	1	1	S-36	
前期	英語A 07	(非)植竹 大輔	月	2	1	1	S-38	
前期	英語A 08	(非)志子田 真由子	月	2	1	1	S-31	
前期	英語A 09	(非)ジョン・ティルマント	月	2	1	1	S-34	
前期	英語A 10	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	2	1	1	S-22	
前期	英語A 21	松浦 浩子	月	3	1	1	L.L	行政政策・経済経営学類
前期	英語A 22	佐々木 俊彦	月	3	1	1	S-35	
前期	英語A 23	(非)渡邊 真由美	月	3	1	1	S-36	
前期	英語A 24	(非)植竹 大輔	月	3	1	1	S-38	
前期	英語A 25	(非)芝田 直久	月	3	1	1	S-32	
前期	英語A 26	(非)志子田 真由子	月	3	1	1	S-31	
前期	英語A 27	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S-21	
前期	英語A 28	(非)ジョン・ティルマント	月	3	1	1	S-34	
前期	英語A 29	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	3	1	1	S-22	
前期	英語A 30	(非)齊藤 元康	月	3	1	1	S-42	
前期	英語A 61	佐久間 康之	火	4	1	1	S-14	食農学類
前期	英語A 62	(非)長谷川 明子	火	4	1	1	S-21	
後期	英語A 11	(非)芝田 直久	月	2	1	1	S-23	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語A 12	高木 修一	月	2	1	1	S-41	
後期	英語A 13	佐々木 俊彦	月	2	1	1	S-35	
後期	英語A 14	吉高神 明	月	2	1	1	S-11	
後期	英語A 15	(非)九頭見 理香	月	2	1	1	S-33	
後期	英語A 16	(非)渡邊 真由美	月	2	1	1	S-36	
後期	英語A 17	(非)植竹 大輔	月	2	1	1	S-38	
後期	英語A 18	(非)志子田 真由子	月	2	1	1	S-31	
後期	英語A 19	(非)ジョン・ティルマント	月	2	1	1	S-34	
後期	英語A 20	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	2	1	1	S-22	
後期	英語A 41(上級)	松浦 浩子	月	2	1	1	L.L	食農学類七受講可
後期	英語A 42(基礎)	(非)齊藤 元康	月	2	1	1	S-42	
後期	英語A 31	松浦 浩子	月	3	1	1	L.L	行政政策・経済経営学類
後期	英語A 32	佐々木 俊彦	月	3	1	1	S-35	
後期	英語A 33	(非)渡邊 真由美	月	3	1	1	S-36	
後期	英語A 34	(非)植竹 大輔	月	3	1	1	S-38	
後期	英語A 35	(非)芝田 直久	月	3	1	1	S-32	
後期	英語A 36	(非)志子田 真由子	月	3	1	1	S-31	
後期	英語A 37	(非)長谷川 明子	月	3	1	1	S-21	
後期	英語A 38	(非)ジョン・ティルマント	月	3	1	1	S-34	
後期	英語A 39	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	3	1	1	S-22	
後期	英語A 40	(非)齊藤 元康	月	3	1	1	S-42	
後期	英語A 43(上級)	吉高神 明	月	3	1	1	S-11	食農学類七受講可
後期	英語A 44(基礎)	飯嶋 良太	月	3	1	1	A.V	
後期	英語A 71	佐久間 康之	火	4	1	1	S-14	食農学類
後期	英語A 72	(非)長谷川 明子	火	4	1	1	S-21	
後期	英語A 91(基礎)	佐々木 俊彦	火	4	1	1	S-35	

前期	英語 A	61	(非)植竹 大輔	木	2	1	1	S-38	食農学類
前期	英語 A	62	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	2	1	1	S-22	
前期	英語 A	63	高田 英和	木	2	1	1	S-23	
前期	英語 A	01	坂本 恵	金	1	1	1	S-32	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語 A	02	村上 雄一	金	1	1	1	L-L	
前期	英語 A	03	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S-33	
前期	英語 A	04	(非)猪井 新一	金	1	1	1	S-23	
前期	英語 A	05	(非)長谷川 明子	金	1	1	1	S-21	
前期	英語 A	06	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S-43	
前期	英語 A	07	マッカーズランド・フィリップ	金	1	1	1	S-38	
前期	英語 A	08	(非)ジョン・ティルマント	金	1	1	1	S-34	
前期	英語 A	09	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	1	1	1	S-22	
前期	英語 A	10	佐藤 元樹	金	1	1	1	S-28	
前期	英語 A	21	川田 潤	金	3	1	1	S-14	行政政策・経済経営学類
前期	英語 A	22	照沼 かほる	金	3	1	1	S-33	
前期	英語 A	23	後藤 史子	金	3	1	1	S-31	
前期	英語 A	24	(非)齊藤 元康	金	3	1	1	S-42	
前期	英語 A	25	(非)長谷川 明子	金	3	1	1	S-21	
前期	英語 A	26	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S-43	
前期	英語 A	27	(非)ジョン・ティルマント	金	3	1	1	S-34	
前期	英語 A	28	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	3	1	1	S-22	
前期	英語 A	29	(非)フィデルディ	金	3	1	1	S-36	
前期	英語 A	30	久我 和巳	金	3	1	1	S-35	
後期	英語 A	71	(非)植竹 大輔	木	2	1	1	S-38	食農学類
後期	英語 A	72	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	2	1	1	S-22	
後期	英語 A	73	高田 英和	木	2	1	1	S-23	
後期	英語 A	11	坂本 恵	金	1	1	1	S-32	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語 A	12	久我 和巳	金	1	1	1	S-35	
後期	英語 A	13	(非)九頭見 理香	金	1	1	1	S-33	
後期	英語 A	14	(非)猪井 新一	金	1	1	1	S-23	
後期	英語 A	15	(非)長谷川 明子	金	1	1	1	S-21	
後期	英語 A	16	真歩仁 しょうん	金	1	1	1	S-43	
後期	英語 A	17	マッカーズランド・フィリップ	金	1	1	1	S-38	
後期	英語 A	18	(非)ジョン・ティルマント	金	1	1	1	S-34	
後期	英語 A	19	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	1	1	1	S-22	
後期	英語 A	20	佐藤 元樹	金	1	1	1	S-28	
後期	英語 A	41(上級)	川田 潤	金	1	1	1	S-14	食農学類も受講可
後期	英語 A	42(基礎)	高田 英和	金	1	1	1	S-36	食農学類も受講可
後期	英語 A	31	川田 潤	金	3	1	1	S-14	行政政策・経済経営学類
後期	英語 A	32	照沼 かほる	金	3	1	1	S-33	
後期	英語 A	33	後藤 史子	金	3	1	1	S-31	
後期	英語 A	34	(非)齊藤 元康	金	3	1	1	S-42	
後期	英語 A	35	(非)長谷川 明子	金	3	1	1	S-21	
後期	英語 A	36	真歩仁 しょうん	金	3	1	1	S-43	
後期	英語 A	37	(非)ジョン・ティルマント	金	3	1	1	S-34	
後期	英語 A	38	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	3	1	1	S-22	
後期	英語 A	39	(非)フィデルディ	金	3	1	1	S-36	
後期	英語 A	40	久我 和巳	金	3	1	1	S-32	
後期	英語 A	43(上級)	佐藤 元樹	金	3	1	1	S-28	食農学類も受講可
後期	英語 A	44(基礎)	福富 靖之	金	3	1	1	S-35	食農学類も受講可

人文科学分野

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	言語・文学	井實 充史・半沢 康	月	1	1	2	遠隔	受講者数164人に制限
前期	心理学	岸 竜馬	木	1	1	2	遠隔	
前期	精神疾患とその治療	片山 規央	金	2	1	2	遠隔	
後期	哲学	(非)嶺岸 佑亮	月	1	1	2	遠隔	
後期	美術	加藤 奈保子	月	1	1	2	遠隔	受講者数164人に制限
後期	倫理学	小野原 雅夫・樋口 良之	水	2	1	2	M-24	
後期	心理学	住吉 子力	木	1	1	2	遠隔	受講者数150人に制限
後期	ことばの仕組み	福富 靖之	木	1	1	2	遠隔	
後期	言語・文学	佐藤 佑敏・高橋 由貴・溢澤 尚	金	2	1	2	遠隔	

社会科学分野

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	若者・学校・社会	呉 書雅	月	1	1	2	遠隔	
前期	経済学	佐藤 英司	月	1	1	2	遠隔	経済経営学類生履修不可
前期	政治学	西田 奈保子	木	1	1	2	遠隔	受講者数362人に制限
前期	ジェンダー学入門	高橋 準	金	2	1	2	遠隔	受講者数150人に制限
後期	日本国憲法 01	阪本 尚文	月	1	1	2	遠隔	行政政策学類生履修不可 / 受講者数200人に制限
後期	経営学	金 善照	月	1	1	2	遠隔	
後期	日本国憲法 02	(非)二瓶 由美子	水	2	1	2	L-4	行政政策学類生履修不可
後期	農業と人間	生源寺 真一	木	1	1	2	L-3	
後期	歴史学	阿部 浩一・菊地 芳朗・鍵和田 賢	木	1	1	2	遠隔	
後期	地理学	末吉 健治	金	2	1	2	L-1	

自然科学分野

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	食品の機能	熊谷 武久	月	1	1	2	遠隔	受講者数350人に制限
前期	食と健康	升本 早枝子	木	1	1	2	遠隔	受講者数150人に制限
前期	物質の科学	中村 和正	金	2	1	2	遠隔	
後期	マセマティカル・サイエンス	西嶋 大輔・笠井 博則	月	1	1	2	L-1	
後期	人体の構造と機能及び疾病(医学概論)	(非)小室 安宏	水	2	1	2	遠隔	
後期	環境の科学	永嶋 幸司・川崎 興太・後藤 忍	水	2	1	2	L-1	
後期	情報化と経営	石岡 賢・董 彦文	木	1	1	2	遠隔	
後期	環境の科学	吉田 龍平	金	2	1	2	L-4	

ワーキングスキル

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
後期	知的財産の基礎知識	横島 善子	火	4	2	2	L-1	2年生以上
後期	データサイエンス実践演習	(非)村重 慎一郎 他	金	4	2	2	M-4	2年生以上：受講者数50人に制限

スポーツ実習【健康・運動科学実習】

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	雨天時 教室	備考
後期	卓球	(非)加藤 守匡	月	2	1	1	S-43	行政政策・経済経営学類
後期	ハレーボール	(非)高橋 弘彦	月	2	1	1	S-44	
後期	バドミントン	(非)沖 和砂	月	2	1	1	S-44	
後期	ゴルフ	(非)渡部 琢也	月	3	1	1	S-41	人間発達文化学類
後期	卓球	(非)加藤 守匡	月	3	1	1		
後期	バドミントン	本嶋 良恵	月	3	1	1	S-42	共生システム理工・食農学類
後期	ソフトボール	蓮沼 哲哉	月	3	1	1	S-44	
後期	ハレーボール	(非)高橋 弘彦	月	3	1	1	S-44	
後期	タグラグビー	松本 健太	月	3	1	1	C101 C102 C103	共生システム理工・食農学類
後期	フィットネス	本嶋 良恵	金	3	1	1		
後期	卓球	(非)諏訪 雅貴	金	3	1	1		
後期	ソフトボール	竹田 隆一	金	3	1	1		

英語 B ・ B 、 応用英語

LL教室、AV教室（M講義棟3階）

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	英語 B 01	朝賀 俊彦	月	1	2	1	S-23	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語 B 02	高木 修一	月	1	2	1	S-41	
前期	英語 B 03	飯嶋 良太	月	1	2	1	A.V	
前期	英語 B 04	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S-33	食農学類も受講可 食農学類も受講可
前期	英語 B 05	(非)渡邊 真由美	月	1	2	1	S-36	
前期	英語 B 06	(非)芝田 直久	月	1	2	1	S-32	
前期	英語 B 07	(非)志子田 真由子	月	1	2	1	S-31	食農学類も受講可 食農学類も受講可
前期	英語 B 08	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S-21	
前期	英語 B 09	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	1	2	1	S-22	
前期	英語 B 41(上級)	(非)ジョン・ティルマント	月	1	2	1	S-34	食農学類も受講可 食農学類も受講可
前期	英語 B 42(基礎)	(非)齊藤 元康	月	1	2	1	S-42	
前期	英語 B 61	(非)長谷川 明子	火	2	2	1	S-21	
前期	英語 B 62	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	火	2	2	1	S-22	行政政策・経済経営学類
前期	英語 B 21	川田 潤	水	1	2	1	S-14	
前期	英語 B 22	高木 修一	水	1	2	1	S-41	
前期	英語 B 23	照沼 かほる	水	1	2	1	S-33	食農学類も受講可 食農学類も受講可
前期	英語 B 24	松浦 浩子	水	1	2	1	L.L	
前期	英語 B 25	佐々木 俊彦	水	1	2	1	S-35	
前期	英語 B 26	吉高神 明	水	1	2	1	S-11	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語 B 27	(非)レジス・ドラビゾン	水	1	2	1	S-12	
前期	英語 B 28	(非)齊藤 元康	水	1	2	1	S-42	
前期	英語 B 29	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	1	2	1	S-22	食農学類も受講可 食農学類も受講可
前期	英語 B 43(上級)	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	1	2	1	S-32	
前期	英語 B 44(基礎)	高田 英和	水	1	2	1	S-23	
後期	英語 B 11	朝賀 俊彦	月	1	2	1	S-23	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語 B 12	高木 修一	月	1	2	1	S-41	
後期	英語 B 13	飯嶋 良太	月	1	2	1	A.V	
後期	英語 B 14	(非)九頭見 理香	月	1	2	1	S-33	食農学類も受講可 食農学類も受講可
後期	英語 B 15	(非)渡邊 真由美	月	1	2	1	S-36	
後期	英語 B 16	(非)芝田 直久	月	1	2	1	S-32	
後期	英語 B 17	(非)志子田 真由子	月	1	2	1	S-31	食農学類も受講可 食農学類も受講可
後期	英語 B 18	(非)長谷川 明子	月	1	2	1	S-21	
後期	英語 B 19	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	月	1	2	1	S-22	
後期	英語 B 51(上級)	(非)ジョン・ティルマント	月	1	2	1	S-34	食農学類も受講可 食農学類も受講可
後期	英語 B 52(基礎)	(非)齊藤 元康	月	1	2	1	S-42	
後期	英語 B 71	(非)長谷川 明子	火	2	2	1	S-21	
後期	英語 B 72	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	火	2	2	1	S-22	行政政策・経済経営学類
後期	英語 B 31	川田 潤	水	1	2	1	S-14	
後期	英語 B 32	高木 修一	水	1	2	1	S-41	
後期	英語 B 33	照沼 かほる	水	1	2	1	S-33	食農学類も受講可 食農学類も受講可
後期	英語 B 34	松浦 浩子	水	1	2	1	L.L	
後期	英語 B 35	佐々木 俊彦	水	1	2	1	S-35	
後期	英語 B 36	吉高神 明	水	1	2	1	S-11	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語 B 37	(非)レジス・ドラビゾン	水	1	2	1	S-12	
後期	英語 B 38	(非)齊藤 元康	水	1	2	1	S-42	
後期	英語 B 39	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	1	2	1	S-22	食農学類も受講可 食農学類も受講可
後期	英語 B 53(上級)	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	1	2	1	S-32	
後期	英語 B 54(基礎)	高田 英和	水	1	2	1	S-23	

前期	英語 B	01	照沼 かほる	水	2	2	1	S-33	人間発達文化・共生システム理工学類
前期	英語 B	02	松浦 浩子	水	2	2	1	L.L	
前期	英語 B	03	吉高神 明	水	2	2	1	S-11	
前期	英語 B	04	(非)齊藤 元康	水	2	2	1	S-42	
前期	英語 B	05	真歩仁 しょうん	水	2	2	1	S-43	
前期	英語 B	06	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	2	2	1	S-32	
前期	英語 B	07	(非)ジョン・ティルマント	水	2	2	1	S-34	
前期	英語 B	08	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	2	2	1	S-22	
前期	英語 B	09	佐藤 元樹	水	2	2	1	S-28	
前期	英語 B	41(上級)	マッカーズランド・フィリップ	水	2	2	1	S-38	食農学類も受講可
前期	英語 B	42(基礎)	久我 和巳	水	2	2	1	S-35	食農学類も受講可
前期	英語 B	61	(非)植竹 大輔	木	4	2	1	S-38	食農学類
前期	英語 B	62	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	4	2	1	S-22	
前期	英語 B	63	後藤 史子	木	4	2	1	S-31	
前期	英語 B	21	飯嶋 良太	金	2	2	1	A.V	行政政策・経済経営学類
前期	英語 B	22	村上 雄一	金	2	2	1	L.L	
前期	英語 B	23	後藤 史子	金	2	2	1	S-31	
前期	英語 B	24	(非)齊藤 元康	金	2	2	1	S-42	
前期	英語 B	25	マッカーズランド・フィリップ	金	2	2	1	S-38	
前期	英語 B	26	(非)ジョン・ティルマント	金	2	2	1	S-34	
前期	英語 B	27	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	2	2	1	S-22	
前期	英語 B	28	(非)フィデルディ	金	2	2	1	S-36	
前期	英語 B	29	福富 靖之	金	2	2	1	S-35	
前期	英語 B	43(上級)	(非)猪井 新一	金	2	2	1	S-23	食農学類も受講可
前期	英語 B	44(基礎)	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S-33	食農学類も受講可
後期	英語 B	11	照沼 かほる	水	2	2	1	S-33	人間発達文化・共生システム理工学類
後期	英語 B	12	松浦 浩子	水	2	2	1	L.L	
後期	英語 B	13	吉高神 明	水	2	2	1	S-11	
後期	英語 B	14	(非)齊藤 元康	水	2	2	1	S-42	
後期	英語 B	15	真歩仁 しょうん	水	2	2	1	S-43	
後期	英語 B	16	(非)マーニ・タヴァコーリ	水	2	2	1	S-32	
後期	英語 B	17	(非)ジョン・ティルマント	水	2	2	1	S-34	
後期	英語 B	18	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	水	2	2	1	S-22	
後期	英語 B	19	佐藤 元樹	水	2	2	1	S-28	
後期	英語 B	51(上級)	マッカーズランド・フィリップ	水	2	2	1	S-38	食農学類も受講可
後期	英語 B	52(基礎)	久我 和巳	水	2	2	1	S-35	食農学類も受講可
後期	英語 B	71	(非)植竹 大輔	木	4	2	1	S-38	食農学類
後期	英語 B	72	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	4	2	1	S-22	
後期	英語 B	73	後藤 史子	木	4	2	1	S-31	
後期	英語 B	31	飯嶋 良太	金	2	2	1	A.V	行政政策・経済経営学類
後期	英語 B	32	村上 雄一	金	2	2	1	L.L	
後期	英語 B	33	後藤 史子	金	2	2	1	S-31	
後期	英語 B	34	(非)齊藤 元康	金	2	2	1	S-42	
後期	英語 B	35	マッカーズランド・フィリップ	金	2	2	1	S-38	
後期	英語 B	36	(非)ジョン・ティルマント	金	2	2	1	S-34	
後期	英語 B	37	(非)ロナルド・ブレンド・スコット	金	2	2	1	S-22	
後期	英語 B	38	(非)フィデルディ	金	2	2	1	S-36	
後期	英語 B	39	福富 靖之	金	2	2	1	S-35	
後期	英語 B	53(上級)	(非)猪井 新一	金	2	2	1	S-23	食農学類も受講可
後期	英語 B	54(基礎)	(非)九頭見 理香	金	2	2	1	S-33	食農学類も受講可
前期	応用英語		松浦 浩子	月	5	1	1	L.L	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	応用英語		佐々木 俊彦	火	5	1	1	S-35	
前期	応用英語		マッカーズランド・フィリップ	水	1	1	1	S-38	
前期	応用英語		(非)ロナルド・ブレンド・スコット	木	5	1	1	S-35	
前期	応用英語		福富 靖之	金	5	1	1	S-35	
後期	応用英語		松浦 浩子	月	5	1	1	L.L	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	応用英語		佐々木 俊彦	火	5	1	1	S-35	
後期	応用英語		マッカーズランド・フィリップ	水	1	1	1	S-38	
後期	応用英語		福富 靖之	木	5	1	1	S-35	
後期	応用英語		福富 靖之	金	5	1	1	S-35	

開講	科 目	担当教員	曜 日	時 限	履修年次	単 位	教 室	備 考
前期	ドイツ語基礎 A	ぐんすけふおんけるん・M	火	2	1	1	S-11	主に行政政策・経済経営学類
前期	ドイツ語基礎 B	高橋 優	火	2	1	1	S-13	
前期	ドイツ語基礎 C	高橋 優	木	2	1	1	S-13	
前期	ドイツ語基礎 D	(非)グンスケフォンケルン・J	火	3	1	1	S-12	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	ドイツ語基礎 E	ぐんすけふおんけるん・M	火	3	1	1	S-11	
前期	ドイツ語基礎 F	高橋 優	火	3	1	1	S-13	
前期	ドイツ語基礎 G	ぐんすけふおんけるん・M	木	4	1	1	S-11	主に人間発達文化・共生システム理工学類 学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
前期	ドイツ語基礎(特設) A	ぐんすけふおんけるん・M	木	2	1	1	S-11	
前期	ドイツ語基礎(特設) B	(非)グンスケフォンケルン・J	木	2	1	1	S-12	
前期	ドイツ語基礎(特設) C	ぐんすけふおんけるん・M	金	2	1	1	S-11	主に行政政策・経済経営学類
後期	ドイツ語基礎 A	ぐんすけふおんけるん・M	火	2	1	1	S-11	
後期	ドイツ語基礎 B	高橋 優	火	2	1	1	S-13	
後期	ドイツ語基礎 C	高橋 優	木	2	1	1	S-13	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	ドイツ語基礎 D	(非)グンスケフォンケルン・J	火	3	1	1	S-12	
後期	ドイツ語基礎 E	ぐんすけふおんけるん・M	火	3	1	1	S-11	
後期	ドイツ語基礎 F	高橋 優	火	3	1	1	S-13	主に人間発達文化・共生システム理工学類 学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
後期	ドイツ語基礎 G	ぐんすけふおんけるん・M	木	4	1	1	S-11	
後期	ドイツ語基礎(特設) A	ぐんすけふおんけるん・M	木	2	1	1	S-11	
後期	ドイツ語基礎(特設) B	(非)グンスケフォンケルン・J	木	2	1	1	S-12	学類指定なし
後期	ドイツ語基礎(特設) C	ぐんすけふおんけるん・M	金	2	1	1	S-11	
前期	ドイツ語応用 A	ぐんすけふおんけるん・M	火	1	2	1	S-11	
前期	ドイツ語応用 B	高橋 優	木	3	2	1	S-13	学類指定なし
後期	ドイツ語応用 A	ぐんすけふおんけるん・M	火	1	2	1	S-11	
後期	ドイツ語応用 B	高橋 優	木	3	2	1	S-13	
前期	フランス語基礎 A	(非)平手 伸昭	火	2	1	1	S-38	主に行政政策・経済経営学類
前期	フランス語基礎 B	(非)寺本 弘子	火	2	1	1	S-35	
前期	フランス語基礎 C	田村 奈保子	木	2	1	1	LL	
前期	フランス語基礎 D	(非)平手 伸昭	火	3	1	1	S-38	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	フランス語基礎 E	(非)寺本 弘子	火	3	1	1	S-35	
前期	フランス語基礎 F	田村 奈保子	木	4	1	1	LL	
前期	フランス語基礎(特設)	(非)長谷川 明子	金	2	1	1	S-21	主に人間発達文化・共生システム理工学類 学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
後期	フランス語基礎 A	(非)平手 伸昭	火	2	1	1	S-38	
後期	フランス語基礎 B	(非)寺本 弘子	火	2	1	1	S-35	
後期	フランス語基礎 C	田村 奈保子	木	2	1	1	LL	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	フランス語基礎 D	(非)平手 伸昭	火	3	1	1	S-38	
後期	フランス語基礎 E	(非)寺本 弘子	火	3	1	1	S-35	
後期	フランス語基礎 F	田村 奈保子	木	4	1	1	LL	主に人間発達文化・共生システム理工学類 学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
後期	フランス語基礎(特設)	(非)長谷川 明子	金	2	1	1	S-21	
前期	フランス語応用 A	(非)長谷川 明子	火	1	2	1	S-21	
前期	フランス語応用 B	(非)レジス・ドラビゾン	木	3	2	1	S-12	学類指定なし
後期	フランス語応用 A	(非)長谷川 明子	火	1	2	1	S-21	
後期	フランス語応用 B	(非)レジス・ドラビゾン	木	3	2	1	S-12	
前期	中国語基礎 A	(非)伊藤 由美	火	2	1	1	S-32	主に行政政策・経済経営学類
前期	中国語基礎 B	(非)呉 怡芬(ういふん)	火	2	1	1	S-31	
前期	中国語基礎 C	(非)伊藤 由美	木	2	1	1	S-32	
前期	中国語基礎 D	(非)解 澤春(かいたくしゅん)	木	2	1	1	S-34	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	中国語基礎 E	(非)池澤 実芳	木	2	1	1	S-33	
前期	中国語基礎 F	手代木 有兒	木	2	1	1	S-36	
前期	中国語基礎 G	(非)井上 浩一	火	3	1	1	S-34	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	中国語基礎 H	(非)伊藤 由美	火	3	1	1	S-32	
前期	中国語基礎 I	(非)池澤 実芳	火	3	1	1	S-33	
前期	中国語基礎 J	(非)呉 怡芬(ういふん)	火	3	1	1	S-31	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	中国語基礎 K	金 敬雄	木	4	1	1	S-23	
前期	中国語基礎 L	(非)伊藤 由美	木	4	1	1	S-32	
前期	中国語基礎 M	(非)解 澤春(かいたくしゅん)	木	4	1	1	S-34	主に行政政策・経済経営学類
前期	中国語基礎 N	手代木 有兒	木	4	1	1	S-36	
前期	中国語基礎(特設) A	金 敬雄	火	2	1	1	S-23	
前期	中国語基礎(特設) B	(非)井上 浩一	火	2	1	1	S-34	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
前期	中国語基礎(特設) C	金 敬雄	火	3	1	1	S-23	
前期	中国語基礎(特設) D	手代木 有兒	火	3	1	1	S-36	
後期	中国語基礎 A	(非)伊藤 由美	火	2	1	1	S-32	主に行政政策・経済経営学類
後期	中国語基礎 B	(非)呉 怡芬(ういふん)	火	2	1	1	S-31	
後期	中国語基礎 C	(非)伊藤 由美	木	2	1	1	S-32	
後期	中国語基礎 D	(非)解 澤春(かいたくしゅん)	木	2	1	1	S-34	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	中国語基礎 E	(非)池澤 実芳	木	2	1	1	S-33	
後期	中国語基礎 F	手代木 有兒	木	2	1	1	S-36	
後期	中国語基礎 G	(非)井上 浩一	火	3	1	1	S-34	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	中国語基礎 H	(非)伊藤 由美	火	3	1	1	S-32	
後期	中国語基礎 I	(非)池澤 実芳	火	3	1	1	S-33	
後期	中国語基礎 J	(非)呉 怡芬(ういふん)	火	3	1	1	S-31	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	中国語基礎 K	金 敬雄	木	4	1	1	S-23	
後期	中国語基礎 L	(非)伊藤 由美	木	4	1	1	S-32	
後期	中国語基礎 M	(非)解 澤春(かいたくしゅん)	木	4	1	1	S-34	主に行政政策・経済経営学類
後期	中国語基礎 N	手代木 有兒	木	4	1	1	S-36	
後期	中国語基礎(特設) A	金 敬雄	火	2	1	1	S-23	
後期	中国語基礎(特設) B	(非)井上 浩一	火	2	1	1	S-34	学類指定なし（2019年度以降入学生のみ）
後期	中国語基礎(特設) C	金 敬雄	火	3	1	1	S-23	
後期	中国語基礎(特設) D	手代木 有兒	火	3	1	1	S-36	
前期	中国語応用 A	金 敬雄	火	1	2	1	S-23	学類指定なし
前期	中国語応用 B	手代木 有兒	火	1	2	1	S-36	
前期	中国語応用 C	(非)井上 浩一	火	1	2	1	S-34	
前期	中国語応用 D	(非)伊藤 由美	木	3	2	1	S-32	主に行政政策・経済経営学類
前期	中国語応用 E	(非)解 澤春(かいたくしゅん)	木	3	2	1	S-34	
後期	中国語応用 A	金 敬雄	火	1	2	1	S-23	
後期	中国語応用 B	手代木 有兒	火	1	2	1	S-36	学類指定なし
後期	中国語応用 C	(非)井上 浩一	火	1	2	1	S-34	
後期	中国語応用 D	(非)伊藤 由美	木	3	2	1	S-32	
後期	中国語応用 E	(非)解 澤春(かいたくしゅん)	木	3	2	1	S-34	

前期	ロシア語基礎 A	吉川 宏人	火	2	1	1	S-28	主に行政政策・経済経営学類
前期	ロシア語基礎 B	吉川 宏人	木	2	1	1	S-28	
前期	ロシア語基礎 C	クズネツォーフ・マリーナ	火	3	1	1	S-28	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	ロシア語基礎 D	吉川 宏人	木	4	1	1	S-28	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	ロシア語基礎(特設)	クズネツォーフ・マリーナ	金	2	1	1	S-28	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	ロシア語基礎 A	クズネツォーフ・マリーナ	火	2	1	1	S-28	主に行政政策・経済経営学類
後期	ロシア語基礎 B	吉川 宏人	木	2	1	1	S-28	
後期	ロシア語基礎 C	クズネツォーフ・マリーナ	火	3	1	1	S-28	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	ロシア語基礎 D	(非)カザンツェワ・ラーダ	木	4	1	1	S-28	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	ロシア語基礎(特設)	吉川 宏人	金	2	1	1	S-28	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	ロシア語応用 A	吉川 宏人	火	1	2	1	S-28	学類指定なし
前期	ロシア語応用 B	クズネツォーフ・マリーナ	木	3	2	1	S-28	
後期	ロシア語応用 A	吉川 宏人	火	1	2	1	S-28	学類指定なし
後期	ロシア語応用 B	(非)カザンツェワ・ラーダ	木	3	2	1	S-28	
前期	韓国朝鮮語基礎 A	(非)金丹(きんたん)	火	2	1	1	S-14	主に行政政策・経済経営学類
前期	韓国朝鮮語基礎 B	(非)朴相賢(ぱくさんひょん)	木	2	1	1	S-21	
前期	韓国朝鮮語基礎 C	(非)金丹(きんたん)	火	3	1	1	S-14	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
前期	韓国朝鮮語基礎 D	(非)梁姫淑(やんひすく)	火	3	1	1	S-22	
前期	韓国朝鮮語基礎 E	(非)朴相賢(ぱくさんひょん)	木	4	1	1	S-21	主に人間発達文化・共生システム理工学類
前期	韓国朝鮮語基礎(特設) A	(非)金丹(きんたん)	金	2	1	1	S-14	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
前期	韓国朝鮮語基礎(特設) B	(非)梁姫淑(やんひすく)	金	2	1	1	S-12	
後期	韓国朝鮮語基礎 A	伊藤 俊介	火	2	1	1	S-14	主に行政政策・経済経営学類
後期	韓国朝鮮語基礎 B	伊藤 俊介	木	2	1	1	S-14	
後期	韓国朝鮮語基礎 C	伊藤 俊介	火	3	1	1	S-14	主に人間発達文化・共生システム理工・食農学類
後期	韓国朝鮮語基礎 D	(非)梁姫淑(やんひすく)	火	3	1	1	S-22	
後期	韓国朝鮮語基礎 E	(非)朴相賢(ぱくさんひょん)	木	4	1	1	S-21	主に人間発達文化・共生システム理工学類
後期	韓国朝鮮語基礎(特設) A	伊藤 俊介	金	2	1	1	S-14	学類指定なし(2019年度以降入学生のみ)
後期	韓国朝鮮語基礎(特設) B	(非)梁姫淑(やんひすく)	金	2	1	1	S-12	
前期	韓国朝鮮語応用 A	(非)梁姫淑(やんひすく)	火	1	2	1	S-22	学類指定なし
前期	韓国朝鮮語応用 B	(非)朴相賢(ぱくさんひょん)	木	3	2	1	S-21	
後期	韓国朝鮮語応用 A	伊藤 俊介	火	1	2	1	S-14	学類指定なし
後期	韓国朝鮮語応用 B	(非)朴相賢(ぱくさんひょん)	木	3	2	1	S-21	

日本語 ~、日本事情 ~ (外国人留学生のみの)

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	日本語 A	井本 亮	火	2	1	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
前期	日本語 B	井本 亮	木	2	1	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
前期	日本語 A	井本 亮	火	1	2	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
前期	日本語 B	井本 亮	木	3	2	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語 A	井本 亮	火	2	1	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語 B	井本 亮	木	2	1	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語 A	井本 亮	火	1	2	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
後期	日本語 B	井本 亮	木	3	2	1	S-24	留学生(2019年度以降入学生のみ)
前期	日本事情	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S-24	留学生
後期	日本事情	(非)永島 恭子	木	1	1	2	S-24	留学生

情報リテラシー

101(1F演習室), 205(2F演習室)(情報基盤センター)

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	情報リテラシー 01	松本 正晴	月	1	1	2	205(2F演習室)	
前期	情報リテラシー 02	(非)木谷 徳智	月	1	1	2	101(1F演習室)	
前期	情報リテラシー 03	(非)木谷 徳智	木	1	1	2	205(2F演習室)	
前期	情報リテラシー 04	(非)中山 祐貴	金	2	1	2	205(2F演習室)	
後期	情報リテラシー 05	松本 正晴	月	1	1	2	205(2F演習室)	
後期	情報リテラシー 06	(非)木谷 徳智	水	2	1	2	205(2F演習室)	
後期	情報リテラシー 07	寛 宗徳	木	1	1	2	205(2F演習室)	
後期	情報リテラシー 08	(非)木谷 徳智	金	2	1	2	205(2F演習室)	

問題探究科目

101(1F演習室)(情報基盤センター)

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	ボランティア論	初澤 敏生	月	1	1	2	S-24	受講者数20人に制限
前期	福島のブランド農業	則藤 孝志・林 薫平	月	1	1	2	遠隔	
前期	暮らしと仕事と大学生	熊沢 透 他	月	1	1	2	L-1	
前期	社会とデータの基礎	呉 書雅・高森 智嗣・前川 直哉	月	4	1	2	L-4	
前期	都市計画と「まちづくり」	今西 一男	木	1	1	2	L-1	
前期	生活探究演習	千葉 養伍・中村 恵子・角間 陽子	木	1	1	2	S-21	受講者数24人に制限
前期	大学で学ぶ	高森 智嗣	木	1	1	2	遠隔	
前期	哲学カフェ	小野原 雅夫	金	2	1	2	S-32	受講者数50人に制限
前期	グローバル災害論	佐野 孝治	金	2	1	2	L-4	
前期	ふくしま未来学入門	前川 直哉 他	金	2	1	2	遠隔	受講者数360人に制限
後期	評価論入門	高森 智嗣	月	1	1	2	遠隔	
後期	環境放射能学入門	難波 謙二 他	水	2	1	2	M-23	
後期	災害復興支援学	山口 克彦 他	水	2	1	2	L-2	
後期	震災農村復興論	小山 良太・石井 秀樹	木	1	1	2	遠隔	
後期	データ分析入門	呉 書雅	木	1	1	2	101(1F演習室)	受講者数40人に制限
後期	地域と世界の未来をつくる科学と数学	黒沢 高秀 他	金	2	1	2	L-2	
後期	ふくしま未来学入門	前川 直哉 他	金	2	1	2	遠隔	受講者数360人に制限
後期	立ち直り支援と地域社会	高橋 有紀	金	2	1	2	L-3	
後期	むらの大学 A	千葉 偉才也・前川 直哉	金	5	1	2	S-21	(川内班)クラス分けは前期に行う。
後期	むらの大学 B	前川 直哉・千葉 偉才也	金	5	1	2	S-22	(南相馬班)クラス分けは前期に行う。
後期	むらの大学 C	前川 直哉	金	5	1	2	S-23	(大熊班)クラス分けは前期に行う。

9 . 接続領域の履修について

接続領域の履修について

「接続領域」は、高校教育と大学の専門的な教育とをスムーズに連結させ、大学で学ぶ上で必要な基礎能力を身に付けることを目的としています。これらを踏まえ、以下の科目を開講します。各科目の指導内容や開講のしくみ、到達すべき目標はそれぞれある程度共通化されています。

これにより質保証を図り、学類専門教育へ円滑に接続させていきます。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

(1) スタートアップ科目について

「スタートアップセミナーの履修について」を参照してください。

(2) ライフマネジメント科目について

生涯にわたるキャリア発達と身体の健康維持とを目的とし、必修科目として「**キャリア形成論**」と「**健康運動科学実習**」を開講します。「**キャリア形成論**」のねらいは第一に自分と向き合い自分の人生を見つめること、第二に働くことの意味や職業についての見方を再確認すること、第三にこれらを通して大学で学ぶことの意味を考え、学ぶ主体を確立することです。「**健康運動科学実習**」は、スポーツを通して運動や健康への興味・関心を高め、生涯にわたり健やかな生活をしていくための知識や習慣を身に付けることを目的としている科目です。

<キャリア形成論の履修について>

1年次：前期に「キャリア形成論」2単位を修得しなければなりません。

学類ごとにクラスが違いますので、指定されたクラスで受講してください。

行政政策学類のクラス分けは、行政政策学類の掲示等で確認してください。

再履修者も同様です。

キャリア形成論は履修登録撤回できません。

<健康運動科学実習の履修について>

1年次前期に「健康運動科学実習」を履修してください。

指定された曜日、時間帯（下表）で受講してください。第1回目の授業の際に種目分けを行いますので、必ず出席してください。

集合場所は、第1体育館（入学式と同じ会場）です。筆記用具と上履きを用意し、普段着で出席してください。欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。

第1回目の授業に出席できなかった学生は、蓮沼教員（保健体育棟214号）の指示を受けてください。

学類	健康運動科学実習
行政政策学類	月曜日 2時限
人間発達文化学類	月曜日 3時限
経済経営学類	火曜日 3時限
共生システム理工学類	金曜日 3時限
食農学類	金曜日 4時限

ただし、再履修者で、必修の科目と開講時間帯が重なり、指定時間帯の受講が困難な場合は、他の時間帯での履修を認めることがありますので、第1回目の授業で担当教員に必ず申し出てください。

特別な理由により実技を行うことが困難な学生には、代替措置を認める場合があります。詳しくは第1回目の授業で説明しますので必ず出席してください。

健康運動科学実習は履修登録撤回できません。

(3) 外国語コミュニケーション科目について

別項目<英語、英語以外の外国語の履修について>を参照してください。

外国人留学生は、同じく<英語、英語以外の外国語の履修について>にある<外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について>も参照してください。

10．スタートアップセミナー の履修について

(10) スタートアップセミナーの履修について

大学教育の基礎を身につけるスタートアップ科目の中心となる科目です。内容は、アカデミック・スキルズ、すなわち文献や資料の読み方や書評レポートの書き方、調査・研究方法、情報技術の基礎、プレゼンテーション、ディスカッションの技術などを身に付けます。スタートアップセミナー（または問題探究セミナー）終了時に初年次レポートを提出することになります。

この科目を中心として、1年終了時まで身に付けるべきアカデミック・スキルズは以下の通りです。

【アカデミック・スキルズ チェックリスト】

- OPAC、CiNii 等のデータベースを活用した文献・資料の検索方法を知っている。
- 文献・資料の内容を要約したレジユメの基本的な形式を知っている。
- 序論・本論・結論のような、レポートの基本的な構成を知っている。
- 文献・資料の内容をレジユメやレポートに反映させる際のルール（引用のしかた）を知っている。
- 参考文献・資料一覧を作成する際のルールを知っている。
- 文献・資料の内容を要約したレジユメを作成することができる。
- レポートの構成や引用のしかた等、一般的または指定された形式やルールを守ったレポートを作成することができる。
- パワーポイント等の ICT を活用して、プレゼンテーションを行うことができる。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

<スタートアップセミナーの履修手続きについて>

2単位を修得しなければなりません。学類毎にクラスが分かれていますので、詳細は、各学類の掲示等で確認してください。

未修得者は、必ず履修登録前に「LiveCampus」/各学類の掲示等で確認の上、教務課各学類窓口で申し出てください。

スタートアップセミナーは、履修登録撤回できません。

スタートアップセミナー担当者一覧

人間発達文化学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スタ ー	単位 数	教室
スタート アップ セミナー	教育実践コース	木 3	植田 啓嗣	1	2	M23
	心理学・幼児教育コース		原野 明子	1	2	S22
	特別支援・生活科学コース		中村 恵子 鶴巻 正子	1	2	人 201 演
	芸術・表現コース		新井 浩	1	2	S31
	人文科学コース A		佐久間 康之	1	2	M2
	人文科学コース B		半沢 康	1	2	S11
	人文科学コース C		小松 賢司	1	2	S14
	数理自然科学コース		和田 正樹	1	2	人 208 演
	スポーツ健康科学コース		杉浦 弘一 松本 健太	1	2	S38 M4

行政政策学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スタ ー	単位数	教室
スタート アップ セミナー	ガイダンスおよび時間割を確認			1	2	

経済経営学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメス ター	単位数	教室
スタート アップ セミナー	A	木 3	荒知宏	1	2	403 演 /IPC101
	B		岩井秀樹	1	2	406 演
	C		岩本吉弘	1	2	407 演
	D		大川裕嗣	1	2	509 演
	E		平野智久	1	2	401 演
	F		藤原遥	1	2	411 演
	G		根建晶寛	1	2	410 演
	H		野口寛樹	1	2	402 演
	I		三家本里実	1	2	501 演
	J		村上早紀子	1	2	502 演
	K		尹卿烈	1	2	508 演
	L		福富靖之	1	2	405 演
	M		吉川宏人	1	2	404 演

共生システム理工学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメス ター	単位数	教室
スタート アップ セミナー	A	月 5	衣川 潤	1	2	S 1 1
	B		木村 勝彦	1	2	S 1 2
	C		高貝 慶隆	1	2	S 1 3
	D		高原 円	1	2	S 1 4
	E		高安 徹	1	2	S 2 1
	F		永幡 幸司	1	2	S 2 2
	G		藤本 勝成	1	2	S 2 3
	H		三浦 一之	1	2	S 2 8

食農学類

授業科目名	クラス	担当教員	曜日 時限	セメスター	単位数	教室
スタート アップ セミナー	A	平 修 林 薫平	金 1	1	2	S11
	B	則藤 孝志 尾形 慎		1	2	S12
	C	高田 大輔 金子 信博		1	2	S13
	D	新田 洋司 窪田 陽介		1	2	S14

「 」印は代表教員です。

1 1 . 英語、英語以外の外国語 の履修について

英語、英語以外の外国語の履修について

<英語について>

<「英語A Ⅰ」・「英語A Ⅱ」について>

- (ア)「英語A Ⅰ」は、総合的な英語力の養成を目的とした授業科目です。
- (イ)「英語A Ⅱ」は、技能別に英語力を養成することを目的とした授業科目で、次の3種類のコースが開講されます。授業の詳細はシラバスに記載されています。
- ・Reading・・・「読む」ことを主とした総合的な英語力を養成するためのコース
 - ・Writing・・・「書く」能力を養成するためのコース
 - ・Oral Communication・・・「聴く・話す」能力を養成するためのコース
- (ウ)1年次では、「英語A Ⅰ」及び「英語A Ⅱ」を各2単位、計4単位を修得しなければなりません。また、各2単位、計4単位を超えて修得することはできません。
- (エ)「英語A Ⅰ」及び「英語A Ⅱ」は、それぞれ週1回1クラスを半期履修することにより1単位認定されます。4単位を修得するためには、
- 「英語A Ⅰ」について前・後期各1クラスの計2クラス、
 - 「英語A Ⅱ」についても前・後期各1クラスの計2クラスを履修する必要があります。
- (オ)開講曜日・時限は学類ごとに指定されています。
- ・人間発達文化学類・共生システム理工学類は、
 - 「英語A Ⅰ」が月曜日2時限、「英語A Ⅱ」が金曜日1時限
 - ・行政政策学類・経済経営学類は、
 - 「英語A Ⅰ」が月曜日3時限、「英語A Ⅱ」が金曜日3時限
 - ・食農学類は、「英語A Ⅰ」が火曜日4時限、「英語A Ⅱ」が木曜日2時限
 - ・学類指定以外の曜日・時限の授業を受講することはできません。
- (カ)「英語A Ⅰ」、「英語A Ⅱ」は、履修登録撤回できません。

<英語A Ⅰ・英語A Ⅱの履修について>

- (ア)前期の所属クラスは「英語A Ⅰ」、「英語A Ⅱ」とともに、以下の手続きで行います。
- 1.シラバスを読んで、受講希望クラスの第1回目の授業に必ず出席してください。
 - 2.第1回目の授業では、授業内容についての説明と希望受付が2回(1次、2次)行われます。

<1次説明・受付>

- ・第1回目授業開始時刻(1時限8時40分、2時限10時20分、3時限13時00分、4時限14時40分)に希望クラスの教室に行き授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。

(人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。)

- ・1次受付で定員に達したクラスは、2次受付は行いません。

<2次説明・受付>

- ・1次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラ

スを掲示で確認し、2次説明・受付開始時刻（1時限9時40分、2時限11時20分、3時限14時00分、4時限15時40分）までに希望クラスの教室に行ってください。

授業内容について説明を受けた後、受講希望カードを担当教員に提出してください。（人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。）

・2次受付の抽選にもれた学生及び第1回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口に出してください。所属クラスは第2回目の授業までに掲示します。

(イ)後期の所属クラスは「英語A₁」「英語A₂」それぞれ前期と同一教員のクラスになります。

・同一教員のクラスが後期に開講されていない場合は、前期クラスの教員の指示に従ってください。

・前期に単位を修得できなかった場合でも、後期は同じクラスで受講可能です。

(ウ)「英語A₁」「英語A₂」は、それぞれ後期のみ「基礎クラス」「上級クラス」が開講されます。ただし、食農学類に関しては「英語A₁」のみ「基礎クラス」が開講されます。

成績評価は、「上級クラス」が「S、A、F」のいずれか、「基礎クラス」は「B、C、F」のいずれかになります。

受付期間は、9月中旬～下旬です。「上級クラス」「基礎クラス」を希望する学生は手続きをしてください。手続き詳細や受講の可否は掲示板等でお知らせします。

（人数が多い場合等は希望が認められない場合があります。）

(I)食農学類の学生で「英語A₁」の「上級クラス」の受講を希望する学生は、自身が受講すべき必修の専門科目が入っていない他学類枠（月曜2時限または月曜3時限）の「英語A₁上級クラス」を受講することができます。他学類枠（月曜2時限または月曜3時限）の「英語A₁上級クラス」の受講を希望する学生は、時間割をよく確認したうえで、所定の手続き（上記(ウ)）を行ってください。

(オ)食農学類の学生で「英語A₁」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、所定の手続きを行ったうえで（上記(ウ)）他学類枠（金曜1時限または金曜3時限）の「英語A₁」の「基礎クラス」または「上級クラス」を受講することができます。

<「英語B₁」「英語B₂」について>

(ア)「英語B₁」は、総合的な英語力の養成を目的とした授業科目です。

(イ)「英語B₁」は、技能別に英語力を養成することを目的とした授業科目で、次の3種類のコースが開講されます。授業の詳細はシラバスに記載されています。

・Reading・・・「読む」ことを主とした総合的な英語力を養成するためのコース

・Writing・・・「書く」能力を養成するためのコース

・Oral Communication・・・「聴く・話す」能力を養成するためのコース

(ウ)2年次で英語を選択する学生は、「英語B₁」及び「英語B₂」を各2単位、計4単位を超えて修得することはできません。

(I)「英語B₁」及び「英語B₂」は、それぞれ週1回1クラスを半期履修することにより1単位認定されます。4単位を修得するためには、
「英語B₁」について前・後期各1クラスの計2クラス、
「英語B₂」についても前・後期各1クラスの計2クラスを履修する必要があります。

(ウ)開講曜日・時限は学類毎に指定されています。

- ・人間発達文化学類・共生システム理工学類は
「英語B₁」が月曜日1時限、「英語B₂」が水曜日2時限
- ・行政政策学類・経済経営学類は
「英語B₁」が水曜日1時限、「英語B₂」が金曜日2時限
- ・食農学類は「英語B₁」が火曜日2時限、「英語B₂」が木曜日4時限
- ・学類指定以外の曜日・時限の授業を受講することはできません。

(カ)「英語B₁」、「英語B₂」は、履修登録撤回できません。

<英語B₁・英語B₂の履修について>

(ア)前期の所属クラスは「英語B₁」、「英語B₂」ともに、以下の手続きで行います。

1. シラバスを読んで、受講希望クラスの第1回目の授業に必ず出席してください。
2. 第1回目の授業では、授業内容についての説明と希望受付が2回(1次、2次)行われます。

<1次説明・受付>

・第1回目授業開始時刻(1時限8時40分、2時限10時20分、4時限14時40分)に希望クラスの教室に行き、授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。

(人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。)

- ・1次受付で定員に達したクラスは、2次受付は行いません。

<2次説明・受付>

・1次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、2次説明・受付開始時刻(1時限9時40分、2時限11時20分、4時限15時40分)までに希望クラスの教室に行ってください。

授業内容について説明を受けた後、受講希望カードを担当教員に提出してください。

(人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。)

・2次受付の抽選にもれた学生及び第1回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口へ提出してください。所属クラスは第2回目の授業までに掲示します。

(イ)後期の所属クラスは「英語B₁」、「英語B₂」それぞれ前期と同一教員のクラスになります。

- ・前期に単位を修得できなかった場合でも、後期は同じクラスで受講可能です。

ただし、「通常クラス」から「基礎クラス」、「上級クラス」に限って変更ができます。

(ウ)「英語B Ⅰ」、「英語B Ⅱ」の「基礎クラス」と「上級クラス」は、前期から開講されます。ただし、食農学類に関しては「基礎クラス」、「上級クラス」は開講されません。

成績評価は「上級クラス」が「S、A、F」のいずれか、「基礎クラス」は「B、C、F」のいずれかになります。

・「基礎クラス」、「上級クラス」を希望する学生は、「通常クラス」と同様、第1回目授業開始時刻(1時限8時40分、2時限10時20分、4時限14時40分)に希望クラスの教室に行き、授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。(人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。)

・1次受付で抽選にもれた学生は、提出した受講希望カードを受け取り、受講可能クラスを掲示で確認し、2次説明・受付開始時刻(1時限9時40分、2時限11時20分、4時限15時40分)までに希望クラスに行ってください。授業内容等について説明を受けた後、別途配布する「受講希望カード」を担当教員に提出してください。

(人数が多い場合は、その場で抽選が行われます。)

・2次受付の抽選にもれた学生及び第1回目の授業を欠席した学生は、すみやかに受講希望カードを基盤教育係窓口提出してください。所属クラスは第2回目の授業までに掲示します。

(I)前期に通常クラスに所属していた学生に限り、後期から「基礎クラス」、「上級クラス」へ変更可能です。

受付期間は、9月中旬～下旬です。「上級クラス」、「基礎クラス」を希望する学生は手続きをしてください。手続き詳細や受講の認否は掲示板等でお知らせします。

(前期の時点で「基礎クラス」、「上級クラス」が定員を満たしている場合、また希望人数が多い等の場合は希望が認められないことがあります。)

(ウ)食農学類の学生で「英語B Ⅰ」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、自身が受講すべき必修の専門科目が入っていない他学類枠(月曜1時限または水曜1時限)の「英語B 基礎クラス」または「英語B 上級クラス」を受講することができます。他学類枠(月曜1時限または水曜1時限)の「英語B 基礎クラス」または「英語B 上級クラス」の受講を希望する学生は、時間割をよく確認したうえで、所定の手続き(上記(I))を行ってください。

(カ)食農学類の学生で「英語B Ⅱ」の「基礎クラス」または「上級クラス」の受講を希望する学生は、自身が受講すべき必修の専門科目が入っていない他学類枠(水曜2時限または金曜2時限)の「英語B 基礎クラス」または「英語B 上級クラス」を受講することができます。他学類枠(水曜2時限または金曜2時限)の「英語B 基礎クラス」または「英語B 上級クラス」の受講を希望する学生は、時間割をよく確認したうえで、所定の手続き(上記(I))を行ってください。

< 応用英語について >

(ア)1年次から、「応用英語」を履修することができます。

(イ)当該科目は、それぞれの授業の目的・内容が異なります。詳細はシラバスに記載さ

れています。

(ウ)ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり重ねて履修できます。

例：応用英語、別の科目

(I)修得した単位は、教養領域・外国語科目の単位として計上されます。

(オ)受講人数が多い場合、受講調整が行われることがあります。

(カ)同一曜日・同一時限の応用英語とアドバンスト演習は、同じ科目としてみなされるため、再修得できません。

<再履修等の履修手続きについて>

(ア)2年次生以上で「英語A・A」、「英語B・B」の再履修希望学生は、基盤教育係窓口から「英語再履修希望調査カード」を受け取り、第1回目授業開始時に希望クラスの教室に行き、カードを担当教員に提出してください。第1希望のクラスが受入不可で、第2、第3希望のクラスでも受付不可だった場合は、基盤教育係窓口まで申し出て下さい。

再履修希望カード配布時期：前期 3月中旬～下旬 / 後期 9月中旬

(イ)1クラス(半期)のみの再履修希望学生は、修得済みクラスの開講時期(前期/後期)に関わらず、前期、後期いずれでも履修可能です。

(ウ)再履修以外の理由(休学等)で、「英語A・A」を2年次生以上、「英語B・B」を3年次生以上で履修する学生も同じ手続きをとってください。

(I)再履修として前期から履修している学生は、後期の再履修手続は不要です。後期は、前期と同一教員のクラスになります。前期に「通常クラス」に所属し、後期から「基礎クラス」、「上級クラス」を希望する学生は、所定の手続きをとってください。

(オ)4年次生以上で専門教育科目の履修の関係で英語の再履修が困難な学生は、英語再履修受付期間に必ず基盤教育係窓口に申し出て下さい。

<外部検定試験の活用について>

「2019年度入学生からの英語に係る技能審査の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。

手続きは「LiveCampus」/ 掲示等でお知らせします。

<海外語学研修について>

「英語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。

手続きは「LiveCampus」/ 掲示等でお知らせします。

<行政政策学類夜間主の履修について>

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

<英語以外の外国語について>

英語以外の外国語は下記のとおり「 は前期、 は後期」に開講されます。

言語	1年次	1年次希望者 (基礎と同一セメスター)	2年次
ドイツ語	基礎・基礎	基礎(特設)・基礎(特設)	応用・応用
フランス語	基礎・基礎	基礎(特設)・基礎(特設)	応用・応用
中国語	基礎・基礎	基礎(特設)・基礎(特設)	応用・応用
ロシア語	基礎・基礎	基礎(特設)・基礎(特設)	応用・応用
韓国朝鮮語	基礎・基礎	基礎(特設)・基礎(特設)	応用・応用

<英語以外の外国語：履修について>

(ア)人間発達文化学類・行政政策学類・経済経営学類の場合

・**基盤教育接続領域外国語コミュニケーション科目**(履修基準表参照)として、1年次に英語以外の外国語(以下、非英と略す)の「基礎」「基礎」(計2単位： は前期、 は後期)を履修しなくてはなりません(**必修**)。外国語の1単位は、週1回、90分授業を前期または後期に15回受講し期末試験に合格することによって修得できます。

・**基盤教育教養領域外国語科目**(履修基準表参照)として、英語と非英のどちらか一方4単位、又は英語2単位と非英2単位、合わせて4単位を履修しなくてはなりません(**選択必修**)。外国語科目として履修できるのは、「基礎(特設)」「基礎(特設)」および「応用」「応用」です。

(イ)共生システム理工学類・食農学類の場合

・**基盤教育教養領域外国語科目**として、1年次と2年次で英語4単位か、非英4単位か、英語2単位+非英2単位のいずれかの形で、4単位履修しなければなりません(**選択必修**)。外国語の1単位は、週1回、90分授業を前期または後期に15回受講し期末試験に合格することによって修得できます。

・**基盤教育教養領域外国語科目**の4単位を、英語4単位で修得するのではなく、非英も受けて英語2単位+非英2単位、または非英4単位で修得したい学生は、1年次で非英の「基礎」「基礎」(2単位、(2)を参照)を修得する必要があります。また非英4単位を修得するには、「基礎」「基礎」(2単位)に加えて、「基礎(特設)」「基礎(特設)」(2単位)又は「応用」「応用」(2単位)(2)を参照)を修得する必要があります。

<英語以外の外国語：「基礎」「基礎」「基礎(特設)」「基礎(特設)」「応用」「応用」について>

(ア)「基礎」「基礎」(1年次)

・「基礎」「基礎」(各1単位)は、

ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語の5言語から1言語を選択し、「基

礎」と「基礎」は同じ言語を履修しなければなりません。

・「基礎」の履修は、当該言語「基礎」の単位修得が必要となります。なお、前期の「基礎」と後期の「基礎」は同一クラス(例えば「基礎 A」と「基礎 A」など)で履修します。

・「基礎」「基礎」は、行政政策学類と経済経営学類は火曜日 2 時限または木曜日 2 時限、人間発達文化学類と共生システム理工学類は火曜日 3 時限または木曜日 4 時限、食農学類は火曜日 3 時限に開講されます。

人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類の学生は、接続領域として合計 2 単位を必ず修得しなければなりません。なお、上記 2 単位を修得した後、別言語で「基礎」「基礎」の修得が可能ですが、修得単位は、自由単位への計上となります。

(イ)「基礎(特設)」「基礎(特設)」(1 年次)

・「基礎」「基礎」履修者のうち希望者は、同時に同じ言語の「基礎(特設)」「基礎(特設)」を履修することができます。この科目は「基礎」「基礎」で学ぶ言語の勉強にもっと力を入れたい学生のための科目です。この科目を受講する学生は、1 年次に同じ言語の授業を、「基礎」「基礎」と合わせて週 2 回受講することになります。なお「基礎(特設)」「基礎(特設)」は、「基礎」「基礎」と同様にセットで履修しなければなりません。

・フランス語、ロシア語、韓国朝鮮語の「基礎(特設)」「基礎(特設)」は、金曜日 2 時限に開講されます。金曜 2 時限に情報リテラシーや学術基礎科目、問題探究科目などの受講が確定した場合、フランス語、ロシア語、韓国朝鮮語の「基礎(特設)」「基礎(特設)」は受講できません。(なお、ドイツ語の「基礎(特設)」「基礎(特設)」は木曜日 2 時限と金曜日 2 時限、中国語の「基礎(特設)」「基礎(特設)」は火曜日 2 時限と火曜日 3 時限に開講されます。)

・なお、「基礎(特設)」を履修せずに「基礎(特設)」のみを履修することはできません。

(ウ)「基礎(特設)」「基礎(特設)」と「アドバンスト演習」(経済経営学類専門科目)

・「基礎(特設)」「基礎(特設)」は、「アドバンスト演習」「アドバンスト演習」(経済経営学類専門科目)としても履修できますが、その場合、修得単位は経済経営学類専門科目の単位となり、**基盤教育の外国語科目(必修 4 単位)に計上することはできませんので十分注意してください。**

・「基礎(特設)」「基礎(特設)」(は前期、は後期)を、「アドバンスト演習」として履修する場合は、必ず「アドバンスト演習 ①」と「アドバンスト演習」(は前期、は後期)をあわせて履修してください。「基礎(特設)」と「アドバンスト演習」、または「アドバンスト演習」と「基礎(特設)」を組み合わせるとはできません。

(I)「応用」「応用」(2 年次)

・1 年次の「基礎」「基礎」で学んだ語学力のレベルアップを図ります。また海外語学研修や留学への接続も意識した科目です。

・前期「応用」の履修には、当該言語「基礎」「基礎」の単位修得が必要となります。

また「応用」の履修には、当該言語「応用」の単位修得が必要となります。なお「応用」「応用」は同一クラス（例えば「応用 A」と「応用 A」など）で履修します。

・「応用」「応用」は、すべての言語で火曜 1 時限と木曜 3 時限にあわせて 2 クラス以上が開講されます。「応用」「応用」2 単位を修得（次頁表 の場合）するには、「応用」「応用」とも同じ 1 クラス（たとえば「応用 A」と「応用 A」）を選択し、それぞれ週 1 回受講しなければなりません。また「応用」「応用」4 単位を修得（上表 の場合）するには、「応用」「応用」とも同じ 2 クラス（たとえば「応用 A」と「応用 A」および「応用 B」と「応用 B」）を選択し、それぞれ週 1 回受講しなければなりません。クラス選択に指示がある場合はそれに従ってください。また において、「基礎(特設)」「基礎(特設)」のどちらかを修得できなかった場合、同一言語の「応用」「応用」で代替が可能です。

・「応用」・「応用」は、同一言語で 8 単位まで修得できますが、4 単位を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

(オ)「応用」・「応用」と「アドバンスト演習」(経済経営学類)

・「応用」「応用」は、「アドバンスト演習 ①」「アドバンスト演習」「アドバンスト演習」「アドバンスト演習」(経済経営学類専門科目)として履修することもできますが、その場合、修得単位は経済経営学類専門科目の単位となり、**基盤教育教養領域外国語科目(選択必修 4 単位)に計上することはできませんので十分注意してください。**

・「応用」「応用」(は前期、 は後期)を、「アドバンスト演習 ①」「アドバンスト演習」「アドバンスト演習」「アドバンスト演習」(①と は前期、 と は後期)として履修する場合は、必ず「アドバンスト演習」または「アドバンスト演習」と「アドバンスト演習」または「アドバンスト演習」をセットで履修してください。「応用」と「アドバンスト演習」、「アドバンスト演習」と「応用」などの組み合わせで履修することはできません。

・アドバンスト演習 の履修は、応用の修得単位に加えて 8 単位まで修得することができます。

(オ)教養領域「外国語科目」では英語と英語以外の外国語の同一言語を下表 ~ のいずれかで合計 4 単位を修得しなければなりません。学類毎に修得方法が異なりますので注意してください。

下表 ~ 以外で外国語科目 4 単位を修得しても、卒業要件を満たしません。(英語で 3 単位 + 英語以外の外国語で 1 単位、または英語で 1 単位 + 英語以外の外国語で 3 単位では、卒業要件を満たしません。)

<教養領域「外国語科目」4 単位の修得方法：人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類>

人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類

英語で4単位	英語B、英語B、応用英語から4
英語以外で4単位	同一言語の基礎(特設)・基礎(特設)を2、 応用・応用を2
英語以外で4単位	同一言語の応用・応用を4
英語で2単位と 英語以外で2単位	英語B、英語B、応用英語から2 同一言語の基礎(特設)・基礎(特設)を2、 または応用・応用を2

<教養領域「外国語科目」4単位の修得方法：共生システム理工学類、食農学類>

共生システム理工学類、食農学類	
英語で4単位	英語B、英語B、応用英語から4
英語以外で4単位	同一言語の基礎・基礎を2、 基礎(特設)・基礎(特設)を2
英語以外で4単位	同一言語の基礎・基礎を2、 応用・応用を2
英語で2単位と 英語以外で2単位	英語B、英語B、応用英語から2 同一言語の基礎・基礎を2

<英語以外の外国語：「基礎」「基礎」「基礎(特設)」「基礎(特設)」「応用」「応用」の履修手続きについて>

(ア)「基礎」「基礎(特設)」の履修言語・クラスは、希望言語調査をふまえて担当教員が指定します。詳しくは新入生ガイダンスで説明しますので必ず出席してください。なお「基礎」の希望者が1クラス30名を超える言語は、受講調整を行う場合があります。

(イ)「応用」「応用」を履修する学生は、選択するクラスの第1回目の授業に出席してください。

(ウ)「基礎」「基礎」「基礎(特設)」「基礎(特設)」「応用」「応用」は、履修撤回できません。

(エ)履修方法について質問がある学生は、基盤教育係窓口に相談してください。

<英語以外の外国語：「基礎」「基礎」「応用」「応用」の再履修手続きについて>

(ア)「基礎」の再履修希望学生は、3月上旬～下旬に基盤教育係窓口から「英語以外の外国語基礎 受講希望調査カード」を受領し、必要事項を記入の上、指定されたレポートBoxに提出してください。また「基礎」再履修とあわせて「基礎(特設)」の履修を希望する場合は、その旨を同カードに記入してください。手続き・詳細は1月下旬～2月上旬頃に掲示で指示します。

(イ)履修クラスは4月の授業開始前に掲示します。その指示に従って第1回目の授業を受

講してください。なお、この「受講希望調査カード」を提出しないと希望する言語が履修できないことがあります。

(ウ)「基礎」の再履修希望学生は、希望クラス第1回目の授業に出席してください。受講希望調査カードは不要です。事前に掲示による指示があった場合にはそれに従ってください。やむを得ない理由で第1回目の授業に出席できない場合は、必ず各言語の責任教員に相談してください。(責任教員は掲示により確認してください。)

(I)「応用」「応用」の再履修希望学生は、希望クラス第1回目の授業に出席してください。

<その他>

(a)外部資格試験を活用して、上記科目の単位認定を受けることができます。詳細は、「2019年度入学生からの英語以外の外国語に係る技能審査の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。手続きは「LiveCampus」/ 掲示等でお知らせします。

(b)海外語学研修を活用して、上記科目の単位認定を受けることができます。詳細は、「2019年度入学生からの英語以外の外国語の語学研修に係る学修の単位認定に関する要項」の記載を事前に確認しておいてください。また、所定の手続きをとってください。

手続きは「LiveCampus」/ 掲示等でお知らせします。

(c)留学ビザによる編入学生は「英語以外の外国語」として「日本語」の履修を認めることがあります。

<行政政策学類夜間主の履修について>

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

<外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について>

・外国人留学生は、外国語コミュニケーション科目・外国語科目・日本語科目の中から母語・母国語系統を除く1カ国語で次の から のいずれかの方法で8単位を修得しなければなりません。(日本語の履修が望ましいです。)

日本語	「 A・I B」・「 A・ B」・「 A・ B」・「 A・ B」 1	8単位
英語	「 A・ A」・「 B・ B」・「応用英語」 2	8単位
英語以外の外国語	ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語 いずれか 同一言語で「基礎」・「基礎」・「基礎(特設)」・「基礎(特設)」 「応用」・「応用」 2	8単位

1 「日本語」はローマ数字の順で修得してください。

(例：「日本語 A」の履修は「日本語 A」または「日本語 B」どちらか1単位の修得が必要です。「日本語 B」の履修は「日本語 A」または「日本語 B」どちらか1単位の修得が必要です。)

2 「英語」、「英語以外の外国語」は、それぞれの履修方法を参照してください。
なお、8単位を超えて修得した単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

・「日本事情」は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

上記で述べた点以外は、基盤教育の履修方法は一般学生と同じです。

1 2 . 教養領域の履修について

教養領域の履修について

今日、高等教育で重視されている教養教育は、学生が他領域で学ぶ他の学生と価値観を共有し、より幅広く他領域の専門内容を理解し、協働するための「共通の言語」を形づくることを目的としています。これらを踏まえ「教養領域」では、以下の科目を開講します。

「教養領域」、「問題探究領域」の各科目区分で必修単位を超えた単位を、選択必修として修得しなければなりません。学類毎の単位数は、下表のとおりです。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	7単位
共生システム理工学類、食農学類	9単位
外国人留学生（全学類）	9単位

また、それらを超えた単位は自由選択の単位として計上することができます。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

（１）学術基礎科目について

「人文科学」「社会科学」「自然科学」の分野からなり、幅広い教養教育の中心に位置する科目群です。各学問の基本的概念や特有の事象の見方・切り取り方を学ぶことによって、自らが専門として学ぶ学問とは異なる観点から多角的・学際的にアプローチする方法が数多く存在することに気づくことを目的としています。

<学術基礎科目の履修方法について>

学術基礎科目の3分野（「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」）から各2単位を修得しなければなりません。

を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

教員免許状取得を希望する学生は、「社会科学」分野の「日本国憲法」を修得してください。（ただし、行政政策学類生は学類の学修案内で科目を確認してください。）

科目名称についての注意

・授業科目名の二桁の数字だけが異なる場合は、同一の授業科目とみなします。この場合両方を履修することはできません。

例：日本国憲法 01、02 同一の科目

・ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり両方を履修することができます。

例：歴史学 、 別の科目

行政政策学類生は「市民と法」「日本国憲法 01、02」を履修できません。

経済経営学類生は「経済学 」「経済学 」を履修できません。

「履修希望受付」は、以下の「抽選履修登録方法」手続きで行います。

< 抽選履修登録方法 >

受付期間等や「LiveCampus (ライブキャンパス)」の抽選履修登録は、教務関係
日程表・マニュアル等により確認してください。

< 1 > 1次受付 (前期科目4月初旬/後期科目10月上旬)

履修希望科目のシラバスをあらかじめ確認し、曜日・時限毎に履修希望科目を
「LiveCampus」で抽選履修登録してください。第3志望まで登録ができます。

抽選履修登録の結果、教室収容人数を超える科目は「受講調整(人数制限)」が
行われる場合があります。

受講調整が行われる場合、抽選となります。

1次受付結果は「LiveCampus」で発表します。各自、確認してください。

1次受付で受講が認められた科目の扱いは、以下のとおりです。

- ・受講調整があった科目は、当該時間帯で科目の変更・追加・撤回できません。
- ・受講調整がない科目は、原則として当該時間帯で科目の変更・追加できません。

当該時間帯に1次受付で受講が認められた科目以外を登録すると「不正登録」とな
り、不正登録科目及び1次受付で受講が認められた科目も受講できなくなります。

受講調整があった科目は、「LiveCampus」等でお知らせします。

< 2 > 2次受付 (詳細は、1次受付結果発表の翌日に掲示等で確認してください。)

1次受付後、受講調整を行った結果、履修希望が認められなかった学生に限り
2次受付を行います。

受付期間・時間帯に注意してください。

対象科目は、教室収容人員で空きがある科目のみです。

- ・「先着順」で受付します。科目毎に受付用名簿へ本人が自筆で記入します。

科目毎で定員に達した時点が受付終了となります。

- ・1次受付で受講が認められた科目時間帯は、変更・追加できません。

2次受付で受講が認められた学生は、当該時間帯の科目を変更できません。

当該時間帯に別科目も登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び2次受付
で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。

2次受付結果は「LiveCampus」で登録及び修正期間内に各自、確認してください。

< 3 > 3次受付 (詳細は、2次受付結果発表の翌日に掲示等で確認してください。)

1次受付の抽選履修登録を忘れた学生への救済措置として特別に3次受付を行
うことがあります。

受付期間・時間帯に注意してください。

対象科目は、教室収容人員で空きがある科目のみです。

・「先着順」で受付します。科目毎に受付用名簿へ本人が自筆で記入します。

科目毎で定員に達した時点が受付終了となります。

・1次受付及び2次受付で受講が認められた科目時間帯は、変更・追加できません。

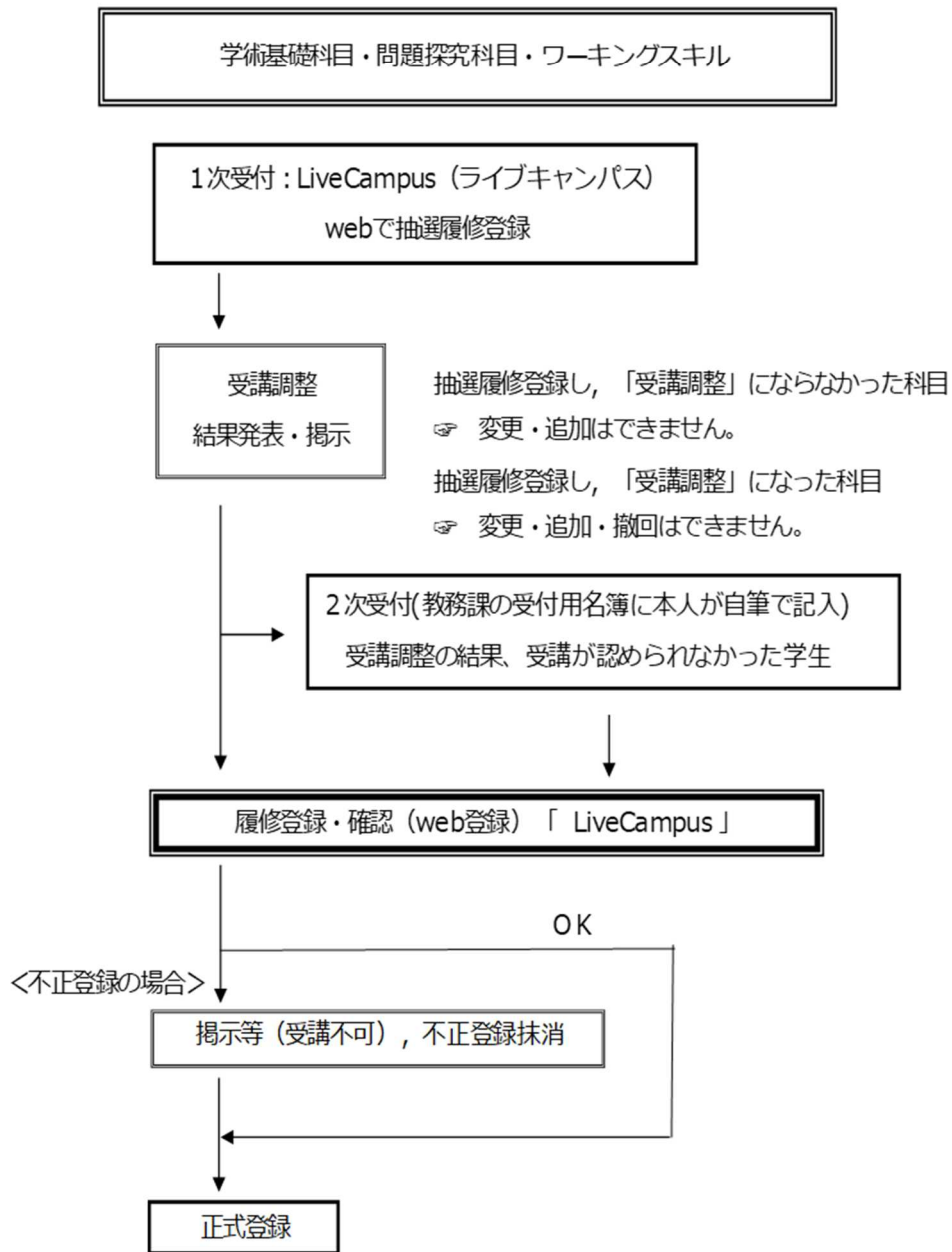
3次受付で受講が認められた学生は、当該時間帯の科目を変更できません。

当該時間帯に別科目も登録すると「不正登録」となり、不正登録科目及び3次受付で受講が認められた授業科目も受講できなくなります。

3次受付結果は「LiveCampus」で登録及び修正期間内に各自、確認してください。

〈注意〉

抽選登録に関するマニュアルは入学式当日に配布した「新入生共通ガイドブック」内に記載しています。マニュアルを参考に必ず期間中に抽選履修登録をしてください。「共通ガイドブック」は教務課HPからもダウンロードできます。



(※) 3次受付について：1次受付の抽選履修登録を忘れた学生への救済措置として、2次受付終了後に空きがある科目にかぎり特別に3次受付を行うことがあります。

(2) キャリア設計科目について

「キャリアモデル学習」「インターンシップ」「ワーキングスキル」の3科目からなります。「キャリアモデル学習」は各学類に関わりの深い職業人による、職業や仕事内容、人生設計などについての講義が中心の科目です。

「インターンシップ」とは、大学に在学したまま、一定期間企業や自治体などで就業体験を行う科目です。実社会での就業体験を通して、社会の基本的なルールやマナーを修得するとともに、自分自身の将来の職業に関する意識を形成することを目的としています。学生が自主的に行うインターンシップについては、キャリア支援課へご相談ください。

「ワーキングスキル」は、めまぐるしく変貌を遂げる現代社会の中で、より豊かなキャリア設計を実現するために、最新のスキルや知識を修得するための科目です。キャリアモデル学習は、別項目<キャリアモデル学習の履修について>を参照してください。

<インターンシップの履修について>

(2年生以上、食農学類は3年生以上)4月に希望者向けガイダンスを実施しますので、別途掲示等を確認してください。

<ワーキングスキルの履修について>

2年生以上から履修が可能です。

「抽選履修登録方法」は、学術基礎科目と同様の手続きで行いますので、その手続きを確認してください。

(3) 健康・運動科目について

身体運動を楽しみ、生涯を通して、健康でスポーツに親しむ技能・知識を身に付けることを目的として「スポーツ実習」を開講します。

<スポーツ実習の履修について>

「スポーツ実習」は、1年次後期から履修することができます。また、同一種目の場合でも複数回の履修が可能です。修得した単位は、選択必修または自由選択の単位になります。

第1回目の授業の際に受講調整を行います。集合場所は、第1体育館(入学式と同じ会場)です。筆記用具と屋内シューズ、屋外シューズを持参し運動できる格好で出席してください。欠席すると希望する種目が履修できないことがあります。

スポーツ実習は、履修登録撤回できません。

「スポーツ実習」の履修にあたっては、履修時限の指定はありませんが、教員免許状取得希望者が優先となります。

教員免許状取得のためには、「体育」科目として「健康運動科学実習」1単位に加え「スポーツ実習」1単位の修得が必要です。下記表の曜日・時間において、教員免許状取得

希望者を優先としますので、指定された学類の履修時限にて履修をしてください。尚、教員免許取得希望者は、必ず第1回目の授業の際に担当教員に伝えてください。

スポーツ実習	教員免許希望者が優先される学類
月曜日 2時限	行政政策学類、経済経営学類
月曜日 3時限	人間発達文化学類
金曜日 3時限	共生システム理工学類、食農学類

(4) 外国語科目について

別項目<英語、英語以外の外国語の履修について>を参照してください。

外国人留学生は、同じく<英語、英語以外の外国語の履修について>にある

<外国人留学生向け「日本語」及び「日本事情」の履修について>も参照してください。

(5) 情報科目について

高度情報化社会においてパーソナル・コンピュータやネットワークなどの情報機器を適切に操作・活用し、情報の収集・整理・編集・発信・コミュニケーションを主体的に行うための基礎スキルの修得をめざします。具体的には、基本的な情報機器の構成・操作方法を理解し、情報収集、文書作成・データ集計などの方法を学びます。また、インターネットなどの情報発信・コミュニケーションに関わる基礎知識を身につけ、セキュリティなど日頃注意を払うべき事柄と心構えを学びます。

学修内容：コンピュータのしくみ（ハードウェア/OS/ソフトウェア）/ Word、PowerPoint/インターネットと情報セキュリティ/ Excel とその実際/情報倫理/情報の収集・整理・編集の実際
--

<情報リテラシーの履修について>

修得単位は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

なお、教員免許状取得を希望する学生は必ず修得してください。

情報リテラシーは、履修登録撤回できません。

受講を希望する学生は、各自で持ち運び可能なノートパソコンを準備し、大学に持参してきてください。推奨するPCのスペック等については、福島大学ホームページ内のBYODサポートページ（福島大学トップ > 在学生 > 教務課（授業・履修案内））を参照してください。

前期履修手続き

・履修手続きは、新入生ガイダンスの時にを行います。「情報リテラシー」の希望クラスを選択のうえ「受講希望調査カード」を提出してください。受講希望に基づき、決定した所属クラスを決定次第、「LiveCampus」及び基盤教育掲示板に掲示します。

1 回目の授業を受ける前に必ず所属クラスと教室を確認して履修してください。

- ・ 全て同一科目のため複数クラスは受講できません。
 - ・ 受講希望者数がクラスの収容人数を超えた場合、抽選となります。
 - ・ 2 年次生以上の学生は、基盤教育係窓口から「受講希望カード（2 年次生以上）」を受領し、希望クラスを記入のうえ、指定されたレポート Box へ提出してください。
- 受付期間は 3 月中旬～下旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。
結果は決定次第、掲示します。「情報リテラシー」の履修登録は教務課で行います。

後期履修手続き

- ・ 前期の履修手続きで後期開講「情報リテラシー」の各クラスに編成された学生は履修希望を再提出する必要はありません。掲示情報を確認し、所属クラスの授業を履修してください。
- ・ 前期の履修希望受付期間に「受講希望カード」を提出しなかった後期履修希望学生、再履修希望学生は受講可能なクラスを掲示で確認し、受講希望カードを基盤教育係窓口へ提出してください。

受付期間は 9 月中旬～下旬です。手続き・詳細は別途掲示でお知らせします。

結果は決定次第、掲示します。「情報リテラシー」の履修登録は教務課で行います。

再履修について

- ・ 「情報リテラシー」の再履修は基本的に認められますが、受講希望人数が収容可能数より多い場合は抽選をおこない、再履修者の受講を決定し、掲示でお知らせします。

(6) 高年次教養科目について

「教養領域」の科目は、学年指定がない限り 1 年次のうちに履修してしまう学生が多いと思います。しかしながら、幅広く他領域の専門内容を理解し、学際性を養うことは、本格的に専門教育を学び始めた 2 年次以上でも大事になってきます。

そのために、「高年次教養科目」という仕組みを設けました。対象となる他学類の専門科目を 2 年次以上で履修した場合に、基盤教育の「教養領域」と「問題探究領域」にまたがる選択必修の単位として計上することができます。(学類毎の単位数は下表のとおりです。)必修単位分として計上することはできないので注意してください。なお、科目名等は、別途掲示を確認してください。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	7 単位
行政政策学類（夜間主）	1 1 単位
共生システム理工学類、食農学類	9 単位
外国人留学生（全学類）	9 単位

13．キャリアモデル学習の 履修について

(13) キャリアモデル学習の履修について

学類毎の開講となります。詳細は、掲示等でお知らせします。

人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類は「キャリア設計科目」の中から
選択して修得することになります。

共生システム理工学類、食農学類は、**必ず修得しなければなりません。**

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

開講	科目	担当教員	曜日	時限	履修年次	単位	教室	備考
前期	キャリアモデル学習	開講科目一覧を参照	木	4	2	2	開講科目一覧を参照	人間発達
	キャリアモデル学習	時間割を確認			2	2		行政政策
前期	キャリアモデル学習	福富靖之・吉田樹	木	5	3	2	L 1 / L 4	経済経営
前期	キャリアモデル学習	川崎 興太 他	月	5	2	2	L4	理工
前期	キャリアモデル学習	二瓶 直登 他	火	3	2	2	食農棟 みらい ホール	食農

1 4 . 問題探究領域の履修について

問題探究領域の履修について

「問題探究領域」は、東日本大震災や地域の過疎化などの現実的な問題から、「自分事」として取り組むべき課題を発見し、集団で問題解決に向けて調査・議論・実践を行うことを目的としています。これらを踏まえ、以下の科目を開講します。

「教養領域」、「問題探究領域」の各科目区分で必修単位を超えた単位を、選択必修として修得しなければなりません。学類毎の単位数は、下表のとおりです。

学類	単位数
人間発達文化学類、行政政策学類、経済経営学類	7 単位
共生システム理工学類、食農学類	9 単位
外国人留学生（全学類）	9 単位

また、それらを超えた単位は自由選択の単位として計上することができます。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

（１）問題探究科目

福島の震災・原発事故に関する問題や、地域や世界の今日的な課題を学び、その原因解明や問題解決方法を考えることを目的とし、「問題解決を基盤とした学習」の中心に位置づく科目です。

具体的な問題解決の事例や各学問によるアプローチの手法を学ぶ講義型科目のほか、学生たちが自ら問題解決に取り組むアクティブ・ラーニング型の科目も開講します。

<問題探究科目の履修について>

2 単位を修得しなければなりません。

を超えて修得した単位は選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

行政政策学類生は、夜間開講の問題探究科目で受講できる科目があります。

詳細は、行政政策学類の掲示等で確認してください。

科目名称についての注意

・ローマ数字が異なる場合は、別の授業科目となり重ねて履修できます。

例：ふくしま未来学入門 ， 別の科目

「抽選履修登録」は、教養領域の学術基礎科目と同様の手続きで行いますので、その手続きを確認してください。

「受講調整（人数制限）」が行われる場合があります。

(2) 自主学修プログラム

自主学修プログラムは、学生が自主的にグループを組織してテーマ・内容を設定し、任意の教員の指導のもとで学修することにより、単位が認定される制度です。活動は、自主的な協働学習やプロジェクト型の学修が主たる内容です。

自主学修プログラムは、学修の企画を立ち上げ、計画し、実践して成果をまとめるという一連のプロセスを評価し、単位認定します。

<自主学修プログラムの履修について>

修得単位（1単位または2単位 / 認定単位は「N（認定）」評価）は、選択必修または自由選択の単位として計上することができます。

前期申請は4月、後期申請は10月です。詳細は、別途掲示等を確認してください。

(3) 問題探究セミナーについて

別項目<問題探究セミナーの履修について>を参照してください。

15 . 問題探究セミナー の 履修について

(15) 問題探究セミナー の履修について

「問題探究セミナー」は、本学の教育理念でもある「問題解決を基盤とした教育」の入口科目で「スタートアップセミナー」とともに初年次教育の重要な科目であり、「スタートアップセミナー」がアカデミック・スキルズの定着を目的とするのに対し、この科目は現実の問題に対する理解・探究・解決を目的とするものです。すなわち、両者は縦系と横系の関係になります。

行政政策学類夜間主の学生については、『行政政策学類夜間主学修案内』を確認してください。

<問題探究セミナー の履修手続きについて>

2単位を修得しなければなりません。学類毎にクラスが分かれていますので、詳細は、各学類の掲示等で確認してください。

未修得者は、必ず履修登録前に「LiveCampus」/各学類の掲示等で確認の上、教務課各学類窓口で申し出てください。

問題探究セミナー は、履修登録撤回できません。

問題探究セミナー 担当者一覧

人間発達文化学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメスター	単位数	教室
問題探究 セミナー	A	木 3	植田 啓嗣	2	2	M23
	B		富永 美佐子			S44
	C		原野 明子			臨セ音り実
	D		中村 恵子 鶴巻 正子			人 201 演
	E		新井 浩			S22
	F		半沢 康			S23
	G		佐久間 康之			S31
	H		小松 賢司			S33
	J		和田 正樹			S35
	K		杉浦 弘一 松本 健太			S43 M4

行政政策学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スター	単位数	教室
問題探究 セミナー	ガイダンスおよび時間割を確認			2	2	

経済経営学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スター	単位数	教室
問題探究 セミナー	A	木 3	沼田大輔	2	2	
	B		岩井秀樹			
	C		岩本吉弘			
	D		大川裕嗣			
	E		稲村健太郎			
	F		藤原遥			
	G		根建晶寛			
	H		野口寛樹			
	I		三家本里実			
	J		村上早紀子			
	K		尹卿烈			
	L	木 5	井本亮			
	M	木 3	クズネツォーワ・マリナー			

共生システム理工学類

授業科目名	クラス	曜日 時限	担当教員	セメ スター	単位数	教室
問題探究 セミナー	A	月 5	衣川 潤	2	2	S 1 1
	B		木村 勝彦	2	2	S 1 2
	C		高貝 慶隆	2	2	S 1 3
	D	木 3	高原 円	2	2	L L 教室
	E	月 5	高安 徹	2	2	S 2 1
	F		永幡 幸司	2	2	S 2 2

	G		藤本 勝成	2	2	S 2 3
	H		三浦 一之	2	2	S 2 8

食農学類（問題探究セミナー）

授業科目名	クラス	担当教員	曜日 時限	セスター	単位数	教室
農場基礎実習	授業内で グループ分け	高田 大輔 他	木 3、4	2	2	農場 ほか

1 6 . 学類・コースの紹介

学類・コースの紹介

1. 共生システム理工学類における教育の特色

共生システム理工学類では、(1)基礎・基本を重視し、自ら問題を設定し、問題解決のできる教育の重視、(2)視野の広い人材を育成するための文理融合型教育の重視、(3)国際貢献できる国際性を身につけた教育の重視、(4)実践力を身につける実践型教育の重視、の4つを教育の柱としています。これらの具体化のために、「専門教育」を、「学類共通領域」(学類共通科目+学類基礎科目+学類専門科目)、「コース領域(講義科目+実践科目)」、「演習」、「卒業研究」の4つに区分し、それぞれに基礎単位を必修化すると同時に、選択科目を可能な限り拡大し、きめ細かな修学指導を行うことによって、学生の多様な学習ニーズに対応しています。

2. 共生システム理工学類の構成

21世紀の課題を見据え、その解決に貢献できる人材を育成することが本学類の目標です。そのために、本学類は「数理・情報科学コース」、「経営システムコース」、「物理・システム工学コース」、「物質科学コース」、「エネルギーコース」、「生物環境コース」「地球環境コース」「社会計画コース」「心理・生理コース」の9コースから構成されています。すべてのコースの「専門教育」で、理工系の基礎・基本科目、「自由選択」で、経営や環境を理解する科目を配置しています。その上で理工系の専門科目を配置し、少人数によるきめ細かい教育支援体制とGPA等による達成度評価により、学生の基礎学力を保証します。以下に、それぞれのコースのカリキュラムの特徴等を説明します。

(1) 数理・情報科学コース

数理・情報科学コースがめざすもの

現代の複雑な社会・自然現象を解明するためには、数学的モデル化、シミュレーション、分析が必要です。また、発展・変化の著しい高度情報化社会に対応するためには、情報システムの設計・開発・運用を行える実践的能力も求められています。

本コースは、数学・数理科学と情報科学を見渡したカリキュラムを備え、いずれを専門とする学生も隣接領域への視野と実践・応用力を養うための学習・研究を行います。

キーワード

数学、ソフトウェア、情報科学、ネットワーク、シミュレーション、データ工学など

(2) 経営システムコース

経営システムコースがめざすもの

本コースでは、企業経営の効率化のための工学的手法(IE)とマネジメント手法(MOT)を学びます。

企業経営とは、製品開発・生産・流通・サービスなどの企業活動を管理(計画・実施・評価・改善)・マネジメントすることです。現在直面している・将来必ず起こりうる、さまざまな企業経営の諸問題に対し、俯瞰的・的確な解決策を提示できるような学習・研究をします。

キーワード

経営、サービス、IE、開発、工学的手法、MOT、生産、マネジメント、流通、経営環境など

(3) 物理・システム工学コース

物理・システム工学コースがめざすもの

本コースでは物理や機械・電気・情報工学に関する基本的な知識の修得をベースとして、社会に役立つ新たな“もの”や“技術”、“システム”の創出を担う研究者・開発者を育てます。

学習・研究分野として、物理、機械、電気といった基本分野のほか、モデリングや数値シミュレーションを駆使してサイバネティクス、福祉・医工学、知能ロボットなどの人と工学とが融合した分野も対象としています。

キーワード

物理、機械・電気工学、ものづくり、信号処理・制御、生体・医用工学など

(4) 物質科学コース

物質科学コースがめざすもの

近年、人類は資源・エネルギー・環境分野に対する多くの問題に直面しています。本コースでは、省エネルギー・省資源など低環境負荷の観点から、化学を基盤とした物質科学や材料工学に関する体系的な学問を習得するとともに、化学実験を通して、上記の諸課題に取り組む研究をします。これらの学習・研究とともに、産官学連携を見据えた実践教育も多く取り入れ、環境に配慮した先進的な「ものづくり」に貢献できる人材を育成します。

キーワード

化学、先端材料、新素材開発など

(5) エネルギーコース

エネルギーコースがめざすもの

原子力発電所事故は福島に大きな被害を与えました。地球温暖化を招く化石エネルギー資源に、過度に依存することも許されません。持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育てるため、本コースではエネルギー資源の状況と省エネ・創エネ・畜エネの技術を幅広く学び、エネルギーを切り口に科学技術・社会構造・経済構造の在り方を考えます。

キーワード

再生可能エネルギー、地球温暖化対策、省エネ・創エネ・畜エネなど

(6) 生物環境コース

生物環境コースがめざすもの

生態学、形態学、分類学、発生学、遺伝学、微生物学など生物学の基礎を学び、多様な実験・野外実習科目で実践力をつけます。研究室では環境保全・生物保全などの応用にも取り組みます。環境や生物多様性の調査や保全、遺跡出土物の分析など、地域や社会への貢献を意図した教育・研究に力を入れるのもこのコースの特色です。

キーワード

生態学、環境微生物学、生物多様性、保全生物学

(7) 地球環境コース

地球環境コースがめざすもの

自然災害・水資源の減少・温暖化などの地球環境に関する問題は、様々な要素が複雑に絡みあっています。このコースでは、地球環境を構成する地形・地質・気象・水循環などを基礎から学び、野外調査やモデリングを通して実践力を身につけます。日本や世界で発生する自然災害の予測や防災、人間活動や地球温暖化が地域や地球全体の環境に及ぼす影響の解明から課題の解決につながる研究へと発展させます。

キーワード

地球環境、水循環、自然災害、環境予測、防災

(8) 社会計画コース

社会計画コースがめざすもの

持続可能な社会の構築を目指して、文理の垣根を超えた総合的な視点から、計画的にアプローチする方法を学ぶコースです。環境を構成する自然、社会、文化の各側面から問題点を総合的に捉え、都市や農村の空間を効果的にデザイン・計画するとともに、行政・事業者・市民による協働の取り組みを進めていくための専門分野を探究します。

キーワード

社会、都市、持続可能性、環境、農村、デザイン(思考)、地域、計画

(9) 心理・生理コース

心理・生理コースがめざすもの

科学技術がいかに発展したとしても、それを支え、利用しているのは人間です。さまざまな視点から人間を理解し、それらの知見を科学技術に応用できる能力の修得をこのコースでは目指します。心理学、生理学、関連する学問分野を学習し、人間の心理・生理的仕組みを解明する研究や、それらを医療、介護、福祉、教育など専門性の高い領域で応用するための研究へと発展させます。

キーワード

心理学、生理学、心理・生理学実験、質問紙調査、脳神経科学、脳と心

3. グループ・アドバイザー 制度について

大学での学び方等の導入教育や大学生活に関する様々なガイダンスを効率よく行うために、また、教員と学生の双方に良き緊張関係を醸成し、密度の高い授業を行うために、相談に乗ったり、アドバイスをしたりする「グループ・アドバイザー」が置かれています。

グループ・アドバイザーは入学時に編成される「スタートアップセミナー」に置かれ、学生が研究室に配属するまでの間(第1 Semesterから第5 Semester)、学生の生活と修学の指導を継続して行います。グループ・アドバイザーは学生個人やクラスにおいて生じる問題の相談に応じ、アドバイスをしますが、学生の生活を規制したり、監督したりするものではありません。所属する研究室が第6 Semesterで決定すると、グループ・アドバイザーが行っていた学生の生活と修学の指導は、基本的には所属研究室の指導教員に引き継がれます。

4. コース所属と研究室配属について

(1) コース所属

コース所属は第3セメスターからで、**総単位数24単位以上を修得した者が許可されます。**コースの決定は、春季休業中に行われます。学生がコースの希望(第1希望から第9希望まで)を提出した後、第1～2セメスターで履修した全科目の総G P (同点の場合はG P A)を基に、その上位の者から順にコースが決定されます。

各コースの定員は、各コースの担当教員数によって、調整(教員数×3名程度の学生)され、決定されます。

なお、過年度生がコース所属を希望する場合、所属決定時までの総G P を用います。総G P が同点の場合に用いるG P Aは、配属決定時までのG P Aを用います。

ここで、総G P とは修得した各科目の単位数とその科目のG P との積の総和です。

(2) 転コース

一度はコースに所属したものの、学習を進める過程で興味の対象や将来希望する進路が変わり、他のコースで学習を進めたいという学生のために「転コース」制度があります。

転コースは第6セメスターからで、学類内の全コースに所属する学生が対象となります。転コースを希望する学生は、定められた期日(5セメ)までに教務課に届けを出さなければなりません。また、出願時には80単位以上を修得していなければなりません。

転コースの選考は、夏季休業中に行い、以下の点から総合的に判断して決定されます。

提出された文書による転コースの理由の確認

面接による、転コースの理由、勉学意欲の有無、成績などの確認

転コースした学生がどのセメスターに位置づけられるかは、その学生の修得した科目、単位数にしたがって判断されます。したがって、転コースした学生の4年間での卒業は保証されません。

(3) 研究室配属

研究室配属は第6セメスターからで、**以下の2つの条件すべてを満たした者が許可されます。**

学類共通科目及び学類基礎科目の卒業要件単位を修得していること。

総修得単位数が90単位以上であること。

学生の研究室配属については、学生の希望と第1～5セメスター(過年度生の場合は第1～研究室配属直前のセメスターまで)で修得した通算G P A (G P A対象外科目を除いて計算)などによって決定されます。研究室配属決定の手順については第5セメスターに実施されるガイダンスで詳しく説明しますので、ガイダンス開催の掲示に注意してください。

研究室に配属になった者は、その研究室の教員が開講する「演習」、「演習」、「卒業研究」、「卒業研究」を修得しなければなりません。

17 . 専門教育、自由選択の 履修について

専門教育、自由選択の履修について

1. 専門教育の履修について

共生システム理工学類の専門教育では、人理解、産業、環境科学に関する導入的・基礎的内容を修得してもらうための「学類共通科目」・「学類基礎科目」・「学類専門科目」と、学士レベルでのキャリア形成のための専門性を身に付けるためのコース領域「コース基礎科目（必修）」・「コース専門科目（選択必修）」・「コース実践科目」が配置されています。これらは、他学類や他コースの専門教育科目も含めて専門教育レベルでの文理融合型のカリキュラムで編成されています。

卒業に必要な単位数は、「履修基準表」に示されていますが、開設授業科目や卒業までに修得しなければならない授業科目の修得方法については、「履修方法の基準」により定められています。

「履修方法の基準」のうち、専門教育の科目にかかわるものには、次ページ以降に掲載されている「**専門教育のうちの学群・学類共通領域の履修方法の基準（各コース共通）**」と「**専門教育のうちのコース領域・演習・卒業研究の履修方法の基準（各コース別）**」があります。それぞれの基準を示した表には開設授業科目、単位数及び履修セメスターが記載されており、それぞれの基準で定められた必修及び選択必修の単位数を修得する必要があります。また、履修セメスターは、当該科目が履修可能となるセメスターを表しており、指定されたセメスターよりも前のセメスターでは履修できません。

(1) 「専門教育のうちの学類共通領域の履修方法の基準（各コース共通）」は、次ページの表1に記載されています。この表には、「履修基準表」の領域区分ごとに、開設授業科目等が記載されています。学類共通科目は「共生の科学」と「共生の科学」の2科目4単位を修得することが定められています。学類基礎科目Aは、「数学（解析学）」、「物理学（力学）」、「化学」、「プログラミング基礎」の4科目8単位を修得することが定められています。学類基礎科目Bは、「数学（線形代数）」・「生物学」・「地球科学」の3科目から2科目を選択して4単位を修得することが定められています。学類基礎科目Cについてもそれぞれの科目区分の中から選択して定められた単位を修得する必要があります。また、学類専門科目は、「共生の科学」の2単位を修得することが定められています。

(2) 「専門教育のうちのコース領域・演習・卒業研究の履修方法の基準（各コース別）」は、各コースのコース基礎科目（必修）・コース専門科目（選択必修）・コース実践科目は、各コースで専門性を身につけるための科目です。

コース基礎科目（必修）・コース専門科目（選択必修）は、指定されたセメスター以降のセメスターにいる場合はコース所属前に修得することができます。コース所属前に修得した科目が、所属したコースで開講している科目の場合はそのコースの科目に計上されますが、所属したコースで開講していない科目の場合は自由選択領域の科目に計上されます。ただし、自由選択科領域の要卒単位は10単位なので、10単位までを上限とします。それ以上の履修もできますが、要卒単位としては計上されません。

コース実践科目は、コースに所属した後に自分が所属しているコースの科目を履修することになります。他コースの実践科目は履修することができません。ただし、教育職員免許状取得希望者は、希望する免許取得又はプログラム修了に必要なコース実践科目に限って履修できます。なお、他コースの実践科目は自由選択領域に計上されます。

【問題探究セミナー について】

共生システム理工学類の「問題探究セミナー」は、第4セメスターにコース実践科目の必修科目として開講されます。1年次に問題探究セミナーで習得したスキルを活用し、理工学的な視点・知識を用いた課題設定とそれらの解決に向けて、追求する方法や態度を身につけることを目的とし

ています。よって「問題探究セミナー」では、配属されたコースで学んでいる専門知識を活用し、より本格的に課題を解決するための実践力を身につけることが期待されています。

具体的な課題の設定およびグループ作りはコースごとに行われますので、コース担当教員の指示に従ってください。なお、最終回には成果を報告する発表会が開かれます。

「問題探究セミナー」のコアタイムとして火曜日5限が充てられていますが、定められた時間帯以外にも講義の空き時間などを利用して、課題解決に向け積極的に実験や製作などに取り組めるよう担当教員と相談しながら進めてください。

【卒業論文について】

- (1) 卒業するためには卒業研究を行わなければなりません。
- (2) 卒業研究の実施資格は、研究室に所属し、その研究室の教員が開講する「演習」の単位を修得した者に与えられます。
- (3) 卒業研究の実施資格を得た者（「演習」の単位修得者）は、所属する研究室の教員が開講する「演習」、「卒業研究」、「卒業研究」をすべて修得しなければなりません。
- (4) 「卒業研究」の単位修得のためには、卒業論文を提出しなければなりません。
- (5) 卒業論文の題目は、原則として、自分の所属するコースの専門分野に関するものでなければなりません。
- (6) 卒業論文は、卒業年度の1月31日（土曜日のときは翌々日、日曜日のときは翌日）までに、「卒業論文提出カード」とともに教務課に提出しなければなりません。
修業年限を超えた者で9月卒業を希望する者の場合は、前期履修登録期間内に「9月卒業希望届」を提出し、卒業論文は、卒業年度の8月31日（土曜日のときは翌々日、日曜日のときは翌日）までの提出となります。

なお、卒業論文の提出期間は、掲示による教務関係日程表を参照してください。

(7) 卒業論文提出上の注意事項

卒業論文は、原則としてパソコン等を用い、A4判用紙にプリントアウトしたものを、仮製本するか、ファイルに綴じるなどして、体裁を整えた状態で提出してください。また、表紙には、卒業論文題目、指導教員名、学籍番号、氏名を明記してください。

専門教育の履修方法の基準

表1 専門教育のうちの学類共通領域の履修方法の基準

領域区分		授業科目	単位	必修	選択 必修	履修 セメス ター	開講予定				備 考
							'22	'23	'24	'25	
学 類 共 通 領 域	学類共通科目	共生の科学	2	4	/	1					
		共生の科学	2			2					
	学類基礎科目 A	数学（解析学）	2	8	/	1					
		物理学（力学）	2			1					
		化学	2			1					
		プログラミング基礎	2			2					
	学類基礎科目 B	数学（線形代数）	2	4	/	1					
		生物学	2			1					
		地球科学	2			1					
	学類基礎科目 C	数学（統計学）	2	4	/	2					
		物理学（電磁気学）	2			2					
		化学	2			2					
	学類専門科目	共生の科学	2	2	/	5					

表2 専門教育のうちコース領域・演習・卒業研究の履修方法の基準

数理・情報科学コース(表2-1)

区分	授業科目	単位	必修	選択必修	履修セメスター	開講予定				備考
						'22	'23	'24	'25	
コース領域	コース基礎科目 (必修) (16単位)	基礎解析学	2	16	/	3				人間発達文化学類開講科目
		線形写像と幾何	2			3				
		集合と位相	2			3				
		離散数学	2			3				
		情報科学概論	2			3				
		計算機システム論	2			3				
		アルゴリズムとデータ構造I	2			4				
		データベースシステム	2			4				
	コース専門科目 (選択必修) (24単位)	情報社会と情報倫理	2	24	/	3				
		集合と位相	2			4				
		基礎解析学	2			4			人間発達文化学類開講科目	
		ソフトウェア設計開発論	2			4				
		線形写像と幾何	2			4				
		プログラミング言語論	2			4				
		マルチメディアシステム論	2			5				
		形式言語とコンパイラ	2			5				
		応用数学	2			5				
		ネットワークシステム	2			5				
		数理モデリング	2			3				
		経営工学	2			3				
		経営のデータ科学	2			3				
		人間工学	2			4				
		オペレーションズ・リサーチ	2			4				
		解析学	2			4				
		基礎解析学	2			5			人間発達文化学類開講科目	
		アルゴリズムとデータ構造	2			5				
		解析学	2			5				
		デジタル信号処理	2			5				
	経営情報システム	2	5							
	情報科教育法	2	5							
	情報科教育法	2	5							
	応用数学	2	6							
	人工知能と知識処理	2	6							
情報理論	2	6								
コース実践科目 (10単位)	問題探究セミナー	2	6	/	4					
	プログラミング	2			3					
	プログラミング	2			4					
	プログラミング	2			5					
	数理・情報学ゼミI	2			5					
	数理・情報学ゼミ	2			6					
応用情報学演習	2	6								
演習	演習	2	4	/	6					
	演習	2			7					
卒業研究	卒業研究	2	4	/	7					
	卒業研究	2			8					

選択必修科目のうち 印のついている科目から12単位以上修得すること。

経営システムコース（表2-2）

区分	授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セ メス ター	開講予定				備 考		
						'22	'23	'24	'25			
コ ー ス 領 域	コース基 礎科目 (必修) (16単位)	経営工学	2	16	/	3						
		生産管理概論	2			3						
		流通管理概論	2			3						
		経営のデータ科学	2			3						
		産業・社会調査法	2			3						
		経営システム概論	2			3						
		製品開発概論	2			4						
		循環型産業論	2			4						
	コース専 門科目 (選択必 修) (24単位)	情報科学概論	2			24	/	3				
		入門会計学	2					3~				経済経営学類開講科目
		経営戦略論	2					3~				経済経営学類開講科目
		オペレーションズ・リサーチ	2					4				
		品質管理	2					4				
		サプライチェーンマネジメント	2					4				
		人間工学	2					4				
		基礎経営学	2					3~				経済経営学類開講科目
		エコロジカル経済学	2	5								
		経営情報システム	2	5								
		環境経済学	2	5~						経済経営学類開講科目		
		離散数学	2	3								
		数理モデリング	2	3								
		基礎解析学	2	3						人間発達文化学類開講科目		
		心理学概論	2	3								
		都市計画概論	2	4								
		入門統計学	2	3~						経済経営学類開講科目		
		地域と経済	2	3~						経済経営学類開講科目		
		社会調査論	2	3~						行政政策学類開講科目		
		基礎解析学	2	4						経営システムコースの学生のみ履修可 人間発達文化学類開講科目		
		データベースシステム	2	4								
		アルゴリズムとデータ構造I	2	4								
		ソフトウェア設計開発論	2	4								
		生物・地球環境システム概論	2	4								
		科学技術と環境の倫理学	2	4					x	x	人間発達文化学類開講科目 隔年開講	
		基礎経営学	2	3~							経済経営学類開講科目	
		統計学概論	2	3~							経済経営学類開講科目	
		原価計算	2	3~							経済経営学類開講科目	
		管理会計	2	5~							経済経営学類開講科目	
		基礎解析学	2	5							人間発達文化学類開講科目	
		応用数学	2	5								
		都市計画論	2	5								
		経営情報分析	2	5~							経済経営学類開講科目	
		原価計算	2	5~							経済経営学類開講科目	
	コスト・マネジメント	2	5~					経済経営学類開講科目				
	地域企業経営論	2	5~					経済経営学類開講科目				
	国際経営論	2	5~					経済経営学類開講科目				
	計量経済学	2	5~					経済経営学類開講科目				
	応用数学	2	6									
人工知能と知識処理	2	6										
知的財産権論	2	7										
コース実 践科目 (10単位)	問題探究セミナー	2	6	/	4							
	経営システム演習	2			4							
	経営システム演習	2			5							
	プログラミング	2	4	/	3							
	プログラミング	2			4							
	プログラミング	2			5							
CAD/CAM演習	2	5										
演習	演習	演習	2	4	/	6						
		演習	2			7						
卒業研究	卒業研究	卒業研究	2	4	/	7						
		卒業研究	2			8						

選択必修科目のうち 印のついている科目から12単位以上修得すること。

物理・システム工学コース（表2-3）

区分	授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セ メス ター	開講予定				備 考
						'22	'23	'24	'25	
コース領域	コース基礎科目 (必修) (16単位)	数理モデリング	2	16	/	3				
		材料力学	2			3				
		機構学	2			3				
		電気回路	2			3				
		基礎物性物理	2			3				
		量子力学	2			4				
		計測工学	2			4				
		制御工学	2			4				
	コース専門科目 (選択必修) (24単位)	熱力学	2	24	/	3				
		材料工学	2			3				
		人間工学	2			4				
		電子回路	2			4				
		アルゴリズムとデータ構造	2			4				
		デジタル信号処理	2			5				
		統計力学	2			5				
		パワーエレクトロニクス	2			5				
		流体力学	2			5				
		計算機システム論	2			3				
		心理学概論	2			3				
		脳神経科学	2			3				
		基礎解析学	2			3				人間発達文化学類開講科目
		線形写像と幾何	2			3				
		物理化学	2			3				
		技術科教育法	2			3	x		x	隔年開講
技術科教育法		2	3			x		x	隔年開講	
技術科教育法		2	3				x		x	隔年開講
工業科教育法		2	3				x		x	隔年開講
工業科教育法		2	3				x		x	隔年開講
情報科学概論		2	3							
機械材料・加工学		2	4							
システム生理学		2	4							
機器分析		2	4							
基礎解析学	2	4				人間発達文化学類開講科目				
線形写像と幾何	2	4								
理科教育法	2	4								
理科教育法	2	4								
技術科教育法	2	4			x		隔年開講			
基礎心理学*（神経・生理心理学）	2	4								
解析学	2	4								
医用福祉工学	2	5								
放射線科学	2	5								
解析学	2	5								
基礎解析学	2	5				人間発達文化学類開講科目				
理科教育法	2	5								
心理学研究法	2	5								
人工知能と知識処理	2	6								
理科教育法	2	6								
知的財産権論	2	7								
コース実践科目 (10単位)	問題探究セミナー	2	6	/	4					
	物理学実験	2			3					
	機械・電気工学実験	2			4					
	物理・システム工学演習	1			3					
	化学実験	2			3					
	プログラミング	2			3					
	プログラミング	2			4					
	CAD/CAM演習	2			5					
生体工学実験	2	6								
演習	演習	2	4	/	6					
	演習	2			7					
卒業研究	卒業研究	2	4	/	7					
	卒業研究	2			8					

選択必修科目のうち 印のついている科目から12単位以上修得すること。

物質科学コース(表2-4)

区分	授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セ メス ター	開講予定				備考
						'22	'23	'24	'25	
コ ー ス 領 域	コース基礎科目 (必修) (16単位)	熱力学	2	16	/	3				
		基礎無機化学	2			3				
		基礎有機化学	2			3				
		分析化学	2			3				
		物理化学	2			3				
		無機化学	2			4				
		有機化学	2			4				
		機器分析	2			4				
	コース専門科目 (選択必修) (24単位)	材料工学	2	24	/	3				
		環境衛生科学	2			3				
		化学工学	2			4				
		生化学	2			4				
		資源・エネルギー工学	2			4				
		高分子化学	2			5				
		発展無機化学	2			5				
		基礎解析学	2			3				人間発達文化学類開講科目
		材料力学	2			3				
		電気回路	2			3				
		基礎物性物理	2			3				
		生物多様性概論	2			3				
		地質学概論	2			3				
		気象学	2			3				
		基礎解析学	2			4				人間発達文化学類開講科目
		電子回路	2			4				
		機械材料・加工学	2			4				
		量子力学	2			4				
		生態学基礎	2			4				
		製品開発概論	2			4				
		循環型産業論	2			4				
		品質管理	2			4				
		理科教育法	2			4				
		理科教育法	2			4				
		放射線科学	2			5				
		再生可能エネルギー	2			5				
		理科教育法	2			5				
		再生可能エネルギー	2			6				
	理科教育法	2	6							
	知的財産権論	2	7							
	コース実践科目 (10単位)	問題探究セミナー	2	6	/	4				
		化学実験	2			3				
化学実験		2	4							
物理学実験		2	3							
化学実験		2	5							
CAD/CAM演習		2	5							
サイエンスライティング演習	2	8	4							
演習	演習	2	4	/	6					
	演習	2			7					
卒業研究	卒業研究	2	4	/	7					
	卒業研究	2			8					

選択必修科目のうち 印のついている科目から12単位以上修得すること。

エネルギーコース(表2-5)

区分	授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セ メス ター	開講予定				備 考			
						'22	'23	'24	'25				
コ ー ス 領 域	コース基 礎科目 (必修) (16単位)	熱力学	2	16	/	3							
		環境衛生科学	2			3							
		基礎物性物理	2			3							
		電気回路	2			3							
		資源・エネルギー工学	2			4							
		化学工学	2			4							
		都市計画概論	2			4							
		エコロジカル経済学	2			5							
	コース専 門科目 (選択必 修) (24単位)	気象学	2	24	/	3							
		水循環システム学概論	2			3							
		経営工学	2			3							
		社会計画概論	2			3							
		環境計画論	2			3							
		循環型産業論	2			4							
		再生可能エネルギー	2			5							
		流体力学	2			5							
		パワーエレクトロニクス	2			5							
		再生可能エネルギー	2			6							
		基礎無機化学	2			3							
		基礎有機化学	2			3							
		分析化学	2			3							
		物理化学	2			3							
		材料工学	2			3							
		地質学概論	2			3							
		材料力学	2			3							
		基礎解析学	2			3				人間発達文化学類開講科目			
		無機化学	2			4							
		有機化学	2			4							
		機器分析	2			4							
		生化学	2			4							
		生物・地球環境システム概論	2			4							
		生態学基礎	2			4							
		環境微生物学	2			4							
		環境保全論	2			4							
		流域水文学	2			4							
		地下水盆管理学	2			4							
		制御工学	2			4							
		計測工学	2			4							
		基礎解析学	2			4				人間発達文化学類開講科目			
		高分子化学	2			5							
		発展無機化学	2			5							
		放射線科学	2			5							
		コース実 践科目 (10単位)	問題探究セミナー			2	6	/	4				
			化学実験 I			2			3				
機械・電気工学実験	2		4										
物理学実験	2		3										
エネルギー資源調査	1		3										
エネルギー資源調査	1		4										
化学実験	2		4										
社会計画演習 I	2		4										
演習	演習	演習	2	4	/	6							
		演習	2			7							
卒業研究	卒業研究	卒業研究	2	4	/	7							
		卒業研究	2			8							

選択必修科目のうち 印のついている科目から12単位以上修得すること。

生物環境コース(表2-6)

区分	授業科目	単位	必修	選択必修	履修セメスター	開講予定				備考
						'22	'23	'24	'25	
コース基礎科目 (必修) (16単位)	生物多様性概論	2	16		3					
	水循環システム学概論	2			3					
	生物・地球環境システム概論	2			4					
	生態学基礎	2			4					
	環境微生物学	2			4					
	環境保全論	2			4					
	保全遺伝学	2			4					
	森林生態学	2			5					
	地質学概論	2			3					
	基礎有機化学	2			3					
分析化学	2	3								
環境計画論	2	3								
気象学	2	3								
都市計画概論	2	4								
生化学	2	4								
流域水文学	2	4								
地下水益管理学	2	4								
高分子化学	2	5								
水循環システム学	2	5								
コース専門科目 (選択必修) (24単位)	基礎無機化学	2	24		3					
	心理学概論	2			3					
	脳神経科学	2			3					
	博物館資料論	2			3~	x	x	x	行政政策学類開講科目 隔年開講	
	博物館学概論	2			3~	x	x	x	行政政策学類開講科目 隔年開講	
	博物館教育論	2			3~	x	x	x	行政政策学類開講科目 隔年開講	
	博物館資料保存論	2			3~	x	x	x	行政政策学類開講科目 隔年開講	
	博物館展示論	2			3~	x	x	x	行政政策学類開講科目 隔年開講	
	博物館経営論	2			3~	x	x	x	行政政策学類開講科目 隔年開講	
	博物館情報・メディア論	2			3~	x	x	x	行政政策学類開講科目 隔年開講	
	環境文化論	2			4					
	機器分析	2			4					
	資源・エネルギー工学	2			4					
	システム生理学	2			4					
	有機化学	2			4					
	社会情報分析	2			4					
	基礎心理学(学習・言語心理学)	2			4					
	基礎心理学(神経・生理心理学)	2			4					
	考古学	2			3~				行政政策学類開講科目	
	理科教育法I	2			4					
	理科教育法	2			4					
	エコロジカル経済学	2			5					
	都市計画論	2			5					
	サウンドスケープ	2			5					
放射線科学	2	5								
生命環境の科学	2	5	x		x	人間発達開講科目 隔年開講				
考古学	2	5~				行政政策学類開講科目				
理科教育法	2	5								
理科教育法	2	6								
コース実践科目 (10単位)	問題探究セミナー	2	6	4	4					
	保全生物学実験	2			5					
	サイエンスライティング演習	2			8					
	自然環境調査法	1			3					
	森林調査法	1			3					
	他大学野外実習(集中)	1~2			3					
	他大学野外実習(集中)	1~2			3					
	化学実験	2			3					
	気象データ解析	1			3					
	地球環境科学実験	2			4					
	生物多様性保全実習	1			5					
	土壌・水圏微生物学実験	2			5					
地球環境調査法	1	5								
水理学演習	2	6								
演習	演習	2	4		6					
	演習	2			7					
卒業研究	卒業研究	2	4		7					
	卒業研究	2			8					

選択必修科目のうち 印のついている科目から12単位以上修得すること。

印のついている科目は、学芸員資格取得希望者のみの受講を想定しているが、それ以外で特に受講を希望する場合は、教務課に相談すること。

地球環境コース(表2-7)

区分	授業科目	単位	必修	選択 必修	履修セメ スター	開講予定				備考	
						'22	'23	'24	'25		
コース領域	コース基礎科目 (必修) (16単位)	地質学概論	2	16	/	3					
		水循環システム学概論	2			3					
		気象学	2			3					
		基礎解析学	2			3					
		生物・地球環境システム概論	2			4				人間発達文化学類開講科目	
		流域水文学	2			4					
		地下水益管理学	2			4					
		水循環システム学	2			5					
	コース専門科目 (選択必修) (24単位)	基礎無機化学	2	24	/	3					
		分析化学	2			3					
		生物多様性概論	2			3					
		生態学基礎	2			4					
		環境微生物学	2			4					
		環境保全論	2			4					
		保全遺伝学	2			4					
		機器分析	2			4					
		基礎解析学	2			4				人間発達文化学類開講科目	
		解析学	2			5					
		熱力学	2			3					
		基礎有機化学	2			3					
		環境計画論	2			3					
		線形写像と幾何	2			3					
		情報科学概論	2			3					
		情報社会と情報倫理	2			3					
		環境衛生科学	2			3					
		線形写像と幾何	2			4					
		都市計画概論	2			4					
		理科教育法	2			4					
	理科教育法	2	4								
	解析学	2	4								
	森林生態学	2	5								
	統計力学	2	5								
	流体力学	2	5								
基礎解析学	2	5				人間発達文化学類開講科目					
理科教育法	2	5									
理科教育法	2	6									
コース実践科目 (10単位)	問題探究セミナー	2	6	/	4						
	地球環境科学実験	2			4・5						
	水理学演習	2			6						
	自然環境調査法	1	4	/	3						
	森林調査法	1			3						
	化学実験	2			3						
	プログラミング	2			3						
	物理学実験	2			3						
	気象データ解析	1			3						
	プログラミング	2			4						
	保全生物学実験	2			5						
	地球環境調査法	1			5						
	土壌・水圏微生物学実験	2			5						
生物多様性保全実習	1	5									
サイエンスライティング演習	2	8									
演習	演習	2	4	/	6						
	演習	2			7						
卒業研究	卒業研究	2	4	/	7						
	卒業研究	2			8						

選択必修科目のうち 印のついてる科目から12単位以上修得すること。

社会計画コース(表2-8)

区分	授業科目	単位	必修	選択必修	履修セメスター	開講予定				備考	
						'22	'23	'24	'25		
コース領域	コース基礎科目 (必修) (16単位)	社会計画概論	2	16	/	3					
		環境計画論	2			3					
		心理学概論	2			3					
		都市計画概論	2			4					
		生物・地球環境システム概論	2			4					
		環境保全論	2			4					
		社会情報分析	2			4					
		エコロジカル経済学	2			5					
	コース専門科目 (選択必修) (24単位)	生物多様性概論	2	24	/	3					
		社会調査論	2			3~				行政政策学類開講科目	
		科学技術と環境の倫理学	2			4	x		x	社会計画コースの学生のみ履修可	
		生態学基礎	2			4				人間発達文化学類開講科目 隔年開講	
		環境文化論	2			4					
		循環型産業論	2			4					
		都市計画論	2			5					
		サウンドスケープ	2			5					
		環境衛生科学	2			3					
		気象学	2			3					
		水循環システム学概論	2			3					
		地域環境論	2			3~				行政政策学類開講科目	
		地域社会学	2			3~				行政政策学類開講科目	
		地質学概論	2			3					
		都市とまちづくりの地理学	2			3				人間発達文化学類開講科目	
		熱力学	2			3					
		流通管理概論	2			3					
		行政学	2			3~	x		x	行政政策学類開講科目 隔年開講	
		行政学	2			3		x		x	行政政策学類開講科目 隔年開講
		社会福祉論	2			3~				行政政策学類開講科目	
		地域と経済	2			3~				経済経営学類開講科目	
		資源・エネルギー工学	2			4					
		地下水盆管理学	2			4					
		流域水文学	2			4					
		環境経済学	2			5~				経済経営学類開講科目	
		環境法	2			5~	x		x	行政政策学類開講科目 隔年開講	
		再生可能エネルギー	2			5					
		社会政策	2			5~				経済経営学類開講科目	
森林生態学	2	5									
水循環システム学	2	5									
地域政策論	2	5~				経済経営学類開講科目					
放射線科学	2	5									
応用数学	2	6									
再生可能エネルギー	2	6									
情報社会論	2	5~				行政政策学類開講科目					
地域福祉論	2	5~				行政政策学類開講科目					
知的財産権論	2	7									
コース実践科目 (10単位)	問題探究セミナー	2	6	/	4						
	社会計画演習	2			4						
	社会計画演習	2			5						
	自然環境調査法	1			3						
	森林調査法	1			3						
	プログラミング	2			3						
	地球環境科学実験	2			4・5						
	生体システム実験(心理学実験)	2			4						
	地球環境調査法	1			5						
	生物多様性保全実習	1			5						
演習	演習	2	4	/	6						
	演習	2			7						
卒業研究	卒業研究	2	4	/	7						
	卒業研究	2			8						

選択必修科目のうち 印のついている科目から12単位以上修得すること。

心理・生理コース(表2-9)

区分	授業科目	単位	必修	選択必修	履修セメスター	開講予定				備考	
						'22	'23	'24	'25		
コース領域	コース基礎科目 (必修) (16単位)	心理学概論	2	16	16	3					
		脳神経科学	2			3					
		人間工学	2			4					
		基礎心理学(学習・言語心理学)	2			4					
		基礎心理学(神経・生理心理学)	2			4					
		システム生理学	2			4					
		生物・地球環境システム概論	2			4					
		心理学研究法	2			5					
	コース専門科目 (選択必修) (24単位)	基礎有機化学	2	24	24	3					
		基礎無機化学	2			3					
		知覚・認知心理学	2			3				人間発達文化学類開講科目。 心理・生理コースの学生のみ履修可。	
		生態学基礎	2			4					
		社会情報分析	2			4					
		計測工学	2			4					
		医用福祉工学	2			5					
		サウンドスケープ	2			5					
		健康・医療心理学	2			5				人間発達文化学類開講科目	
		食と健康	2			3				人間発達文化学類開講科目	
		解剖学	2			3				人間発達文化学類開講科目	
		生物多様性概論	2			3				人間発達文化学類開講科目	
		分析化学	2			3					
		情報科学概論	2			3					
		環境計画論	2			3					
		基礎解剖学	2			3				人間発達文化学類開講科目	
		社会調査論	2			3~				行政政策学類開講科目	
		発達心理学	2			3		x		x	心理・生理コースの学生のみ履修可 人間発達文化学類開講科目。隔年開講
		社会・集団・家族心理学	2			3					心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		心理学的支援法	2			3					心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		教育・学校心理学	2			3	x			x	心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。3年に2回開講
		福祉心理学	2			3					心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		公認心理師の職責	2			3					心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		感情・人格心理学	2			3					人間発達文化学類開講科目。
		生化学	2			4					
		環境文化論	2			4					
		生理学(運動生理学)	2			4					人間発達文化学類開講科目。 心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		障害者・障害児心理学	2			4					心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		産業・組織心理学	2			4					人間発達文化学類開講科目。 人間発達文化学類開講科目。
		関係行政論	2			4					心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		教育相談の心理(臨床心理学概論)	2			4					心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。隔年開講
		生命環境の科学	2			5	x			x	人間発達文化学類開講科目。隔年開講 人間発達文化学類開講科目。
		心理的アセスメント	2			5					心理・生理コースの学生のみ履修可。 人間発達文化学類開講科目。
		司法・犯罪心理学	2			5					人間発達文化学類開講科目。
	コース実践科目 (10単位)	問題探究セミナー	2	6	4	4					
		生体システム実験(心理学実験)	2			4					
		心理学統計法	2			4				人間発達文化学類開講科目。 心理・生理コースの学生のみ履修可。	
		プログラミングI	2			3					
		化学実験	2			3					
物理学実験		2	3								
プログラミング		2	4						人間発達文化学類開講科目。 心理・生理コースの学生のみ履修可。 「公認心理師の職責」・「関係行政論」・「心理学的支援法」の単位を修得した者のみ履修可。		
心理演習		2	5						人間発達文化学類開講科目。 心理・生理コースの学生のみ履修可。 「心理演習」の単位を修得した上で、実習参加可とされた者が履修可。		
生体工学実験	2	6				人間発達文化学類開講科目。					
心理実習	2	6・7				人間発達文化学類開講科目。 心理・生理コースの学生のみ履修可。 「心理演習」の単位を修得した上で、実習参加可とされた者が履修可。					
演習	演習	2	4	6							
	演習	2	7								
卒業研究	卒業研究	2	4	7							
	卒業研究	2	8								

選択必修科目のうち 印のついている科目から12単位以上修得すること。

2. 自由選択の履修について

自由選択の卒業に必要な修得単位は10単位となります。自由選択の履修方法の基準は、以下のとおりです。

自由選択に計上できるのは、基盤教育科目の卒業要件を超過して修得した単位、学類共通領域において卒業要件を超過して修得した単位、配属されているコースのコース領域の各科目区分において選択必修の卒業要件を超過して修得した単位、配属されているコース以外のコースのコース領域の各科目区分において修得した単位、配属されているコースのコース領域の科目に指定されていない他学類科目、教員免許取得のための科目のうち下記の表3 - 1の科目、学芸員資格取得のための科目のうち下記の表3 - 2の科目及び特別聴講学生として修得した他大学等との単位互換科目について計上することができます。また、その他の科目のうち、下記の表3 - 3に記載されている科目の単位も自由選択に計上されます。

教員免許取得のための科目（表3 - 1）

区分	授業科目	単位	履修セメ スター	開 講 予 定				備考
				'22	'23	'24	'25	
自 由 選 択	人間と教育	2	4	○	○	○	○	
	教職入門	2	3	○	○	○	○	
	教育と社会	2	5		○	○	○	
	教育発達心理学	2	3		×		×	隔年開講
	特別支援教育基礎	2	3	○	○	○	○	
	道徳指導論	2	6	×	○	×	○	隔年開講
	総合的な学習の時間及び 特別活動の指導法	2	3	○	○	○	○	
	教育の方法	2	3	○	○	○	○	
	教育相談の基礎（中学 校・高等学校に焦点づけ て）	2	6		○	○	○	
	生活指導論	2	5		○	○	○	
	教職実践演習	2	8			○	○	
	事前及び事後指導	1	7-8			○	○	
	教育実習（4週間）	4	7-8			○	○	
教育実習（2週間）	2	7-8			○	○		

区分	授業科目	単位	履修セメ スター	開 講 予 定				備考
				'22	'23	'24	'25	
自由 選択	生命環境の科学	2	3		×		×	隔年開講
	基礎微生物学	2	2	○	○	○	○	
	土壌生態学	2	6		○	○	○	
	地球惑星の科学	2	4	×		×		隔年開講
	地球惑星の科学	2	5		×		×	隔年開講
	土壌科学	2	3	○	○	○	○	
	水資源利用学	2	4	○	○	○	○	
	木材加工学概論及び実習	2	3		×		×	隔年開講
	栽培学概論及び実習	2	1	×		×		隔年開講
	職業指導	2	4		×		×	隔年開講
	情報と職業	2	5		○	○	○	

印の科目は人間発達文化学類開講科目

印の科目は食農学類開講科目

学芸員資格取得のための科目（表3 - 2）

区 分	授業科目	単位	履修セメ スター	開 講 予 定				備考
				'22	'23	'24	'25	
自 由 選 択	生涯学習社会と学校・家 庭・地域	2	3		×		×	隔年開講
	博物館実習（自然科学系）	3	5-6		○	○	○	

印の科目は人間発達文化学類開講科目で最大受け入れ人数は10名です。

履修登録期間中に教務課窓口で履修登録申請の手続きをしてください。

学芸員資格取得のための科目は、学芸員資格取得希望者のみ受講可です。

その他（表3 - 3）

区 分	授業科目	単位	履修セメ スター	開講予定				備考
				'22	'23	'24	'25	
自 由 選 択	海外演習	2	3	○	○	○	○	

【海外演習について】

共生システム理工学類では、第3 Semester（2年生前期）に自由選択科目として海外演習を実施します。これは、今までに大学で学んだ専門分野の知識や経験をいかして、実際に海外の大学や研究機関、企業や工場、現場でどのようなことが行われているのかを直接見て体験するとともに、国際的な感覚を身につけることを目標にしています。

学類で計画するプログラムの他にも、学生と教員が適宜計画して実施する個別プログラムも認定できます。個別プログラムは関係部門の承認が必要ですので、海外演習実施計画委員会、教務課などに相談ください。

海外演習の実施時期は、毎年8～9月に想定されることが多いようです。演習の実施期間は、1～2週間程度です。なお、海外演習に参加するためには、事前に開かれる準備講座に参加しなくてはなりません。また、海外演習に必要な経費（渡航費、宿泊費、食費、保険料など、金額は演習先により異なる、1人あたり10万～25万円程度と想定されます）は、参加する学生の個人負担となります。

事前の準備講座は、前期授業期間中に原則として週1回開かれます。準備講座では、海外演習に参加するための具体的な準備を基礎から行うとともに、海外演習に必要な語学力の向上もめざします。それぞれの海外演習には教員も引率者として同行します。事前に準備を入念に行い、海外演習の手引書を活用して、安全管理や健康管理に十分配慮した演習を行うことにしています。

海外演習に参加するためには、最低限の語学力（英語）が必要です。海外演習で実際に海外に行く時までには、TOEIC 試験で 500 点以上の英語力を身につけておく必要があります。海外演習に参加を希望する学生は、なるべく早い機会にこうした語学試験を受けておいてください。

学生時代に海外に行き、専門分野に関する見聞を広めるとともに国際的な感覚を身につけることは、きっと将来の活躍にも役立ちます。本学類では、やる気のある積極的な学生が海外演習に参加することを期待しています。

海外演習に参加する場合は、事前に海外演習担当の教員に相談の上、必ず前期の履修登録期間内に履修登録してください。また、履修登録撤回の期間を過ぎてから、履修者の都合で海外演習を取り止めた場合には、原則として、成績評価が不合格となります。十分に注意してください。

18．特修プログラムについて

特修プログラムについて

1. 放射線科学専修プログラム

本プログラムは、原子力発電所災害をきっかけとして関心が高まった放射線について、科学的に理解し対応することのできる人材の育成を目指したものです。このプログラムでは「放射線取扱主任者」資格レベルの放射線科学に関する専門領域科目について、単位修得を課しています。プログラムに参加する場合には1年次末に登録届けを提出してください。登録期日等については共生の科学 で案内します。

プログラム習得に必要な単位を修得することにより、「放射線科学専修プログラム修了」の認定を受けることができます。「第2種放射線取扱主任者」資格レベルの基礎を養うことを目的としており、3年次以降に同資格試験を受験することを推奨しています。そのため、プログラム参加者には正規の授業科目以外にも実力を養成するための研修会などを機会に応じて呼びかけます。また、より高度な「第1種放射線取扱主任者」資格に挑戦したい場合には別途に演習指導を行います。

放射線科学専修プログラム 履修基準

	授業科目名	セメスター	単位数	履修方法	必要単位数	備考
専門基礎 (必修)	数学 (解析学)	1	2	必修	16	
	物理学 (力学)	1	2	必修		
	化学	1	2	必修		
	生物学	1	2	必修		
	地質学	1	2	必修		
	数学 (統計学)	2	2	必修		
	物理学 (電磁気学)	2	2	必修		
	化学	2	2	必修		
専門 (必修)	分析化学	3	2	必修	8	
	量子力学	4	2	必修		
	保全遺伝学	4	2	必修		
	放射線科学	5	2	必修		
専門 (選択)	環境衛生科学	3	2	選択	6	
	物理学実験	3	2	選択		*1
	化学実験	3	2	選択		*1
	計測工学	4	2	選択		
	機器分析	4	2	選択		
合 計					30	

*1：本プログラム参加者は所属するコースの実践科目でなくても履修可能（人数制限有）

2. 地域と学ぶ未来の理科先生 特修プログラム

1. プログラムの概要

地域で活躍する理科の先生には、科学および技術に対する幅広く深い理解と理科教育に対する理解を基にした実践力はもちろんのこと、地域が持つ自然・歴史・文化・社会などの特徴に目を向け、地域の文脈に沿った科学的教育活動を支える力が求められます。

本プログラムでは、自然環境を土台としつつ多様な視点で地域を捉え、地域素材を用いた教材開発の手法や指導法をプロジェクト学習や問題解決型学習などを通じて学びます。また、小・中学校における経験を通じて子どもが持つ考え方や問題意識を学ぶほか、科学館等の施設における経験を通じて、子どもと保護者、地域における科学活動に対する理解を深めます。加えて、「地域を理解し教材とする力」、「子どもを理解する力」、「学びを支え続ける力」を意識し、省察的に自身の取り組みを見つめることで、地域の理科の先生に必要なとされる資質・能力の総合的な修得を目指します。

2. プログラムの特徴

コア科目を中心に、基礎科目、観察・実験科目、AL 演習科目、指導法科目の計 5 科目群で構成されます。それぞれの科目群は、以下のような特徴を持っています。

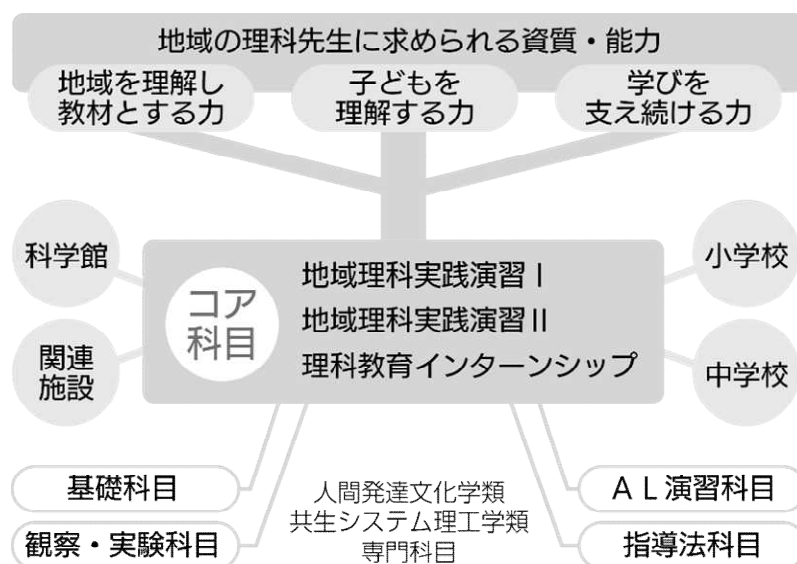


図 地域と学ぶ未来の理科先生 特修プログラムのカリキュラム概念

(1) コア科目

福島大学が掲げる教育理念における「世界を見据えた演繹的な学び」と「福島にねざした帰納的な学び」の往還を進めるための科目です。体系的でグローバルな意味合いを持つ科学に関する知識・技能を、子どもの見方・考え方に合わせて地域の自然や文化を教材化し、地域課題の解決にいざなうための資質を養います。

「地域理科実践演習」では、地域や身近な自然事象を教材化する際に必要となる基礎的な考え方と、子どもの理解と学びを支えるために必要となる理論の基礎的理解を進めます。

「地域理科実践演習」では、対象地域でのフィールドワークや学校現場への参加を通じて経験を基にした学びを深め、理論と実践の往還を進めていきます。

プレ教育実習の位置づけとなる「理科教育インターンシップ」では、小・中学校インター

ンシップ(70時間)と、科学館インターンシップ(20時間)を経験することで、実践上の課題を把握し教育実習に向けた自己課題を整理していきます。

この科目群では、いずれもアクティブ・ラーニング型で授業を進め、チームによるプロジェクト型の学びと、個人および小グループによる問題解決型の学びを組み合わせしていきます。受講に際しては、他の科目群の科目における学びに課題意識を持ち、理科を専門とする教員としての学んでいく基本を確立していく必要があります。主体的な取り組みが必要とされることはもちろんのこと、対話や協働による学びの意味を考えて学びを深めていく努力が望まれます。

(2) 基礎科目

物理・化学・生物・地学に関する基本的な講義科目です。教員として必要とされる自然科学の体系的な理解を深めます。この科目群の受講に際しては、地域の自然事象や日常生活における身近な事象を教材化する場面への応用を意識し、どのように関連付けるかを意識することが望まれます。

(3) 観察・実験科目

小学校理科の物質・エネルギー領域、生命・地球領域に関する観察・実験への理解を深める科目と、中学校理科における観察・実験の基礎的および原理的な理解を深める科目で構成され、自然事象と向き合うための基礎的な知識・技能を修得します。この科目群の受講に際しては、基礎科目と同様に教材化へ向けた応用の意識と、小・中学校における観察・実験などの場面を想定し、必要となる器具操作の技能や安全対策への意識を持つことが望まれます

(4) AL 演習科目

小学校・中学校理科で取り扱う教科内容を意識した、AL(アクティブ・ラーニング)を主体とする演習科目です。物理・化学・生物・地学各領域の特徴を意識しながら、小学校理科における問題解決、中学校理科における探究過程のあり方について学びを深め、児童生徒と一緒に学びを深めていくための手法を修得します。この科目群は、小・中学校で求められる、主体的・対話的で深い学びを意識して授業を展開します。受講に際しては、どのような工夫を行っているか意識し、自身も活用することを意識することが望まれます。

(5) 指導法科目

小学校及び中学校・高等学校(理科)の免許取得に必要となる科目です。この中では、模擬授業などを通じて指導に関する基礎的な知識・技能を修得するほか、学習科学など理論の観点からどのような指導が望ましいかを検討していきます。この科目群の受講に際しては、子どもの自然事象に対する考え方を意識し、日常生活で見られる自然事象において疑問や課題意識がどのような場面で見られそうかを意識することが望まれます。

3. 対象者

人間発達文化学類 または 共生システム理工学類 に所属し、小学校 1 種教員免許状、中学校 1 種教員免許状（理科）、高等学校 1 種教員免許状（理科）のうち 1 種類以上の取得を希望する者とします。

加えて、4. 履修モデルよりいずれか 1 つを選択し、その条件を満たすことが必要です。

4. 履修モデル

本プログラムでは、取得を希望する免許種や関心に合わせ、以下に示す 3 つの履修モデルを用意しています。プログラム開始時に履修モデルを決定しますが、取得予定の免許種に変更が生じた場合は途中で変更することが可能です。

モデル A 理科に強い小学校教員モデル - 人間発達文化学類生 対象

- ・ 小学校教員を主免許として登録（予定）の者で、理科に強い教員を目指している

モデル B 中学校理科との接続に関心が強い小学校教員モデル - 人間発達文化学類生 対象

- ・ 小学校教員を主免許として登録（予定）の者で、小学校理科と中学校理科の接続に強い関心をもつ教員を目指している

モデル C 中学校理科に関心が強い教員モデル - 共生システム理工学類生 対象

- ・ 中学校教員（理科）または高等学校教員（理科）を主免許として登録（予定）の者で、中学校理科と高等学校理科の接続に強い関心をもつ教員を目指している

5. プログラムの履修開始

コア科目「地域理科実践演習」第 1 回目のガイダンスにおいて履修モデルを選択し、履修登録を済ませることでプログラムの履修開始となります。

なお、受講希望者が多数となった場合は、受講調整を行うことがあります。

6. プログラム履修基準

基盤教育 4 単位、専門教育 26 単位、計 30 単位の修得が必要です。

コア科目 6 単位は必修科目となります。コア科目のうち理科教育インターンシップは、地域理科実践演習 ・ の単位を修得した者が受講可能です。

基礎科目、観察・実験科目、AL 演習科目、指導法科目は一部必修または選択となります。履修モデルごとに必要修得単位数が異なりますので、履修基準表（次ページ）にしたがって科目を履修してください。

7. プログラム修了認定

各履修モデルに沿った教員免許状を取得（見込みを含む）し、履修基準の修得単位を満たした者をプログラム修了者と認定します。

地域と学ぶ未来の理科先生 特修プログラム 履修基準

領域区分	科目区分		授業科目名	開講学類	セメスター	1科目単位数	履修モデル別 修得単位数				
							A	B	C		
基盤教育	問題探究領域	問題探究科目	問題探究セミナー	各学類	2	2	2				
			ふくしま未来学入門		1	2	2				
			ふくしま未来学入門		2	2					
		自主学修プログラム		1~	1~						
専門教育	学類専門科目	問題探究科目	問題探究セミナー	各学類	3	2	2				
		コア科目	地域理科実践演習	人間発達	1	2	2				
			地域理科実践演習	人間発達	集中1・2	2	2				
			理科教育インターンシップ	人間発達	集中3・4	2	2				
		基礎科目	物理学（力学）	理工	1	2	4	6			
			物理学（電磁気学）	理工	2	2					
			化学	理工	1	2					
			化学	理工	2	2					
			生物学	理工	1	2					
			生態学基礎	理工	3	2					
			地質学概論	理工	3	2					
			気象学	理工	3	2					
		観察・実験科目	子どもと自然	人間発達	2	2	2	8			
			理科の実験指導	人間発達	4	2	2				
			物理学実験	理工	3	2					2
			化学実験I	理工	3	2					2
			保全生物学実験	理工	5	2					2
			地球環境科学実験	理工	4	2					2
		A L演習科目	物理科学	人間発達	3	2	8	2			
			物理科学	人間発達	3	2					
			物質化学	人間発達	4	2					
			物質化学	人間発達	4	2					
			生命環境の科学	人間発達	3	2					
			生命環境の科学	人間発達	3	2					
			地球惑星の科学	人間発達	4	2					
			地球惑星の科学	人間発達	4	2					
		指導法科目	理科学習指導論	人間発達	3	2	2	2			
			理科教育法	理工	4	2					
			理科教育法	理工	5	2					
			理科教育法	理工	6	2					
			理科教育法	理工	4	2					
		計							30	30	30

印の科目は、中学校1種免許（理科）又は高等学校1種免許（理科）の教職登録者のみ履修可能です。

19 . 免許・資格の取得について

免許・資格の取得について

1. 教育職員免許状

共生システム理工学類の学生は、卒業要件に定められた単位の他に、教育職員免許法（以下「免許法」という。）及び免許法施行規則（以下「施行規則」という。）により定められた、教育職員免許状（以下「免許状」という。）を取得するのに必要な単位等を修得することにより、下記の免許状の取得資格を得ることができます。この際、本来の学類の学習がおろそかにならないように注意しなければなりません。また、単に資格取得だけを目的とするような安易な動機で免許状の取得に臨むのは避けてください。

主に共生システム理工学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状

中学校教諭1種免許状（理科）、高等学校教諭1種免許状（理科）、
中学校教諭1種免許状（技術）、高等学校教諭1種免許状（工業）、
高等学校教諭1種免許状（情報）

人間発達文化学類で開講されている授業科目の単位を修得することにより取得できる免許状

中学校教諭1種免許状（数学）、高等学校教諭1種免許状（数学）

1. 教育職員免許状取得のための履修基準

免許状取得にあたって単位修得しなければならない科目は、免許法及び施行規則により定められ、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」及び「文部科学省令で定める科目」の6種類からなります。

このうち、「文部科学省令で定める科目」については、下記のとおりです。

文部科学省令で定める科目	対応授業科目	必要単位数
日本国憲法	日本国憲法	2単位
体育	健康運動科学実習	1単位
	スポーツ実習	1単位
外国語コミュニケーション	英語A 又は英語A から1科目で	2単位
情報機器の操作	情報リテラシー	2単位

「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」の科目についての履修方法の基準は以下に記載しています。

（「理科」、「技術」、「工業」及び「情報」の免許状についてのみ）

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」の履修方法の基準・・・表1

「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「教科に関する専門的事項」の履修方法の基準

中学校1種免許（理科）、高等学校1種免許（理科）・・・表2

中学校1種免許（技術）・・・表3

高等学校1種免許（工業）・・・表3

高等学校1種免許（情報）・・・表4

「数学」の免許状については、人間発達文化学類の履修方法の基準を参照するとともに、一部基準が異なる部分等についても注意を払う必要があります。

また、中学校の免許状を取得しようとする場合は「介護等体験」を行わなければなりません。介護等体験については下記の「8.介護等体験について」を読んでください。

2. 教育職員免許状取得希望者の登録について

- (1) 免許状取得希望者（1年次生）を対象として8月と12月頃に説明会を行いますので希望者は両方の説明会に必ず出席してください。この説明会では、免許状取得に必要な科目の履修方法、各種手続きに関する重要な説明を行います。説明会に出席しない場合には、免許状取得希望者としての登録ができなくなる場合がありますので注意してください。
- (2) 免許状取得希望者の募集は1年次生を対象に2月に行います。この手続きによって、免許種ごとに免許状取得希望者として登録され、2年次以後の教職関連科目の履修が許可されます。一人が複数の教科の免許状取得を希望することも可能です。
- (3) 免許状取得登録後、免許状取得を放棄することになった場合は、その時点で速やかに教務課の担当窓口申し出て、「放棄届」を提出してください。

3. 教職関係の各種行事・手続き日程について

原則として下記の日程で行う予定です。詳細は後日掲示によりお知らせします。

対象学年	期 間	内 容
1年	8月頃 12月頃 2月初旬	免許状取得に関する説明会（第1回） 免許状取得に関する説明会（第2回） 免許状取得希望登録
2年	4月中旬 1月 3月 (実施日未定)	免許状取得希望登録者説明会 教育実習参加希望者への説明会 教職担当教員との面談 学校参観説明会 学校参観
3年	4月 10月～ 3月 3月	出身校実習内諾報告書の提出 介護等体験参加（中学校免許種のみ） 模擬授業参観 教職担当教員との面談 実習希望者が実習参加資格確認
4年	4月～5月 5月頃又は9月頃 7月～12月 10月～1月 2月～3月 学位記授与式	教育実習事前指導 介護等体験参加（中学校免許種のみ） 教育実習 教育実習事後指導 教職実践演習 教職担当教員との面談 教員免許状授与

4. 「教職履修カルテ」の活用について

免許状取得を希望する学生は、「教職履修カルテ」を使用することとなります。このカルテは、免許状を取得するために必要な科目の履修状況を教職関連科目の単位修得後に確認したり、教育実習等の事前事後指導に活用して免許状取得のために活用するものです。

免許状取得を希望する学生は、年度末にその年度の履修内容を「教職履修カルテ」として整理し、教職担当教員との面談を実施します。これは4年時後期に開講される「教職実践演習」履修の条件となります。なお、「教職履修カルテ」はふりかえりを目的としており、「教職実践演習」等の評価と連動することはありません。

「教職履修カルテ」は記入後、教務課へ提出してもらいますが、次の学期の始めには学生に返却します。4年間使用するものなので大切に保管してください。（カルテの活用等については、ガイダンス等で説明します。）

5. 必修科目「教職実践演習」の受講について

免許状取得のためには8セメスター（4年次後期）に、必修科目「教職実践演習」を受講しなければなりません。この授業では、4年次前期までに履修してきた免許状取得に必要な授業や実習等で習得した内容を踏まえ、教員として学校現場で必要とされるさまざまな項目を実践的に学びます。

就職活動等での欠席も原則として認められません。この授業の単位を修得できないと、たとえ教員採用試験に合格しても免許状取得ができない場合もありますので、しっかりとした目的をもってこの授業に臨んでください。

6. 教育実習について

(1) 免許状を取得するためには、各種免許状の種類に応じた教育実習に参加し、所定の単位を修得しなければなりません。なお、教育実習に必要な費用に関しては、履修者が負担するので、説明会での諸指示等に注意してください。

(2) 教育実習は、免許状取得登録者で教育実習参加資格（下記7.参照）等の条件を満たした者に対して履修を許可しますが、その場合、以下の点に留意してください。

教育実習への参加は、原則として教員になる意思のある者に限り認めるものです。

教育実習に際しては、教員にふさわしい人格的資質、言動が要求されます。そのためには、日頃の心がけ、努力が必要です。

教育実習の単位は、事前・事後指導（4年次）を含めて5単位（高等学校免許種は3単位）として認定されます。したがって、実習校での教育実習の他に、「事前指導」及び「事後指導」への参加が義務付けられています。「事前指導」には2年次実施の「学校参観」や3年次実施の「模擬授業参観」も含まれます。「事前指導」及び「事後指導」を無断欠席した場合、教育実習の単位が修得できなくなることもありますので、そのようなことがないように十分注意してください。

指示事項はすべて掲示及びLiveCampusにより掲載しますので、十分注意してください。

「事前・事後指導」及び「教育実習」の履修登録も忘れずに行ってください。

(3) 教育実習校及び教育実習期間

中学校免許種の教育実習については、4年次に、原則として附属中学校又は出身中学校で行われます。また、高等学校免許種の教育実習については、4年次に、原則として出身高等学校で行われます。なお、期間は中学校1種免許の教科は4週間、高等学校1種免許のみの教科は2週間となっています。

7. 教育実習参加資格について

教育実習に参加するには、教育実習参加の前年度までに、以下に示す条件をすべて満たしていることが必要です。

- (1) 「教職入門」、「総合的な学習の時間及び特別活動の指導法」、教育実習を行う教科の教育法（中学校1種は教育法、教育法及び教育法、高等学校1種は必修の教育法2科目）の単位を修得していること。
 - (2) 教育実習を行う教科の「教科及び教科の指導法に関する科目のうち教科に関する専門的事項」の必修科目の内、3分の2を超える科目を修得していること。
- 「数学」免許種で教育実習を受ける場合は、人間発達文化学類の学修案内も参照してください。
「事前・事後指導」及び「教育実習」の履修登録も忘れずに行ってください。

8. 介護等体験について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が公布され、平成10年4月に施行されたことに伴い、平成10年度から、小学校及び中学校の免許状取得を希望する者については、特別支援学校及び社会福祉施設等での7日間の介護等体験が義務付けられました。これらのいずれの体験にあっても、中学校の免許状取得を希望する者は、本学類において事前指導を受け、体験希望者名簿に登録されることが必要になります。以下に示す(1)、(2)の両方の介護等体験を行ってください。

- (1) 社会福祉施設等での介護等体験：3年次に福島県下の社会福祉施設等において実施します。
 - (2) 特別支援学校での介護等体験：4年次に福島県下の特別支援学校において実施します。
- なお、詳しくは事前にガイダンスを行いますので、掲示及びLiveCampusに注意してください。

9. 「教育実習又は介護等体験参加時の授業の取り扱い」について

教育実習又は介護等体験のため、それぞれの期間中に開講されている授業科目を欠席する場合、単位認定要件に係る欠席時数として算入しない取り扱いとすることができます。

単位認定要件に係る欠席時数として算入しない取り扱いとするためには、欠席する授業科目の担当教員へ所定の届を提出しなければなりません。教務課に「申請書」がありますので、必要事項を記入し、教務課で承認印を受け、所属研究室の指導教員に申告のうえ、各授業科目の担当者へ提出してください。

表 1

中学校教諭 1 種免許状（理科・技術）、高等学校教諭 1 種免許状（理科・工業・情報）
取得のための履修基準

免許法施行規則に定める科目区分等	授業科目	単位数	履修年次	中学校 1 種 (理科・技術)	高等学校 1 種 (理科・工業・情報)	
教科及び教科の指導法に関する科目	・教科に関する専門的事項	表 2（理科） 表 3（技術・工業） 表 4（情報）				
	・教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目					
	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	理科教育法	2	2	理科必修 (他の教科は×)	理科必修 (他の教科は×)
		理科教育法	2	3	理科必修 (他の教科は×)	1
		理科教育法	2	3	理科必修 (他の教科は×)	1
		理科教育法	2	2	理科必修 (他の教科は×)	理科必修 (他の教科は×)
		技術科教育法	2	2	技術必修 (他の教科は×)	×
		技術科教育法	2	2	技術必修 (他の教科は×)	×
		技術科教育法	2	2	技術必修 (他の教科は×)	×
		技術科教育法	2	2	技術必修 (他の教科は×)	×
		工業科教育法	2	2	×	工業必修 (他の教科は×)
		工業科教育法	2	2	×	工業必修 (他の教科は×)
	情報科教育法	2	3	×	情報必修 (他の教科は×)	
	情報科教育法	2	3	×	情報必修 (他の教科は×)	
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	人間と教育	2	2	必修	必修
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職入門	2	2	必修	必修
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育と社会	2	3	必修	必修
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育発達心理学	2	2	必修	必修
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育基礎	1	2	必修	必修
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	履修年次	中学校1種 (理科・技術)	高等学校1種 (理科・工業・情報)
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳指導論	2	3	必修	2
	・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	2	2	必修	必修
	・教育の方法及び技術 【・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)を含む】	教育の方法	2	2	必修	必修
	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	ICT活用の理論と方法	1	2	必修	必修
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生活指導論	2	3	必修	必修
	・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の基礎(中学校・高等学校に焦点づけて)	2	3	必修	必修
教育実践に関する科目	教育実習	事前及び事後指導	1	4	必修	} 2単位 3
		教育実習(中学校)	4	4	必修	
		教育実習(高等学校)	2	4	×	
	学校体験活動					
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	4	必修	必修

×印...指定の免許以外には使えない科目

- 1 高校1種免許(理科)の場合のみ「各教科の指導法」の単位にあてることができる。
- 2 高校1種免許「大学が独自に設定する科目」の単位にあてることができる。
- 3 高等学校免許種のみ取得の場合は、教育実習(高等学校)が必修。中学校免許種と高等学校免許種の両方を取得する場合は、教育実習(中学校)を取得し、2単位を高等学校免許種の教育実習の単位にあてることができる。

表2

中学校教諭1種免許状(理科)、高等学校教諭1種免許状(理科)取得のための
教科に関する専門的事項の履修方法の基準

	施行規則科目	授業科目	単位数	履修年次	中学校1種 (数字は必要単位数)		高等学校1種 (数字は必要単位数)	
					必修	選択必修	必修	選択必修
教科に関する専門的事項	物理学	物理学(力学)	2	1	必修		必修	
		物理学(電磁気学)	2	1	必修		必修	
		熱力学	2	2			必修	
		量子力学	2	2				
		流体力学	2	3				
		統計力学	2	3				
	物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	物理学実験(コンピュータ活用を含む。)	2	2	必修		必修	
	化学	化学	2	1	必修		必修	
		化学	2	1	必修		必修	
		物理化学	2	2			必修	
		基礎有機化学	2	2				
		基礎無機化学	2	2				
		分析化学	2	2				
	化学実験(コンピュータ活用を含む。)	化学実験(コンピュータ活用を含む。)	2	2	必修		必修	
	生物学	生物学	2	1	必修		必修	
		生態学基礎	2	2	必修		必修	
		生物多様性概論	2	2			必修	
		森林生態学	2	3				
		生命環境の科学	2	3				
		生命環境の科学	2	3				
		基礎微生物学	2	1				
		土壌生態学	2	3				
	生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	保全生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	2	3	必修		必修	
		自然環境調査法	1	2				
		生物多様性保全実習	1	3				
		森林調査法	1	2				
	地学	地質学概論	2	2	必修		必修	
		気象学	2	2	必修		必修	
		水循環システム学概論	2	2			必修	
		地球科学	2	1				
地球惑星の科学		2	2					
地球惑星の科学		2	3					
土壌科学		2	2					
水資源利用学		2	2					
地学実験(コンピュータ活用を含む。)	地球環境科学実験(コンピュータ活用を含む。)	2	2又は3	必修		必修		
	地球環境調査法	1	3					
合計単位数					28		36	

1 中学校1種免許状(理科)...必修24単位、選択必修4単位、合計28単位修得

2 高等学校1種免許状(理科)...必修32単位、選択必修4単位、合計36単位修得

表 3

中学校教諭 1 種免許状（技術）、高等学校教諭 1 種免許状（工業）取得のための
 教科に関する専門的事項の履修方法の基準

	施行規則科目 （技術）	施行規則科目 （工業）	授業科目	単位数	履修 年次	中学校 1 種 (数字は必要単位数)		高等学校 1 種 (数字は必要単位数)	
	教 科 に 関 す る 専 門 的 事 項	木材加工 (製図及び実 習を含む。)	工業の 関係科目	木材加工学概論及び実習 (実習を含む。)	2	2	必修	4	必修
CAD/CAM演習(製 図及び実習を含む。)				2	3	必修	必修		
金属加工 (製図及び実 習を含む。)		材料工学		2	2	必修	必修		
		機械材料・加工学(製図 及び実習を含む。)		2	2	必修	必修		
機械 (実習を含 む。)		機構学(実習を含む。)		2	2	必修	必修		
		機械・電気工学実験(実 習を含む。)		2	2	必修	必修		
電気 (実習を含 む。)		人間工学		2	2				
		電気回路(実習を含 む。)		2	2	必修	必修		
		電子回路(実習を含 む。)		2	2				
		パワーエレクトロニクス (実習を含む。)		2	3				
栽培(実習を 含む。)			栽培学概論及び実習 (実習を含む。)	2	1	必修		×	
情報とコ ンピュータ (実習を含 む。)		工業の 関係科目	デジタル信号処理(実習 を含む。)	2	3	必修	必修		
			生体工学実験 (実習を含む。)	2	3	必修	必修		
高分子化学			2	3	×				
医用福祉工学			2	3	×				
基礎物性物理			2	2	×				
資源・エネルギー工学	2		2	×					
制御工学	2		2	×					
環境衛生科学	2		2	×					
計測工学	2		2	×					
	職業指導		職業指導	2	2	×		必修	
合 計 単 位 数						24	34		

1 ×印...該当欄の免許には使えない科目

2 中学校 1 種免許状（技術）...必修 20 単位、選択 4 単位、合計 24 単位修得

3 高等学校 1 種免許状（工業）...必修 20 単位、選択必修 14 単位、合計 34 単位修得

表 4

高等学校教諭 1 種免許状（情報）取得のための教科に関する専門的事項の履修
方法の基準

	施行規則科目	授業科目	単位数	履修年次	高等学校 1 種 (数字は必要単位数)	
教 科 に 関 す る 専 門 的 事 項	情報社会・ 情報倫理	情報社会と情報倫理	2	2	必修	必修以外 の科目 から 18単位 選択
		知的財産権論	2	4		
	コンピュータ・ 情報処理 (実習を含む。)	情報科学概論(実習を含む。)	2	2	必修	
		プログラミング基礎(実習を含む。)	2	1	必修	
		プログラミング(実習を含む。)	2	2		
		プログラミング(実習を含む。)	2	2		
		アルゴリズムとデータ構造(実習を含む。)	2	2		
		形式言語とコンパイラ(実習を含む。)	2	3		
	情報システム (実習を含む。)	ソフトウェア設計開発論(実習を含む。)	2	2	必修	
		プログラミング言語論(実習を含む。)	2	3		
		データベースシステム(実習を含む。)	2	2		
		人工知能と知識処理(実習を含む。)	2	3		
		経営情報システム(実習を含む。)	2	3		
	情報通信ネットワーク (実習を含む。)	ネットワークシステム(実習を含む。)	2	3	必修	
		情報理論	2	3		
	マルチメディア表現 ・マルチメディア技術 (実習を含む。)	マルチメディアシステム論(実習を含む。)	2	3	必修	
		サウンドスケープ	2	3		
情報と職業	情報と職業	2	3	必修		
合 計 単 位 数					32	

高等学校 1 種免許状（情報）...必修 14 単位、選択必修 18 単位、合計 32 単位修得

2. 学芸員資格

共生システム理工学類の学生は、卒業要件に定められた単位の他に、博物館法及び博物館法施行規則（以下「施行規則」という。）により定められた単位等を習得することにより学芸員資格を得ることができます。学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示、調査研究、およびこれらと関連する事業についての専門的事項をつかさどる専門職員です。博物館法上の博物館には、資料館、科学館、動物園・植物園、水族館、郷土館、美術館なども含まれます。これらの単位を修得する際は、学類の本来の学習がおろそかにならないように注意して下さい。また、時間割の都合で、4年間では教員免許などの他の資格を同時に取得できないことがあります。

1. 学芸員資格取得のための履修基準

施行規則により定められている、学芸員資格取得にあたって単位修得しなければならない科目は以下の通りです。

博物館法施行規則に定められた科目		現在の開講科目	単位数	履修年次	区分
必修	生涯学習概論	生涯学習社会と学校・家庭・地域	2	2	必修
	博物館概論	博物館学概論	2	2	必修
	博物館経営論	博物館経営論	2	2	必修
	博物館資料論	博物館資料論	2	2	必修
	博物館資料保存論	博物館資料保存論	2	2	必修
	博物館展示論	博物館展示論	2	2	必修
	博物館教育論	博物館教育論	2	2	必修
	博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2	2	必修
	博物館実習	博物館実習（自然科学系）	3	3	必修

上記の学芸員資格取得のための科目は、学芸員資格取得希望者のみ受講可ですが、学芸員資格取得希望者以外で受講を希望する場合は教務課に相談して下さい。

「生涯学習社会と学校・家庭・地域」最大受け入れ人数は10名とします。履修登録期間中に教務課窓口で履修登録申請の手続きをして下さい。

2. 資格取得希望者の登録

(1) 資格取得希望者（1年次生、2年次生以上も可能）を対象に、12月頃に説明会を行います。その後1～2月頃にある学芸員資格取得希望登録期間に登録をして下さい。

(2) 2年次の12月頃に博物館実習のガイダンスを行います（3年次生以上も参加可能）。資格取得希望者

は必ず出席して下さい。

3. 博物館実習

(1) 博物館実習は 2 週間程度の「学内実習」および 1 週間程度の「館園実習」からなります。「学内実習」では博物館実習の最初と最後に行う「実習事前指導」「実習事後指導」、博物館等を見学する「見学実習」、学内の資料整理等を行う「実務実習」、館園実習の前後に行う「館園実習事前指導」「館園実習事後指導」を行います。「館園実習」では博物館等において、学芸員の業務と博物館運営を体験します。

(2) 博物館実習は、施行規則に定められたその他の必修科目 4 単位以上を修得していないと参加できません。

(3) 博物館実習にかかる経費は、学生が負担することになります。

4. 学芸員資格証明書の発行について

施行規則に定められた所定科目の単位を修得した学生には、卒業時に「学芸員資格証明書」を発行します。「資格取得見込み証明書」等が必要な場合は、教務窓口で相談して下さい。

5. 必要な単位を満たせなかった場合について

卒業までに学芸員資格を得るのに必要な単位を満たすことができなかった場合も、次のいずれかの方法で学芸員資格を取得することが可能です。

(1) 科目等履修生として不足単位を修得する

(2) 学芸員資格認定試験を受験し、合格する

3. 公認心理師受験資格（人間発達文化学類・共生システム理工学類共通事項）

公認心理師の受験資格を得るためには、公認心理師法（平成27年法律第68号）及び同法施行規則（平成29年度文部科学省・厚生労働省令第3号）に定める必要な科目の単位（学類25科目）を修めて卒業し、かつ大学院において必要な科目の単位（10科目）を修得もしくは公認心理師法施行規則第5条で定める施設において2年以上の実務経験に従事することが求められます。受験資格を得ると直近に実施される公認心理師試験を受験することができます。

人間発達文化学類 心理学・幼児教育コースまたは共生システム理工学類 心理・生理コースに所属し、受験資格を得ようとする者は、次の公認心理師カリキュラムの履修基準に従い、24科目48単位を修得したうえで、心理実習2単位（80時間以上）を修得しなければなりません。

1) 公認心理師カリキュラム受講者の受け入れについて

公認心理師カリキュラムで学ぶことができるのは、人間発達文化学類 心理学・幼児教育コースの学生および共生システム理工学類 心理・生理コースの学生です。科目受講者数には明確な人数制限はありません。ただし、「心理実習」に参加できる人数は10名程度とし、学生の適性や成績等により選定することがあります。

なお、公認心理師カリキュラムを履修する学生は、教員免許や保育士資格等の免許資格を同時に取得することはできません。

また、公認心理師カリキュラム履修希望者は、「心理学的支援法」の受講時に希望届を提出する必要があります。

2) 履修基準

公認心理師の受験資格を得るために修得しなければならない単位は、下記の表のとおりとなります。

No	科目名	開講形態	単位数
1	公認心理師の職責	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
2	心理学概論	共生システム理工学類専門科目 (人：心理学・幼児教育コースの学生のみ履修可)	2
3	教育相談の心理（臨床心理学概論）	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
4	心理学研究法	共生システム理工学類専門科目 (人：心理学・幼児教育コースの学生のみ履修可)	2
5	心理学統計法	人間発達文化学類専門科目	2

		(理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	
6	心理学実験	人間発達文化学類専門科目	2
	生体システム実験(心理学実験)	共生システム理工学類専門科目	
7	知覚・認知心理学	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
	知覚・認知心理学	人間発達文化学類専門科目	
8	基礎心理学(学習・言語心理学)	共生システム理工学類専門科目 (人：心理学・幼児教育コースの学生のみ履修可)	2
9	感情・人格心理学	人間発達文化学類専門科目	2
10	神経・生理心理学	人間発達文化学類専門科目	2
	基礎心理学(神経・生理心理学)	共生システム理工学類専門科目 (人：心理学・幼児教育コースの学生のみ履修可)	
11	社会・集団・家族心理学	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
12	発達心理学	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
13	障害者・障害児心理学	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
14	心理的アセスメント	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
15	心理学的支援法	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
16	健康・医療心理学	人間発達文化学類専門科目	2
17	福祉心理学	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
18	教育・学校心理学	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
19	司法・犯罪心理学	人間発達文化学類専門科目	2
20	産業・組織心理学	人間発達文化学類専門科目	2

21	人体の構造と機能及び疾病 (医学概論)	基盤教育科目	2
22	精神疾患とその治療	基盤教育科目	2
23	関係行政論	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可)	2
24	心理演習(注)	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可) 「公認心理師の職責」・「関係行政論」・「心理学的支援法」の単位を修得した者のみ履修可	2
25	心理実習(80時間以上) (保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野における見学実習)(注)	人間発達文化学類専門科目 (理：心理・生理コースの学生のみ履修可) 心理演習の単位を修得した上で、実習参加可とされた者が履修可	2

注) 心理実習については、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設において、見学等による実習を行いながら、実習指導者又は実習担当者による指導を受けること。

3) 心理演習および心理実習の受講について

心理実習の履修は心理演習の単位を修得した上で、実習参加が可とされた者となります。また心理演習の履修についても、制限があります。

4) 公認心理師カリキュラムの履修希望者は、入学後のガイダンスに必ず参加してください。そこでカリキュラム等の説明をします。

20 .カリキュラム・ポリシー、 カリキュラム・マップ

カリキュラム・ポリシー、カリキュラム・マップ

1. カリキュラム・ポリシー

【カリキュラム・ポリシー(教育課程の編制方針)】

共生システム理工学類では、「専門力」「決定力」「実践力」「貢献力」を養うため、1年次には基盤教育と併せて学類共通領域科目を履修させ、2年次よりコースを選択させてコース領域科目を履修させます。3年次後期に研究室に配属し、必修として演習と卒業研究を履修させます。卒業研究により、専門性を確かなものとし、立案決定力や実践力を養成します。学問領域や文系理系の枠を超えた幅広い自由な学びを保障するため、自由選択領域を設けます。

・ 専門力を養うカリキュラム

1年次に数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミング等の理工系の基礎科目を配置するとともに、「共生の科学」などの科目で諸課題を学際的・システムの的に捉える力を養成します。2年次より専門領域を意識したコースを選択させます。各コースでは、それぞれの専門領域に関する専門的な科目を積み上げると共に、現代社会の諸課題を多面的に見つめるための科目を設定し、幅広さと専門性を両立させるカリキュラムを構成します。研究倫理・技術者倫理などを養成するために、3年次にも「共生の科学」を配置します。

・ 決定力を養うカリキュラム

1年次の基盤教育から卒業研究発表まで、多くのプレゼンテーションの場を用意し、表現力および情報発信能力を養成します。各種の実践科目ではグループワーク・グループ討議により、討議を行なう力を養成します。必修である卒業研究では、自ら設定した課題に対して解決する手法を立案して実践するような指導を行ない、専門性を向上させ立案決定力を養成します。

・ 実践力を養うカリキュラム

課題解決を志向した講義科目や実践科目を各コースに配置し、社会での実践の必要性を伝えます。国際経験豊かな教員による講義や演習を中心に、グローバルな視点を伝授します。各コースで行なう実践科目により、講義で得た知識を体験により習熟させるとともに、自主的・

主体的に実践する力を養います。

・ 貢献力を養うカリキュラム

「共生の科学」を始めとする様々な科目で社会に貢献することの重要性を伝えます。各コースに「問題探求演習 II」を設け、課題解決に向けて貢献する力を養成します。地域に密着した大学として、震災からの復興・過疎化や少子高齢化への対応・産業の育成などに貢献している研究室が多数あり、地域の諸団体との交流も盛んです。学生がこれらの活動に直接的・間接的に関与することにより、地域課題に貢献する意欲と力が養成されます。

共生システム理工学類 数理・情報科学コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次			
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共生の科学	共生の科学			共生の科学		< 凡例 > □ : 必修科目 □ : 選択必修科目 □ : 学群・学類共通領域 □ : コース領域(必修科目) □ : コース領域(選択必修科目) □ : コース領域(実践科目) □ : 演習・卒業研究			
数学 (解析学)	数理科学系科目	基礎解析学	基礎解析学	基礎解析学					
数学 (線形代数)		線形写像と幾何	線形写像と幾何						
		集合と位相	集合と位相						
		離散数学		応用数学	応用数学				
	情報科学系科目		課題探求セミナー	数理・情報学ゼミ	数理・情報学ゼミ				演習
		情報科学概論	プログラミング言語論	マルチメディアシステム論	人工知能と知識処理				演習
		計算機システム論		ネットワークシステム	情報理論				卒業研究
		情報社会と情報倫理							卒業研究
	情報科学実践系科目		ソフトウェア設計開発論	形式言語とコンパイラ					
			データベースシステム						
			アルゴリズムとデータ構造	アルゴリズムとデータ構造 II					
		プログラミング基礎	プログラミング	プログラミング	プログラミング	応用情報学演習			
	数学 (統計学)	数理モデリング	オペレーションズ・リサーチ						
		経営のデータ科学		経営情報システム					
		経営工学							
物理学 (力学)	物理学 (電磁気学)		人間工学	デジタル信号処理					
化学	化学								
生物学									
地球科学									
			教員免許科目	* 情報科教育法					
				* 情報科教育法II					

共生システム理工学類 経営システムコース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学	共生の科学			共生の科学		< 凡例 > □ : 必修科目 □ : 選択必修科目 ■ : 学群・学類共通領域 ■ : コース領域(必修科目) ■ : コース領域(選択必修科目) ■ : コース領域(実践科目) ■ : 演習・卒業研究	
数学 (解析学)		離散数学		応用数学	応用数学		
数学 (線形代数学)	数学 (確率統計学)	数理モデリング					
		基礎解析学	基礎解析学	基礎解析学			
		入門統計学	統計学概論				
物理学 (力学)	物理学 (電磁気学)		生物・地球環境システム概論				
化学	化学						
生物学							
地球科学							
	プログラミング基礎	プログラミング	プログラミング	プログラミング			
		情報科学概論	データベースシステム				
			アルゴリズムとデータ構造				
			ソフトウェア設計開発論		人工知能と知識処理		
	経営システム	経営システム概論	経営システム演習	経営システム演習	演習	演習	
		経営工学	問題探究セミナー			卒業研究	卒業研究
		経営のデータ科学	オペレーションズ・リサーチ	経営情報システム			
		産業・社会調査法	循環型産業論	エコロジカル経済学			
		社会調査論	科学技術と環境の倫理学	環境経済学			
	経営論		基礎経営学	経営情報分析			
			基礎経営学	地域企業経営論			
			経営戦略論	国際経営論			
	製品開発系	地域と経済		計量経済学			
		心理学概論	製品開発概論	CAD/CAM演習		知的財産権論	
	生産系	生産管理概論	人間工学				
		入門会計学	品質管理				
			原価計算	原価計算			
	流通系		管理会計	コスト・マネジメント			
		流通管理概論	サプライチェーン・マネジメント				
			都市計画概論	都市計画論			

共生システム理工学類 物理・システム工学コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学	共生の科学	物理・システム工学演習	問題探究セミナー	共生の科学	演習	演習	
数学 (解析学)						卒業研究	卒業研究
数学 (線形代数学)	数学 (統計学)	基礎解析学	基礎解析学	基礎解析学			
		線形写像と幾何	線形写像と幾何	解析学	解析学		
物理学 (力学)	物理学 (電磁気学)	物理学実験	機械・電気工学実験			知的財産権論	
化学	化学	化学実験					
生物学							
地球科学	プログラミング基礎	プログラミング	プログラミング			人工知能と知識処理	
		情報科学概論	アルゴリズムとデータ構造				
		計算機システム論					
		数理モデリング AB	計測工学 BF	デジタル信号処理 B			
			制御工学 B				
		基礎物性物理	量子力学 A	統計力学 A			
		物理化学		放射線科学 A			
		熱力学 D	機器分析	流体力学 D			
		材料力学 CD	機械材料・加工学 C	CAD/CAM演習			
		材料工学 C					
		機構学 D					
		電気回路 E	電子回路 E	パワーエレクトロニクス E			
			人間工学 F	医用福祉工学 F	生体工学実験 F		
		脳神経科学	システム生理学				
		心理学概論	基礎心理学	心理学研究法			
		*技術科教育法	*理科教育法	*理科教育法	*理科教育法		
		*技術科教育法	*理科教育法				
		*技術科教育法	*技術科教育法				
		*工業科教育法	*工業科教育法				

< 凡例 >

: 必修科目
 : 選択必修科目
 : 学群・学類共通領域
 : コース領域(必修科目)
 : コース領域(選択必修科目)
 : コース領域(実践科目)
 : 演習・卒業研究

推奨される組み合わせ (: 必修)

A: 現代物理 数理モデリング 量子力学 統計力学 ・放射線科学	B: 制御・信号処理 数理モデリング 計測工学 制御工学 デジタル信号処理	C: 機械材料 材料力学 材料工学 ・機械材料・加工学	D: 機械 材料力学 流体力学 熱力学	E: 電気 電気回路 電子回路 パワーエレクトロニクス	F: 生体工学 計測工学 人間工学 ・医用福祉工学 ・生体工学実験
---	--	---	-------------------------------------	---	--

共生システム理工学類 物質科学コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次		
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共生の科学	共生の科学			共生の科学		<凡例> [] : 必修科目 [] : 選択必修科目 [] : 学群・学類共通領域 [] : コース領域(必修科目) [] : コース領域(選択必修科目) [] : コース領域(実践科目) [] : 演習・卒業研究		
数学 (解析学)								
数学 (線形代数学)	数学 (確率統計学)	基礎解析学	基礎解析学					
	プログラミング基礎							
物理学 (力学)	物理学 (電磁気学)	熱力学	量子力学					
		基礎物性物理		CAD/CAM演習				
		材料力学	機械材料・加工学					
		電気回路	電子回路					
		物理学実験						
化学	化学	物理化学		放射線科学	演習	演習		
	コースコア 科目	基礎無機化学	無機化学	発展無機化学		卒業研究		
		基礎有機化学	有機化学	高分子化学			卒業研究	
		分析化学	機器分析					
		材料工学	化学工学					
		環境衛生科学	資源・エネルギー工学		再生可能エネルギー	再生可能エネルギー		
			生化学					
		化学実験	化学実験	化学実験				
			問題探究セミナー					
生物学		生物多様性概論	生態学基礎				サイエンスライティング演習	
地球科学		地質学概論						
		気象学						
			製品開発概論			知的財産権論		
			品質管理					
			循環型産業論					
			理科教育法					
			理科教育法	理科教育法	理科教育法			

共生システム理工学類 エネルギーコース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学	共生の科学			共生の科学		<凡例> □ : 必修科目 □ : 選択必修科目 ■ : 学群・学類共通領域 ■ : コース領域(必修科目) ■ : コース領域(選択必修科目) ■ : コース領域(実践科目) ■ : 演習・卒業研究	
数学 (解析学)		基礎解析学			基礎解析学		
数学 (線形代数学)	数学 (確率統計学)						
	プログラミング基礎						
物理学 (力学)	物理学 (電磁気学)	基礎物性物理		流体力学			
		電気回路	計測工学	パワーエレクトロニクス			
		材料力学	制御工学				
		熱力学		放射線科学			
		物理学実験					
		材料工学					
化学	化学	物理化学	機器分析	基礎無機化学	無機化学	発展無機化学	
		分析化学	有機化学				
		基礎有機化学	生化学	高分子化学			
		環境衛生科学	化学実験II				
		化学実験	生物・地球環境システム概論				
生物学			環境保全論		生態学基礎		
			環境微生物学				
地球科学		水循環システム学概論	流域水文学	気象学			
		地質学概論	地下水盆管理学				
			資源・エネルギー工学	再生可能エネルギーI	再生可能エネルギーII		
			化学工学				
		エネルギー資源調査I	エネルギー資源調査II				
			機械・電気工学実験		演習	演習	
			問題探究セミナー			卒業研究	
						卒業研究	
		経営工学	循環型産業論	エコロジカル経済学			
			都市計画概論	社会計画概論			
			社会計画演習I	環境計画論			

共生システム理工学類 生物環境コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次				
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
共生の科学	共生の科学			共生の科学		< 凡例 > □ : 必修科目 □ : 選択必修科目 ■ : 学群・学類共通領域 ■ : コース領域(必修科目) ■ : コース領域(選択必修科目) ■ : コース領域(実践科目) ■ : 演習・卒業研究				
数学 (解析学)	プログラミング基礎									
数学 (線形代数学)	数学 (確率統計学)									
物理学 (力学)	物理学 (電磁気学)									
化学	化学									
生物学										
地球科学										
	生物環境 全般	生物多様性概論	生態学基礎	保全生物学実験				演習	演習	
		自然環境調査法	問題探究セミナー	森林生態学					卒業研究	サイエンスライティング 演習
		森林調査法	環境微生物学	生命環境の科学I						卒業研究
		他大学野外実習	生物・地球環境 システム概論	土壌・水圏微生物学実験						
		他大学野外実習	環境保全論	生物多様性保全実習						
			保全遺伝学							
			考古学	考古学						
		生物環境 保全系	水環境システム学概論	流域水文学			水理学演習			
			地質学概論	地下水盆管理学	水循環システム学					
			環境計画論	気象学	エコロジカル経済学		都市計画論			
	心理学概論		都市計画概論	環境文化論						
			資源・エネルギー工学	サウンドスケープ						
			社会情報分析							
			基礎心理学1							
			基礎心理学2							
	気象データ解析		地球環境科学実験A	地球環境科学実験B						
				地球環境調査法						
	生物環境 分析系	基礎有機化学	生化学	放射線科学						
		分析化学	機器分析	高分子化学						
		基礎無機化学	有機化学							
		化学実験								
	理科教員免許 関連		理科教育法	理科教育法	理科教育法					
				理科教育法						
	学芸員 資格関連	博物館資料論								
		博物館学概論								
		博物館教育論								
		博物館資料保存論								
		博物館展示論								
		博物館経営論								
		博物館情報・メディア論								

共生システム理工学類 地球環境コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学	共生の科学			共生の科学			
数学 (解析学)	数学 (確率統計学)	基礎解析学	基礎解析学	基礎解析学			
数学 (線形代数学)		線型写像と幾何	解析学	解析学			
物理学 (力学)	物理学 (電磁気学)	物理学実験	線型写像と幾何				
化学	化学	化学実験					
		基礎無機化学					
		基礎有機化学					
生物学							
地球科学							
	プログラミング基礎	情報社会と情報倫理					
		情報科学概論					
		プログラミング	プログラミング				
		地質学概論	生物・地球環境システム概論	水循環システム学	水理学演習		
		水循環システム学概論	地下水益管理学	地球環境科学実験B	演習	演習	
		気象学	流域水文学	地球環境調査法		卒業研究	卒業研究
		気象データ解析	問題探究セミナー	「地球環境科学実験A」と「地球環境科学実験B」は内容が同じであるため、どちらか一方を履修すればよい。			
			地球環境科学実験A				
		生物多様性概論	環境微生物学	流体力学			サイエンスライティング演習
		分析化学	環境保全論	統計力学			
		熱力学	保全遺伝学	森林生態学			
		環境衛生科学	生態学基礎	保全生物学実験			
		環境計画論	機器分析	土壌・水圏微生物学実験			
		自然環境調査法	都市計画概論	生物多様性保全実習			
		森林調査法					
			理科教育法				
			理科教育法	理科教育法	理科教育法		

< 凡例 >

- : 必修科目
- (点線) : 選択必修科目
- (黄) : 学群・学類共通領域
- (緑) : コース領域(必修科目)
- (青) : コース領域(選択必修科目)
- (紫) : コース領域(実践科目)
- (灰) : 演習・卒業研究

合計12単位以上が必要

コース基礎科目群

コースコア科目群

コース推奨科目群

教員免許科目群

共生システム理工学類 社会計画コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共生の科学	共生の科学			共生の科学			
数学 (解析学)	数学 (確率統計学)				応用数学		
数学 (線形代数)							
	プログラミング基礎	プログラミング					
物理学 (力学)	物理学 (電磁気学)	熱力学	資源・エネルギー工学	再生可能エネルギー	再生可能エネルギー		
化学	化学						
地球科学		水環境システム学概論	地下水盆管理学	水循環システム学			
	理工系 専門科目	地質学概論	流域水文学				
		気象学	地球環境科学実験	地球環境調査法			
			生物・地球環境システム概論				
		生物多様性概論	生態学基礎	森林生態学			
		自然環境調査法		生物多様性保全実習			
		森林調査法	生体システム実験				
		環境衛生科学		放射線科学			
			循環型産業論	エコジカル経済学			知的財産権論
		心理学概論					
			社会計画概論	環境保全論			
	社会計画 コア科目	環境計画論	環境文化論	サウンドスケープ	演習	演習	
			都市計画概論	都市計画論		卒業研究	卒業研究
		社会調査論	社会情報分析				
			社会計画演習	社会計画演習			
			問題探究セミナー				
		科学技術と環境の倫理学					
	人文社会系 専門科目	地域社会学		地域政策論	社会福祉論		
		都市とまちづくりの地理学		社会政策	地域福祉論		
		地域環境論			情報社会論		
		行政学					
		行政学					
		流通管理概論	地域経済論	環境経済学			
		知覚・認知心理学					
		社会・集団・家族心理学					

< 凡例 >

- : 必修科目
- : 選択必修科目
- : 学群・学類共通領域
- : コース基礎科目 (必修)
- : コース専門科目 (選択必修)
- : コース実践科目
- : 演習・卒業研究

注: このマップは社会計画コースの科目群をマップにしたものであり, Cap制度の上限は考慮していない。

共生システム理工学類 心理生理コース カリキュラムマップ

1年次		2年次		3年次		4年次		
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">共生の科学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">数学 (解析学)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">数学 (線形代数)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">物理学 (力学)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">化学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">生物学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">地球科学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">精神疾患とその治療+</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">共生の科学</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">数学 (統計学)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">物理学 (電磁気学)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">化学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">プログラミング基礎</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">人体の構造と機能及び疾病+</div>	<p style="color: red; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">コースコア科目</p> <div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">心理学概論+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">知覚・認知心理学+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">社会・集団・家族心理学+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">心理学的支援法+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">発達心理学+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">教育・学校心理学+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">脳神経科学</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">公認心理師の職責+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">基礎有機化学</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">基礎無機化学</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">生物多様性概論</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">分析化学</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">情報科学概論</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">環境計画論</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">基礎解析学Ⅰ</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">社会調査論</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">食と健康</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">解剖学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">物理学実験</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">化学実験</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">プログラミング</div> </div> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">基礎心理学+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">基礎心理学+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">障害者・障害児心理学+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">産業・組織心理学+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">教育相談の心理(臨床心理学概論)+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">心理統計法+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">生体システム実験+</div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;">(夏季集中)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">感情・人格心理学+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">福祉心理学+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">システム生理学</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">関係行政論+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">社会情報分析</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">生態学基礎</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">人間工学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">生物・地球環境システム概論</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">計測工学</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">生理学(運動生理学)</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">生化学</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">環境文化論</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">プログラミング</div> </div> </div> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">共生の科学</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">心理学研究法+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">健康・医療心理学+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">心理的アセスメント+</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">司法・犯罪心理学+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">心理演習+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">生命環境の科学Ⅰ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">サウンドスケープ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">医用福祉工学</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">卒業研究</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">演習</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">卒業研究</div>	<p style="color: red; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">周辺領域関連科目</p> <div style="border: 2px dashed red; padding: 5px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">心理実習(80時間以上)+</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">生体工学実験</div> </div>	

< 凡例 >

- : 必修科目
- : 選択必修科目
- : 学群・学類共通領域
- : コース領域(必修科目)
- : コース領域(選択必修科目)
- : コース領域(実践科目)
- : 演習・卒業研究
- +** は公認心理師関連科目

2 1 . グローバル特修プログラムの履修について

グローバル特修プログラムの履修について

皆さんは、自分の将来を考えて専門分野の知識や技能を深めることを目的に、入学されたと思います。しかし、大学で開講される多種多様な科目群から自分の興味・関心にあった科目を系統立てて履修することは、それほど簡単なことではありません。そこで、福島大学では、現代の多文化社会において必要とされる教養を身につけ、多様な文化的背景を持つ人々と協働し、グローバル化する社会を担っていく力を身につけたい学生のために「グローバル特修プログラム」を用意しました。以下の「グローバル教養プログラム」と「英語グレードアッププログラム」の二つを提供します。

グローバル教養プログラム

「グローバル教養プログラム」は、グローバル化する社会を理解するために必要な知識や技能を身につけたい学生のために、基盤教育科目、学類専門教育科目、短期語学研修等から構成されるプログラムです。これまで出会ったことのない新しい問題に、グローバルな視点から対応する力を身につけてください。

以下に示す要認定単位数（30単位）を修得し、指定の外部試験のスコア取得を証明する書類を提出することでプログラム修了とみなします。要認定単位数を満たした後に、教務課にて申請手続きを行ってください。

領域区分	科目区分		開設科目等	セメスター	1科目単位数	要認定単位数	
						必修	選択
基盤教育	接続領域	外国語コミュニケーション科目	英語・英語以外の外国語	1～	1	4	4
	教養領域	外国語科目	英語・英語以外の外国語	1～	1	2	
		学術基礎科目	グローバル教養プログラム科目	1～	2		
	問題探究領域	問題探究科目	グローバル教養プログラム科目	1～	2		
基盤教育 小計						10	
専門教育	学類専門科目		グローバル教養プログラム科目	1～	2	4	14
その他	短期語学研修			2～	1又は2		
	交流協定校認定科目			2～	1又は2		
	外部資格試験認定			1～	2	2	
専門教育 + その他 小計						20	
基盤教育 + 専門教育 + その他 計						30	

【グローバル教養プログラム科目】

授業内容等はシラバスで確認をしてください。

区分	授業科目名	履修年次	学類等	備考
基盤	英語A	1	基盤	
基盤	英語A	1	基盤	
基盤	英語B	2	基盤	
基盤	英語B	2	基盤	
基盤	応用英語 ~	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎	1	基盤	
基盤	フランス語基礎	1	基盤	
基盤	中国語基礎	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎	1	基盤	
基盤	フランス語基礎	1	基盤	
基盤	中国語基礎	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎(特設)	1	基盤	
基盤	フランス語基礎(特設)	1	基盤	
基盤	中国語基礎(特設)	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎(特設)	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎(特設)	1	基盤	
基盤	ドイツ語基礎(特設)	1	基盤	
基盤	フランス語基礎(特設)	1	基盤	
基盤	中国語基礎(特設)	1	基盤	
基盤	ロシア語基礎(特設)	1	基盤	
基盤	韓国朝鮮語基礎(特設)	1	基盤	
基盤	ドイツ語応用	2	基盤	
基盤	フランス語応用	2	基盤	
基盤	中国語応用	2	基盤	
基盤	ロシア語応用	2	基盤	
基盤	韓国朝鮮語応用	2	基盤	

基盤	ドイツ語応用	2	基盤	
基盤	フランス語応用	2	基盤	
基盤	中国語応用	2	基盤	
基盤	ロシア語応用	2	基盤	
基盤	韓国朝鮮語応用	2	基盤	
基盤	ことばの仕組み	1	学術	
基盤	グローバル災害論	1	問題	
基盤	アジア共同体構想	1	問題	
専門	教育の歴史	2	人間	
専門	西洋教育思想	2	人間	
専門	産業・組織心理学	2	人間	
専門	社会・集団・家族心理学	2	人間	履修にあたって条件があるので、履修希望者はシラバス参照
専門	社会的養護	2	人間	
専門	知的障害者教育指導法	3	人間	
専門	知的障害者の行動分析	2	人間	
専門	調理実習	2	人間	
専門	人間と衣服	3	人間	
専門	芸術と環境	3	人間	
専門	映像メディア論	2	人間	
専門	現代アートマネジメント	1	人間	
専門	絵画	1	人間	
専門	美術解剖学	2	人間	
専門	芸術学	3	人間	
専門	美術史	3	人間	
専門	アジア言語文化論	2	人間	
専門	アジア言語文化論	2	人間	
専門	伝統言語文化論	2	人間	
専門	ドイツ語圏の言語と文化	2	人間	
専門	異文化理解	2	人間	
専門	外国史概説	2	人間	
専門	世界地誌	2	人間	

専門	東洋近現代社会史	2	人間	
専門	東洋近世社会史	2	人間	
専門	東洋古代・中世社会史	2	人間	
専門	ヨーロッパ近世・近代史	2	人間	
専門	ヨーロッパ古代・中世史	2	人間	
専門	ヨーロッパ近・現代史	2	人間	
専門	確率論・統計学	2	人間	
専門	スポーツ政策論	3	人間	
専門	スポーツ文化史	2	人間	
専門	異文化交流演習	2	人間	
専門	比較地域文化論	2	行政	
専門	言語文化論	3	行政	
専門	言語文化論	3	行政	
専門	国際文化交流論	3	行政	
専門	欧米文化論	3	行政	
専門	欧米文化論	3	行政	
専門	英語コミュニケーション A	3	行政	
専門	英語コミュニケーション B	3	行政	
専門	英語コミュニケーション C	3	行政	
専門	English Presentations	3	行政	
専門	English Presentations	3	行政	
専門	中国語コミュニケーション	3	行政	
専門	中国語コミュニケーション	3	行政	
専門	外書講読(英語)	3	行政	
専門	外書講読(英語)	3	行政	
専門	外書講読(非英)	3	行政	
専門	外書講読(非英)	3	行政	
専門	国際法	3	行政	
専門	国際法	3	行政	
専門	外国史概論	2	行政	
専門	国際政治論	3	行政	
専門	国際政治論	3	行政	
専門	言語文化論	2	行政(夜)	

専門	国際文化交流論	2	行政(夜)	
専門	欧米文化論	2	行政(夜)	
専門	外国語コミュニケーション文化	2	行政(夜)	
専門	現代文化論	1	行政(夜)	
専門	国際関係と法	2	行政(夜)	
専門	現代の国際政治	2	行政(夜)	
専門	多文化理解	1	経済	
専門	国際関係論	2	経済	
専門	国際公共政策論	3	経済	
専門	比較社会論	3	経済	
専門	言語コミュニケーション論	3	経済	
専門	日英比較言語論	3	経済	
専門	英語圏文化スタディーズ	3	経済	
専門	ヨーロッパ文化スタディーズ	3	経済	
専門	アジア文化スタディーズ	3	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習	1	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習	1	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習	1	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習	1	経済	
専門	中国語アドバンスト演習	1	経済	
専門	中国語アドバンスト演習	1	経済	

専門	ロシア語アドバンスト演習	1	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習	1	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習	1	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習	1	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習	2	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習	2	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習	2	経済	
専門	ドイツ語アドバンスト演習	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習	2	経済	
専門	フランス語アドバンスト演習	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習	2	経済	
専門	中国語アドバンスト演習	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習	2	経済	
専門	ロシア語アドバンスト演習	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習	2	経済	
専門	韓国朝鮮語アドバンスト演習	2	経済	
専門	ドイツ語実践演習	2	経済	
専門	ドイツ語実践演習	3	経済	
専門	ロシア語実践演習	2	経済	
専門	ロシア語実践演習	3	経済	
専門	中国語実践演習	2	経済	
専門	韓国朝鮮語実践演習	2	経済	
専門	Japan Study Program	2	経済	
専門	Japan Study Program	2	経済	

専門	Japan Study Program	2	経済	
専門	Japan Study Program	2	経済	
専門	Work Experience Abroad	2	経済	
専門	Work Experience Abroad	2	経済	
専門	集合と位相Ⅰ(藤本)	2	理工	
専門	集合と位相Ⅱ(藤本)	2	理工	
自由	海外演習(随時開講)	2	理工	
専門	生物多様性概論(黒沢)	2	理工	
専門	保全遺伝学(兼子)	2	理工	
専門	地下水盆管理学(柴崎)	2	理工	
専門	気象学(吉田)	2	理工	
専門	環境文化論(後藤)	2	理工	
専門	問題探究セミナー(心理生理コース)	2	理工	
専門	流通管理概論(石川)	2	理工	
専門	サプライチェーンマネジメント(石川)	2	理工	
専門	食農実践英語演習	3	食農	
専門	森林科学	2	食農	
専門	世界の食料と農業	2	食農	
専門	土壌科学	2	食農	
専門	畜産学概論	2	食農	
専門	稲作学	2	食農	
専門	蔬菜・花き園芸学	2	食農	
専門	食品加工学Ⅱ	3	食農	
専門	植物病理学	3	食農	
専門	飼料資源学	3	食農	
専門	応用昆虫学	3	食農	
専門	農村計画学	3	食農	
専門	食品マーケティング論	3	食農	
専門	アグリビジネス論	3	食農	
専門	環境保全型農業論	3	食農	

各資格試験の認定要件（英語）

資格試験名	認定要件
実用英語技能検定 CSE スコア (日本英語検定協会)	2125 以上
TOEIC L & R + S & W (Educational Testing Service)	1355 以上
TOEFL (iBT) (Educational Testing Service)	57 以上
IELTS (International English Language Testing System)	4.5 以上
ケンブリッジ英語検定試験 (Cambridge English Qualifications)	150 以上
GTEC (Global Test of English Communication)	1075 以上
TEAP (Test of English for Academic Purposes)	267 以上
TEAP (CBT) (Test of English for Academic Purposes)	510 以上

各資格試験の認定要件（英語以外の外国語）

資格試験名	認定要件
ドイツ語技能検定試験 (ドイツ語学文学振興会)	4 級
共通ヨーロッパ語学証明書 - ドイツ語 (欧州理事会文化協調会議教育委員会)	A1
実用フランス語技能検定試験 (フランス語教育振興協会)	4 級

フランス文部省認定フランス語資格試験 DELF・DALF (DELF・DALF 委員会)	A1
中国語検定試験 (日本中国語検定協会)	4級
H S K 漢語水準考試 (孔子学院総部 / 国家漢弁)	2級
ロシア語能力検定公開試験 (東京ロシア語学院)	4級
韓国語能力試験 (韓国教育財団)	2級

外部資格試験は、英語・英語以外の外国語からそれぞれ一つまで認定します。その場合、一方を必修2単位、他方を選択2単位に算入します。

英語グレードアッププログラム

「英語グレードアッププログラム」は、基盤教育の必修科目を履修した後、さらに英語学習を継続し、学類専門教育科目、国際交流センターが開講する英語による講義科目などの履修を通して、海外留学・海外インターンシップなどに繋げるためのプログラムです。卒業時まで、英検の準1級程度、TOEIC L&R test の700点台に相当する英語運用能力の修得を目標としています。具体的には、「講義や研修での課題図書など、まとまった量の英文の要点を理解することができる」、「講演や講義など、興味・関心のある話題に関するまとまりのある話を理解することができる」、「自分の仕事や専門分野に関する講義や発表などを聞いて、それについて質問したり自分の考えを述べたりすることができる」、「講義の内容や新聞の記事など、興味・関心のある話題について、聞いたり読んだりした内容の要約を書くことができる」などです。

国際交流センターが開講する英語による講義科目を履修するためには、英検 CSE スコア 2200、TOEIC L&R test 600、IELTS 5.0、TOEFL iBT 60 程度の英語力が推奨されます。詳細は各科目のシラバスを参照してください。

以下に示す要認定単位数（30単位）を修得し、指定の外部試験のスコア取得を証明する書類を提出することでプログラム修了とみなします。要認定単位数を満たした後に、教務課にて申請手続きを行ってください。

領域区分	科目区分		開設科目等	セメスター	1科目 単位数	要認定単位数	
						必修	選択
基盤教育	接続領域	外国語コミュニケーション科目	英語	1~	1	4	
	教養領域	外国語科目	英語	1~	1	4	2
	問題探究領域	自主学修プログラム	留学準備等自主学修プログラム	1~	1又は2		
	基盤教育 小計						10
専門教育	学類専門科目		英語グレードアッププログラム科目	1~	2	12	
	専門教育 小計						12
その他	国際交流センター開講科目		英語による講義	1~	1又は2		6
	短期語学研修			2~	1又は2		
	交流協定校認定科目			2~	1又は2		
	外部資格試験認定			1~	2	2	
	その他 小計						8
基盤教育 + 専門教育 + その他 計						30	

【英語グレードアッププログラム科目】

授業内容等はシラバスで確認をしてください。

区分	授業科目名	履修年次	学類等	備考
基盤	英語A	1	基盤	
基盤	英語A	1	基盤	
基盤	英語B	2	基盤	
基盤	英語B	2	基盤	
基盤	応用英語 ~	1	基盤	
基盤	自主学修プログラム(留学準備等)	1	問題	
専門	英語学概論	2	人間	
専門	英語意味論	2	人間	
専門	初期近代英米文学	2	人間	
専門	英米文学演習	2	人間	
専門	英米文学演習	3	人間	
専門	異文化理解	2	人間	
専門	英語コミュニケーション	2	人間	
専門	英語コミュニケーション	2	人間	

専門	英語コミュニケーション	2	人間	
専門	英語コミュニケーション	1	人間	
専門	英語コミュニケーション	3	人間	
専門	英語コミュニケーション	3	人間	
専門	英語音声学	1	人間	
専門	英語コミュニケーション A	3	行政	
専門	英語コミュニケーション B	3	行政	
専門	英語コミュニケーション C	3	行政	
専門	English Presentations	3	行政	
専門	English Presentations	3	行政	
専門	言語コミュニケーション論	3	経済	
専門	日英比較言語論	3	経済	
専門	英語圏文化スタディーズ	3	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	英語アドバンスト演習	1	経済	
専門	Japan Study Program	2	経済	
専門	Japan Study Program	2	経済	
専門	Japan Study Program	2	経済	
専門	Japan Study Program	2	経済	
専門	Work Experience Abroad	2	経済	
専門	Work Experience Abroad	2	経済	
専門	集合と位相 I (藤本)	2	理工	
専門	集合と位相 II(藤本)	2	理工	

自由	海外演習（随時開講）	2	理工	
専門	問題探究セミナー（心理生理コース）	2	理工	
その他	Interpretation Exercises	2	国セ	
その他	Fukushima's History and Culture	2	国セ	
その他	Understanding Post-Disaster Fukushima	2	国セ	
その他	Popular Culture in Japan	2	国セ	

各資格試験の認定要件（英語）

資格試験名	スコア
実用英語技能検定 CSE スコア (日本英語検定協会)	2305 以上
TOEIC L & R + S & W (Educational Testing Service)	1560 以上
TOEFL (iBT) (Educational Testing Service)	72 以上
IELTS (International English Language Testing System)	5.5 以上
ケンブリッジ英語検定試験 (Cambridge English Qualifications)	160 以上
GTEC (Global Test of English Communication)	1190 以上
TEAP (Test of English for Academic Purposes)	309 以上
TEAP (CBT) (Test of English for Academic Purposes)	600 以上

2 2 . 地域実践特修プログラム の履修について

地域実践特修プログラムの履修について

「地域実践特修プログラム」は、地域に根ざしたプロジェクト学習を幅広く体験できるよう基盤教育科目と学類専門教育科目とを組み合わせた科目です。本学の特徴ともいえる「解のない問い」にチャレンジする学生を育成する科目の中心的な位置づけとなる特修プログラムです。

より実践的な力を身につけたい学生は「むらの大学」などのプロジェクト科目を受講し、「自主学修プログラム」などを利用して複数年にわたってプロジェクトを継続します。一般的には、「ふくしま未来学入門」および「ふくしま未来学入門」などの「地域実践特修プログラム」科目を受講し、卒業要件に定められた単位の他に、下記の履修基準表に示す要認定単位数（30単位）を修得することで地域実践特修プログラム修了と見なします。

要認定単位数を満たした後に、教務課へ認定申請手続きを行ってください。

区分	科目区分		開設科目等	セメスター	1科目 単位数	要認定 単位数	
						必修	選択
基盤教育	教養領域	学術基礎科目	地域実践特修プログラム科目	1～	2		12
		問題探究セミナー	問題探究セミナーⅠ	2	2		
	問題探究領域	問題探究科目	むらの大学	1～	2	2	
			ふくしま未来学入門Ⅰ	1～	2		
			ふくしま未来学入門Ⅱ	2～	2		
			その他の問題探究科目	1～	2		
		自主学修プログラム	1～	1又は2			
基盤教育 小計						16	
専門教育	問題探究セミナー	問題探究セミナーⅡ	3～	2	2		
	学類専門科目	地域実践特修プログラム科目	1～	2		12	
専門教育 小計						14	
基盤教育+専門教育 計						30	

2022年度地域実践特修プログラム科目 *は開放科目を示す。

地域実践特修プログラムは、今後要件等の変更があります。LiveCampus及び掲示板でお知らせしますので、確認するようお願いします。

区分	学類等	授業科目名	備考
基盤	(人)	倫理学	
基盤	(社)	市民と法	2022年度欠講
基盤	(社)	地域論	2022年度欠講
基盤	(社)	社会論	2022年度欠講
基盤	(社)	地理学	
基盤	(社)	歴史学	
基盤	(社)	歴史学	2022年度欠講
基盤	(社)	日本国憲法	
基盤	(社)	経済学	
基盤	(社)	農業と人間	
基盤	(社)	政治学	
基盤	(社)	経営学	
基盤	(社)	ジェンダー学入門	
基盤	(社)	経済学	2022年度欠講
基盤	(自)	環境の科学	2022年度欠講
基盤	(自)	環境の科学	
基盤	(自)	環境の科学	
基盤	(問)	大学で学ぶ	
基盤	(問)	福島ブランド農業	
基盤	(問)	ボランティア論	
基盤	(問)	グローバル災害論	
基盤	(問)	生活探究演習	
基盤	(問)	映画の世界・映画と世界	2022年度欠講
基盤	(問)	哲学カフェ	
基盤	(問)	ふくしま未来学入門	
基盤	(問)	ふくしま未来学入門	
基盤	(問)	災害復興支援学	
基盤	(問)	成年年齢引き下げと政策的課題	2022年度欠講
基盤	(問)	アジア共同体構想	2022年度欠講
基盤	(問)	環境放射能学入門	
基盤	(問)	震災農村復興論	
基盤	(問)	評価論入門	
基盤	(問)	再生可能エネルギー	2022年度欠講
基盤	(問)	むらの大学	
基盤	(問)	放射線入門	
基盤	(問)	NPO論	2022年度欠講
基盤	(問)	立ち直り支援と地域社会	
基盤	(問)	データ分析入門	
基盤	(問)	暮らしと仕事と大学生	
基盤	(問)	都市計画と「まちづくり」	
基盤	(問)	地域と世界の未来をつくる科学と数学	
基盤	(問)	社会とデータの基礎	
基盤		自主学修プログラム	
基盤	食農	農場基礎実習 (問題探究セミナー)	

専門	人間	* 現代アートマネジメント	
専門	人間	* 未来創造教育論	
専門	人間	* 科学技術と環境の倫理学	
専門	人間	* 自然災害と人間	
専門	人間	* 気候環境と人間	
専門	人間	* 都市とまちづくりの地理学	
専門	人間	食料生産と国土保全の地理学	2022年度欠講
専門	人間	* 地域文化の総合研究	
専門	人間	* 現代社会と地域計画	
専門	人間	* 食と健康（人間）	
専門	人間	* 住環境学	2022年度欠講
専門	人間	* 生涯スポーツ論	
専門	人間	* スポーツ政策論	
専門	人間	スポーツ企画演習	
専門	人間	自然体験実習	
専門	人間	地域教育実践	
専門	人間	芸術と環境	
専門	行政	憲法（人権）	×
専門	行政	憲法（人権）	
専門	行政	民法（総則・不法行為）	×
専門	行政	民法総則	
専門	行政	民法（不法行為）	
専門	行政	民法（債権）	×
専門	行政	民法（債権総論）	
専門	行政	民法（債権各論）	
専門	行政	刑法	
専門	行政	刑法	
専門	行政	行政法（総論）	×
専門	行政	行政法総論	
専門	行政	法社会学	
専門	行政	法社会学	
専門	行政	民事裁判法	
専門	行政	民事裁判法	2022年度欠講
専門	行政	地方政治論	
専門	行政	公共政策論	2022年度欠講
専門	行政	地方行政論	
専門	行政	社会計画論	
専門	行政	地域環境論	
専門	行政	情報社会論	
専門	行政	社会調査論	
専門	行政	地域史	
専門	行政	地域史	
専門	行政	国際文化交流論	
専門	行政	古文書学実習	
専門	行政	考古学実習	

専門	経済	専門演習（吉田樹）	
専門	経済	開発経済学	
専門	経済	環境経済学	
専門	経済	経済政策	
専門	経済	交通政策論	
専門	経済	国際関係論	
専門	経済	国際公共政策論	
専門	経済	産業組織と規制の経済学	
専門	経済	社会政策	
専門	経済	地域企業経営論	
専門	経済	地域経済論	
専門	経済	地域政策論	
専門	経済	地域と経済	
専門	経済	調査法II（フィールド）	
専門	経済	労働経済	
専門	理工	経営工学	
専門	理工	流通管理概論	
専門	理工	エコロジカル経済学	
専門	理工	循環型産業論	
専門	理工	社会計画概論	
専門	理工	社会計画演習	
専門	理工	社会計画演習	
専門	理工	環境計画論	
専門	理工	環境文化論	
専門	理工	再生可能エネルギーI	
専門	理工	再生可能エネルギーII	2022年度欠講
専門	理工	放射線科学	
専門	理工	水循環システム学	2022年度欠講
専門	理工	水循環システム学概論	2022年度欠講
専門	理工	環境衛生科学	
専門	理工	環境保全論	
専門	理工	都市計画概論	
専門	食農	農場基礎実習	
専門	食農	食農実践演習	
専門	食農	食農実践演習	
専門	食農	食農実践演習	
専門・経済「財務諸表論II」は、学類からの申し出により2021年度から対象外			

2 3 . 他学類の専門教育科目等 の履修について

他学類の専門教育科目等の履修について

(1) 自由選択の科目になるもの

専門教育科目の中には、他学類生の受講が認められている科目があります。

これらの科目は、自由選択の単位として計上することができ、最大で、他大学で修得した単位等とあわせて60単位まで修得することができます。(ちなみに自由選択の単位は、専門教育科目だけでなく、基盤教育科目を含む必修、選択必修を超えて修得した単位が自由選択の単位として計上されます。)

他学類の科目を履修できるのは、人間発達文化学類、共生システム理工学類、食農学類では1年次生以上、行政政策学類、経済経営学類では2年次生以上で、かつ当該科目の履修セメスター以上になっていることが必要です。ただし、受講者数等の事情により、他学類生について、優先的に受講制限を行う場合があります。

また、他学類の科目であることから、履修開始後に「思っていた内容と違った」「授業の内容が難しすぎた」ということが、しばしば見受けられます。履修登録をする前に、シラバスで前提として求められる基礎知識、講義の水準等をよく確認して選ぶことをお勧めします。対象となる科目については、巻末の「開放科目一覧」を確認してください。

(2) 専門教育科目になるもの

他学類の教員が担当する専門教育科目の中には、各学類において自学類の専門教育科目として履修基準に位置づけている科目があります。これらの科目は、自学類の科目と同様に履修することができます。ただし、教室収容人数等の事情により、受講者数に制限を設ける場合があります。

対象となる科目については、各学類の専門教育科目の一覧を確認してください。

(3) 夜間主開講科目について

本学には、行政政策学類の「夜間主」と、人文社会学群の「(旧)現代教養コース」に所属している学生のために、夜間(6~7時限目)や土曜日に開講される科目があります。

これらの科目は、昼間の学生は受講できません。行政政策学類の学生に限り、夜間主開講の問題探究科目を受講できる場合があります。

(4) 掲示等の確認について

当該科目に係る休講や教室変更、担当教員からの連絡等については、当該科目の開講学類掲示版で確認してください。

24 . 転学類について

転学類について

入学後に学習を進めるなかで、興味や関心が変わることも十分に考えられます。そのような場合のために、転学類制度があります。ただし自分の選んだ進路を大きく変更することになりますので、新たに授業科目を取り直すことも必要になり「4年間で卒業できない」、「教員免許など希望していた資格が取得できない」といった事態が生じる可能性がありますので、安易な気持ちでこの制度を利用することのないように留意してください。

【参考】福島大学学則より

(転学類)

第24条 本学の学生で、他の学類に転学類を希望する者に対しては、当該他学類で選考の上、転学類を許可することがある。

なお、本制度は受け入れる学類において選考時期や要件などが異なりますので、詳細は掲示板等でご案内します。(3セメスター時)

25 . 他大学及び大学以外の教育施設 等における学修の単位認定について

他大学等及び大学以外の教育施設における学修の単位認定について

本学で修得した授業科目の他に、他の大学（短大含む）等で修得した単位や検定試験等学外における学修の成果を、本学類で修得の求められている授業科目の単位とみなし、一定の範囲で卒業要件単位や本学独自に定めている各種特修プログラムや履修コースの単位として認定する場合があります。これらの単位は合わせて 60 単位を上限としています。

1. 他大学等との単位互換科目の認定

本学では、以下の大学等との間で大学間単位互換協定を締結しています。

茨城大学、宇都宮大学、会津大学、医療創生大学、郡山女子大学、日本大学工学部、東日本国際大学、福島学院大学、福島県立医科大学、放送大学、会津大学短期大学部、いわき短期大学、郡山女子大学短期大学部、桜の聖母短期大学、福島学院大学短期大学部、福島工業高等専門学校

これは、本学に在学したまま他大学の特別聴講学生（協定により相手大学が受入れる学生）としての受入れ申請を行い、認められた場合、当該大学において開講される授業科目を履修できるものです。この場合、修得した授業科目の単位を本学で修得したものとみなします。

なお、詳細については毎年 3 月中旬にライブキャンパス及び掲示等でお知らせしますので、履修希望者は留意してください。

2. 「国際共修ネットワークによる大学教育の内なる国際化の加速と世界展開（ICL プロジェクト）」科目の単位認定

本学では、東北大学、東京外国語大学、信州大学、大阪大学、神戸大学と国際共修（ICL）科目の単位互換協定を締結しています。国際共修（ICL）科目は、留学生と国内学生の協働が授業に組み入れており、多くの科目が英語で開講されます。

原則、オンライン授業となりますので、受講の際に、各自パソコンやインターネット環境等が必要となります。詳細については、ICL プロジェクトウェブサイト、ライブキャンパス、掲示板等でお知らせします。

ICL プロジェクトウェブサイト ICL-Channels <https://intercul.ihe.tohoku.ac.jp/icl/>

3. 能力検定試験等の学修成果の認定

英語や英語以外の外国語に関して、能力判定のための各種検定試験や語学研修の結果等をもって、本学で修得した単位として認める場合があります。詳細は「グローバル特修プログラム」の説明や関係規程等を参照してください。

4．入学前在籍大学等での既修得単位

本学に入学する前に在籍していた大学や短期大学等で修得した単位は、本学で修得すべき授業科目の単位に充当できる場合があります。入学手続きの案内に記載のあるように、該当者は定められた期日までに申し出てください。なお、当該授業科目の単位・成績証明書や授業内容のわかるシラバス等の提出が必要となります。

26 . 大学間交流協定に基づく学 生派遣について

大学間交流協定に基づく学生派遣について

本学では大学間交流協定に基づき海外の53大学と学術交流協定を締結しています。また、以下の35大学と学生交流協定を締結しており、交換留学をはじめとした学生の派遣・受入れによる交流を行っています。学生交流協定を締結している大学については、留学先大学への入学料、検定料、授業料の納入は免除されます。ただし、留学期間中、福島大学に授業料を納入する必要があります。その他、渡航費、生活費など、留学に関わる費用は自己負担となります。以下の海外協定大学への交換留学を希望する学生は、国際交流センターへお問合せ下さい。

学生交流協定締結大学 17カ国・地域 35大学

国名・地域	協定先	URL
中国	華東師範大学	http://www.ecnu.edu.cn
	河北大学	http://www.hbu.edu.cn
	重慶理工大学	http://www.cqut.edu.cn
台湾	国立台北大学	https://www.ntpu.edu.tw
	文藻外語大学	http://www.wzu.edu.tw
韓国	韓国外国語大学校	http://www.hufs.ac.kr http://international.hufs.ac.kr (留学生用)
	ソウル市立大学校	https://www.uos.ac.kr
	中央大学校	http://neweng.cau.ac.kr
	培材大学校	http://www.pcu.ac.kr
フィリピン	アテネオ・デ・マニラ大学	http://www.ateneo.edu
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学	https://www.vnu.edu.vn
	トゥイロイ大学	http://en.tlu.edu.vn
アメリカ合衆国	ニューヨーク州立大学アルバニー校	http://www.albany.edu
	コロラド州立大学	http://www.colostate.edu
	オザークス大学	http://www.ozarks.edu
	サンフランシスコ州立大学	http://www.sfsu.edu
	セント・トーマス大学	https://www.stthom.edu
	ルイジアナ州立大学	https://lsu.edu
英国	グラスゴー大学	https://www.gla.ac.uk
	ノーサンブリア大学	https://www.northumbria.ac.uk
ドイツ	ルール大学ボーフム	http://www.ruhr-uni-bochum.de
	ハノーファー大学	https://www.uni-hannover.de
	ルードヴィヒスハーフェン経済大学	http://www.hs-lu.de
	ミュンスター応用科学大学	https://en.fh-muenster.de
オランダ	ハンザUAS・フローニンゲン大学	https://www.hanze.nl
スペイン	サラゴサ大学	https://www.unizar.es
セルビア	ベオグラード大学	http://www.bg.ac.rs
ルーマニア	ブカレスト大学	https://uni-buc.ro
ハンガリー	カーロリ・ゲーシュパール・カルビン派大学	http://www.kre.hu
スロベニア	リュブリャナ大学	http://www.uni-lj.si
ベラルーシ	ベラルーシ国立大学	http://www.bsu.by
ロシア	極東国立交通大学	http://en.dvgups.ru
トルコ	アンカラ大学	http://www.ankara.edu.tr
	中東工科大学	http://www.metu.edu.tr
	エーゲ大学	別途、国際交流センターまでお問い合わせください

1. 派遣人数および対象学類等（全学類、研究科対象）

協定先	人数
河北大学	5名以内
その他の協定校	原則2名以内

派遣・受入れの状況により、年度毎の派遣人数は調整される場合があります。

2. 応募資格等

- ・海外派遣留学応募時点で本学の学生であること。
- ・派遣先大学での単位取得または専門の研究をする目的が明確であること
- ・語学条件が設定されている協定校について、国際交流センターが定める語学要件を満たしている者。
- ・留学期間終了後、本学で卒業・修了できる者。

なお、応募の時点で非正規生である者、成績不良により最低修業年限を経過している者は対象外とします。

3. 留学期間

留学期間は半年～1年間です。渡航月は協定校により異なり、8～10月となります。

4. 派遣までの日程

2022年度は下記のとおり募集します。募集は、国際交流センターの掲示板やホームページにて行います。なお、日程については、変更になる可能性もあります。

2022年11月上旬～2023年1月末	募集
2023年2月上旬～中旬	面接選考
2023年2月下旬	派遣内定
2023年3月～7月	交換留学に向けての準備期間 (ビザの取得、航空券の手配)
2023年6月下旬	派遣者説明会の開催 (危機管理、渡航前手続きや奨学金等の説明)
2023年8月～10月	派遣先大学へ出発

詳細は、国際交流センターの掲示板やホームページで確認してください。

派遣先大学から受入許可が下りて正式に派遣決定となります。選考により派遣内定を得た場合であっても、受入許可が下りない場合は派遣が取り消されます。

派遣学生は、日本学生支援機構等から給付型奨学金を受給できる可能性があります。給付金額は、地域によって異なりますが、1ヶ月あたり3～10万円となります。

国際交流センター

S棟 1階（平日：9：00-12：30 / 13：30-17：00）

TEL：024-503-3066

E-mail：ryugaku@adb.fukukushima-u.ac.jp

27．履修上の諸手続きについて

履修上の諸手続きについて

1. 学生への連絡方法等

学生に対する全ての諸連絡は、共通講義棟（S棟）2階（基盤教育、行政政策学類(夜間主含む)、経済経営学類、共生システム理工学類、食農学類、現代教養コース）、M棟1階（人間発達文化学類）掲示板に掲示します。休講や授業に関する連絡事項など教務上の全ての諸案内は、「学修案内」に記載する他、掲示により周知することになるので、毎日掲示板を見る習慣を身に付け、見落としによる過誤が生じないようにしてください。

なお、休講・補講等の情報はLCにより閲覧できます。

また、基盤教育科目及び他学類の授業科目に関しての連絡等は、当該学類等の掲示板に掲示されますので見落とさないよう留意してください。

掲示物には履修や成績に関わる重要な内容が記載されていますので、絶対にはがしたり、汚損したりしないようにしてください。

2. 証明書の発行手続き

(1) 証明書自動発行機で発行するもの

在学証明書、成績証明書、卒業見込み証明書、JRの学割証及び通学定期券購入証明書は、共通講義棟（S棟）2階（教務課前）に設置の自動発行機により、交付を受けることができます。利用できる時間は8:30～20:30ですが、日・祝日・年末年始の休業日及び大学行事により講義棟への出入りの出来ない日は利用できないので、必要日から余裕を持って手続きをしてください。

請求には情報処理センターから発行される、IDとパスワードが必要です。発行機にトラブルが生じた時は、至急対応しますので教務課職員にお知らせください。

卒業後の証明書申請手続きは、本学のHPに掲載されています。発行まで時間のかかる場合もありますので、余裕を持って申請してください。

なお、成績証明書等の厳封を必要とする場合は、証明書自動発行機で交付された証明書を窓口を持参のうえ申し込んでください。

自動発行機で取得できる証明書

学割証	最大、1日3枚まで発行できます。
在学証明書	-
JR通学定期券購入証明書	LCに学籍情報を登録していて、定期券が必要な地域に在住の学生のみ発行できます。
成績証明書	-
卒業見込証明書・ 修了見込証明書	LCの就職システムに志望調査登録をした最高学年の学類生、大学院生を対象に発行します。
教育職員免許状 取得見込証明書	教員免許の資格希望を出している最高学年の学類生、大学院生を対象に発行します。
身体検査証明書	保健管理センターで定期検診を受けた学類生、大学院生のみ。 また、異常が認められた学生には発行されません。

(2) 窓口で発行するもの

上記(1)以外の証明書については、教務課各学類係で交付します。教務課事務室にある申請書に必要事項を記入の上、教務課各学類係に申請してください。なお、申し込みの翌日以降の発行となりますので、余裕をもって申し込んでください。

3. 休退学の願出

休学、退学を希望する事態が生じた場合は所定の手続きが必要となるので、速やかに教務課各学類係に相談してください。休学や退学の異動の場合は授業料の納入期と関わりが生じ、手続きの遅れが多大な経済的負担を生じる場合がありますので、次のことに留意ください。

(1) 授業料は年間2回に分け(前期・後期)その納入期限を前期は4月に、後期は10月に納入することになっています。納入方法は入学時に届け出た銀行等の口座より引き落としとなるので期日までに所定額を入金しておいてください。(2) 休学や退学の事由が生じた場合、在籍している学期分の授業料は納入しなければならなくなるので留意してください。

このため、9月及び3月時の学期末に生じた異動は速やかに教務課各学類係まで申し出る必要があります。

4. 改姓の届出

改姓をした場合は、教務課各学類係に申し出てください。

5. 窓口受付時間

窓口受付時間は、原則として下記の曜日・時間です。

曜日	月～金
受付時間	9:00～12:30
	13:30～17:00
	17:00～19:40(夜間主生のみ)

【注意事項等】

特別の場合を除き、窓口時間外の受け付けは一切行いません。また、土曜・日曜・祝日・休日、入学試験当日及びその準備期間など、別途掲示した期間においても窓口業務を行いません。

電話による質問や問合せは誤解や間違いを生じる可能性があるので一切応じられません。受付時間内に直接窓口に来てください。また、外部からの学生呼び出し等連絡を依頼されても、応じられません。

掲示等について不明な点がある場合は、窓口で確認するようにしてください。

2 8 . 各種問い合わせ窓口・ 福島大学案内図

各種問い合わせ窓口について（学生関係窓口を中心に）

問い合わせ内容		担当窓口
身上 関係	学生証の紛失	<教務課> 人間発達文化学類係： T E L 024-548-8106 mail:k-ningen@adb.fukushima-u.ac.jp
	休学、退学、改姓・改名、転学類の手続き	
教務 関係	履修基準や専門領域科目の履修に関する相談	共生システム理工学類係： T E L 024-548-8357 mail:k-rikou@adb.fukushima-u.ac.jp
	試験について	行政政策学類係： T E L 024-548-8255 mail:kyoumu2@adb.fukushima-u.ac.jp
	教員免許状、公認心理師ほか資格関係	経済経営学類係： T E L 024-548-8356 mail:k-keizai@adb.fukushima-u.ac.jp
	教育職員免許状取得見込証明書・英文の証明書等	食農学類係： T E L 024-549-0061 mail:k-syokunou@adb.fukushima-u.ac.jp
	地域実践特修プログラム（ふくしま未来学） グローバル特修プログラム の履修について	
	ライブキャンパス（LC）について （学籍情報の登録や住所・電話番号の変更、履修登録の方法等）Lポートフォリオ	<教務課> 教務情報係： T E L 024-548-4070 mail:kyomujoho@adb.fukushima-u.ac.jp
	S棟・M棟・L棟の教室を借りたい場合	<教務課> 基盤教育係： T E L 024-548-8057 mail:kyotu@adb.fukushima-u.ac.jp
	接続領域科目や教養領域科目、問題探究領域科目について	
	インターンシップ（単位認定型）について	
	科目等履修生、研究生等について	<教務課> 教務企画係： T E L 024-548-8053 mail:k-kikaku@adb.fukushima-u.ac.jp
単位互換について		
福利 厚生 ・ 学生 生活 ・ その他	就職・進路（企業求人、公務員・教員採用試験等） についての相談	<キャリアセンター> TEL 024-548-8108 mail:shushoku@adb.fukushima-u.ac.jp
	アルバイトに関すること	
	インターンシップ（自由応募型）について	
	学内での忘れ物・落とし物	<学生・留学生課> T E L 024-548-8054 mail:gakusei-kagai@adb.fukushima-u.ac.jp
	サークル活動で施設を借りたい場合	

福利 厚生 ・ 学生 生活 ・ その他	奨学生及び奨学金についての相談	< 学生・留学生課 > T E L 024-548-8060 mail: gakusei-s@adb.fukushima-u.ac.jp
	入学料・授業料の免除・徴収猶予について	
	授業料の納入について	< 財務課 > T E L 024-548-8015
	健康についての相談、健康診断書が欲しい場合	< 保健管理センター > T E L 024-548-8068 mail: hcc-admin@ipc.fukushima-u.ac.jp
	学生生活上の様々な悩み事などの相談	< 学生総合相談室 > T E L 024-548-5156 mail: g-soudan@ipc.fukushima-u.ac.jp
	障がいのある学生の支援について	< アクセシビリティ支援室 > T E L 024-503-3258 mail: a-shien@ipc.fukushima-u.ac.jp
	教育研究災害傷害保険等について	< 福大生協 > T E L 024-548-5141
	BYOD について	mail : byod@adb.fukushima-u.ac.jp
	センターアカウント、センターウェブメール、学内ネットワークについて	< 情報基盤センター > T E L 024-548-8018 mail : ipc-office@adb.fukushima-u.ac.jp
留学・国際交流	留学や国際交流活動についての相談 外国人留学生の生活全般や在留資格等に関する相談	< 国際交流センター > TEL 024-503-3066 024-503-3067 mail: ryugaku@adb.fukushima-u.ac.jp

【場所】教務課は S 棟 2 F、学生・留学生課、国際交流センターは S 棟 1 F、キャリアセンターは S 棟 3 F、財務課は事務局棟 2 F、保健管理センターは事務局棟裏、附属図書館、情報基盤センターは S 棟 M 棟の北側、学生総合相談室・アクセシビリティ支援室は大学会館 2 F、福大生協は大学会館 1 F にあります。

(各建物の配置は裏表紙のキャンパスマップを参照してください。)

キャンパスマップ

自然に囲まれたキャンパス 自然とともに学ぶ

5学類・4研究科が1つのキャンパスで学んでいます。



教務課（共生システム理工学類係）

TEL 024 - 548 - 8357

FAX 024 - 548 - 8224

窓口取扱時間

月曜～金曜	9：00～12：30、13：30～17：00
土・日・祝日	

その他、長期休業期間の一部、一般入試期間については、窓口が閉鎖される場合があります。詳しくは、教務関係日程表又は掲示板上でご確認ください。



〒960 - 1296 福島市金谷川 1 番地

福島大学共生システム理工学類

学籍番号	
氏 名	